

280
×
下

名人忌辰錄

附俳優忌辰錄

下卷



故關根只誠遺稿  
 名人忌辰錄下卷索隱

う一ウ  
 為上五ウ  
 の三才  
 於上十九才

く三ウ  
 や五才  
 米八才  
 け十二才

ふ十一才  
 こ十三ウ  
 印十五ウ  
 毛十六才



名人忌辰録下卷

うの部

上田晚庵 半仙

名練字世澄號水竹通稱八藏天保六未年九月十一日歿す歳五十一芝二本極清林寺に葬る

上田陸舟

名望字士幹善淵男松平左京侯の臣嘉永五子年正月十一日歿す目黒正覺寺に葬る

上田素鏡 隨古堂

字思文稱與五郎信州上田の人俳師内藤素水門人書を能す明和八卯年正月廿八日歿す歳七十四淺草新堀永見寺に葬る

上田秋成 餘齋

號無腸鶉の屋と號す加藤宇万伎に國書を習ひ文才ありて戲作多し文化六亥年十一月廿六日歿す歳七十八洛東南禪寺地中西福寺に葬る(秋成實は生田傳八郎の子と云)

上田威之 止々齋

字淳父稱利兵衛號半九窩書法を岡本保考に學び後一家を成す上田流と云文政九戌年十二月廿六日歿す歳七十二

上野海門

名義剛字士柔紀州の人始は藥商にして玉屋市兵衛と稱す徂徠の學術を慕ひて私淑し後又甘谷に學び儒となる延享元子年歿す歳五十九忌日未詳

あさき 十七才  
 けいめい 廿六才  
 こも 廿三才  
 せす 廿七才

大師流ふらひ

小野銅書

關根只誠編

上柳牧齋

四明の男、名敬基字公簡初號珍石寛政四子年正月十一日歿す歳五十六京極勝圓寺に葬る

上柳四明

名啓字公通庵原氏寛政二戌年七月廿九日歿す歳八十京極勝圓寺に葬る

鵜殿士寧 孟一

稱左膳服部南郭の門人(河口靜齋門人とも云ふ)安永三年十月廿三日歿す歳六十五伊皿子長應寺に葬る

宇治加賀椽 好澄

姓徳田氏伊勢宮内門弟始加賀大夫元祿十子年唱歌を集めたるを紫竹集と云此年六十三になりければ七九集と云を紫竹集の文字に改めしなり實永八卯年正月廿一日歿す歳七十八京二條川東順妙寺に葬る

内田陶丘 廷輝

本姓渡邊内田に改む文化戌年三月七日歿す歳四十八廣尾光林寺に葬る

内田南山

名士顯字長卿稱外記丹波の人龜山侯に仕ふ觀海門人寛政二戌年六月六日歿す歳七十三芝愛宕下天徳寺地中隨養院に葬る

内田九一 重

肥州長崎の人東京淺草萱町に始めて寫眞場を開き繁昌せり明治八年二月十七日歿す歳三十二足立郡柳戸村に神葬す

内田玄淳

寛延三年九月六日歿す歳五十二

内田叔明 鶴洲

名升號頑石道人終身婚と官とを欲せず飲斗酒を盡す寛政八辰年十二月十二日歿す歳六十一廣尾光林寺に葬る

内山賀邸 椿軒

名淳時稱傳藏賀邸は號也儒にてし和歌を善くす幕府の士橘洲蜀山菅江等此人に學ぶと云ふ天明八申年十一月九日歿す市谷七軒町鳳林寺に葬る

内山眞龍

加茂眞淵翁門人文政四巳年八月廿二日歿す歳八十二

宇治紫文齋

淺草材木町名主勝田權左衛門隱居五代目一七代目一中と不和と成り別一流を開き宇治紫文齋と改む安政五年二月廿三日歿す年六十八淺草常林寺に葬る

鶴飼權平 稱齋

名眞泰字子權金平子享保五年八月十日歿す歳六十九駒込龍光寺に葬る

鶴飼金平 鍊齋

名眞昌字子敏石齋子元祿六年四月十一日歿す歳六十一駒込龍光寺に葬る

鶴飼石齋 信之

字子直那波活所の門人姓藤原號眞節寛文四年七月廿一日歿す歳四十九駒込龍光寺に葬る

歌川豊春 一龍齋

俗稱但馬屋庄三郎別號潛龍齋歌川流七十八淺草菊屋橋本立寺に葬る本所押上春慶寺にも碑有り(豊春は豊後臼杵の人京師に來て鶴澤探鯨を師とす後江戸に來て石川豊信の門に入り流行す時裝を畫き一家を爲せり又操芝居士佐結城兩座の看板を畫く是安永中の事なり始め芝三島町に住し後剃髮して潛翁と改め赤坂田町に住す)

大仙寺に葬る法號深修院法山信士(國芳の初代豊國門人父は本銀町一丁目染物職柳屋吉右衛門始り勝川春英が書風を學び二世豊國が門に入り居を米澤町後和泉町に移す一時二世豊國を凌ぐの勢ありしかば某の狂句に「よしがはびこつて渡し場の邪魔になり」よし國芳渡し場は五渡亭なり)

歌川國政 一壽齋

本姓會津氏奥州會津の人初代豊國高弟此人より豊國の門人に國の字を付る事を始む文化七年十一月晦日歿す歳三十八

歌川國輝 一雄齋

明治七年十二月十五日歿す歳四十五龜戸村法蓮寺に葬る

歌川國貞 一雄齋

二世豊國門人始め一壽齋國政安政二年故豊國長女なべ女の聲と成り二世國貞と改む明治十三年七月二十日歿す歳五十八龜戸村光明寺に葬る

歌川國重 一龍齋

初代豊國門人俗稱源藏後二世豊國と改め障有て又元の國重と成る天保六年十一月朔日歿す歳五十九

宇田川玄隨 槐園

名晋字明卿津山藩醫茅場町に住す寛政六巳年十二月十八日歿す歳四十三淺草誓願寺地中長安院に葬る

宇田川玄眞 榛齋

槐園の男名璞津山藩醫天保五年十二月四日歿す歳六十六誓願寺地中長安院に葬る

歌澤大和太椽 笹丸

舊幕の旗下笹本彦太郎隱居近世す歳六十三(笹丸小唄を好み遂に御家人芝山金助疊職虎屋虎右衛門等と示合せ安政二年小唄の一流を弘む是歌澤の元祖なり依て笹丸は歌澤の家元と成る安政四年六月受

歌川豊國 一陽齋

俗稱熊吉歌川豊春の門人文政八酉年正月七日歿す歳五十七三田聖坂功運寺に葬る

歌川豊宣

明治十九年八月十日歿す歳二十九

歌川豊國 香蝶樓

通稱角田庄藏始め號一雄齋後一陽齋又五渡亭樹園月波樓富堂山人富眺庵等の號有り元治元年十二月十五日歿す歳七十九本所龜戸村光明寺に葬る(此翁は初代豊國門人にて初名國貞父は角田庄兵衛俳諧を能くし五橋亭翠雷と云ふ天明七年八月十六日歿す歳六十九國貞本所五ツ目に在りて渡舟の株式を所有する故に五渡亭の號あり(蜀山人此號を送りしと云ふ)又天保四年より英一桂の門に入て英一蝶と號す(香蝶樓と號するも一蝶が實名信香の香と一蝶の蝶をとりて名づけたるよし)近來浮世繪の名人と稱す文化の初年龜戸村に移住す天保十五年正月師一陽齋豊國の號を嗣ぎ二世豊國と稱す豊國は則三世豊國なり弘化二年春薙髮して背造と改め龜戸村の居を門人國久(次女の婿)に譲り柳島に隱居す因に云國重文政の末故豊國の後家に通じて此名前を貰ひ二世豊國と名乗る此時にや或人の吟に「歌川をうたがはしくも名ものりえて二世の豊國腹の豊くに」かくて同門一同不承知にて遂に素人と成り本郷三丁目に住し瀬戸物商をなす)

歌川豊廣 一柳齋

俗稱藤次郎豊春門弟江戸の人芝片門合巻の長篇類を畫きしは豊廣に始る文政十一年子五月廿三日歿す歳五十六(著作堂雜記には六月廿日歿す廿二日送葬年六十とあり)

歌川國芳 朝櫻樓

俗稱井草孫三郎號一勇齋文久元酉年三月四日歿す歳六十五淺草八軒幸町

領して大和太椽と成り本所割下水に住す此後芝金と虎右衛門不和を生し芝金の哥澤土佐太夫虎右衛門は歌澤相摸太夫と改め二派に別れ哥歌とかきかへたるもをかし)

宇都宮一角 圭齋

字文甫號三的又圭齋享保九辰年九月廿四日歿す歳三十洛東智恩院に葬る

宇都宮遯庵 由的

名三近號拙齋岩國の人吉川侯儒臣松年五月二日歿す歳七十七洛東智恩院に葬る

宇都宮龍潭

弘化二巳年十月四日歿す歳三十

宇都宮文平 玉山

名由己周防岩國八享保九辰年九月廿四日歿す歳三十洛東智恩院に葬る

宇都宮恕齋

名知方圭齋子遯庵孫享保三戌年九月廿六日歿す歳二十二洛東智恩院に葬る

采女

新吉原京町雁金屋徳右衛門抱散茶柴又村に生る淺六日なり歳廿一同所出山寺に葬る辭世の歌といふは一名をそれといはずともしれ猿澤のあとを鏡が池にうつして

海上隨鷗

初め稻村三伯と云ふ因州の人蘭學に精通してハルマ和解を著す蘭對譯辭書なり文化八未年正月十六日歿す歳五十四京建仁寺に碑あり

浦上春琴

玉堂男稱喜一郎號紀蓮字伯舉弘化三年五月二日歿す歳六十八京本能寺に葬る

浦上玉堂

紀氏備前の人京に住し文人書を能くす文政三年辰年九月四日歿す歳七十六京本能寺に葬る

雲室上人

名了帆字公軌信州飯山光蓮寺に生る儒學の宇佐美潛水門書は玄對に學ぶ後西久保光明寺住職たり文政十年五月九日寂す歳七十五

宇井默齋

姓九子名弘篤字信卿稱小一郎肥前唐津侯の茶道坊天明年丑年十一月廿六日歿す歳五十七京東山高臺寺に葬る

宇野新

字士新延享二丑年四月十七日歿す歳六十五

雨夜菴龜成

明和六丑年六月廿五日歿す牛嶋弘福寺に葬る

雨華菴抱一文詮

本姓酒井氏名暉眞號屠龍又庭伯文政十一子年十一月廿九日歿す歳六十八西本願寺に葬る(抱一師は酒井忠恭侯の男初名忠因寛政七年秋京本願寺に入り文和上人の準連枝と成り剃髪して等覺院文詮と稱す僧官權大僧都に昇進す其後江戸に下り淺草千束村に居り又金杉村篤塚に移る依て篤郎と云ふ始末紫石に學び後尾形光琳を慕ひ遂に其蘊奥を極む文化十三年光琳が百年忌に梅莊鞠塲を京小川妙顯寺に遺し其墓に奠せしむ又石碑を墳上に建つ俳諧は馬場存義を師とす亦狂名を尻明猿人と云ふ)

雨華菴鶯蒲獅現

二世雨華菴、抱一の猶子名詮眞號伴清天保十二丑年歿す歳三十四

宇佐美惠助瀧水

名惠字迪上總夷潛郡の人祖徠の門人雲州侯儒臣安永五申年八月九日歿す歳六十七四谷戒行寺に葬る

宇佐美默齋

名昌益號默齋居士文化十一戌年正月十二日歿す本郷三念寺に葬る

浮田一蕙

名可爲稱藏之介京の人畫所寄人たり時勢を慨して東西に奔走し勤王攘夷論を唱へて江戸の獄に囚はれ後免されて安政六未年十一月十四日歿す歳六十五洛西華光寺に葬る明治廿四年正四位を贈らる

奕に紛敷とて忽ち御咎をうけ所拂の刑を申付らる依て家を子に譲り其身は菊屋卯兵衛と改め中の郷にひそみ菊卯といへり翌年秋剃髪して鞠塲と名乗り同九年諸先生の恵により寺島村の田地を二千餘坪買求めて開拓し廣庭とせり諸大家より梅樹を三百六十本惠され外に秋草を添へて園地とせり是を花屋敷とも新梅屋敷とも云ふ五代目白猿戯れに「山師来て何やら栽るし隅田川」

梅澤台陽

通稱和助御家流の書道を能くす安政六未年十一月廿五日歿す歳六十三白山連花寺地中延壽寺に葬る

梅澤西郊

名肅字維文號驪虞堂稱彌十郎金峩門人一橋府に仕ふ天明三寅年八月廿三日歿す歳五十六四谷北寺町全長寺に葬る

梅本樵溪

號月下園弘化三年八月十六日歿す歳五十四本郷六丁目喜福寺に葬る

海野遊翁幸典

本姓滋野氏通稱源兵衛幕府の士前場默軒門人嘉永元年十一月十一日歿す歳六十年込早稲田宗眞寺に葬る

鵜士寧

鵜殿を見よ

植田蟠龍

名景雄稱六太夫寶曆三酉年十月八日歿す歳五十一洛玉泉院に葬る

植田竹溪

名景貞稱太一郎京の人峰山侯に仕ふ寛保三亥年六月八日歿す歳五十九洛玉泉院に葬る

植溜季梁然々居士

名棟渾澤田東江門人天明八申年七月十六日歿す歳四十三淺草満泉寺に葬る

梅暮里谷峩薜亭

久留米藩士通稱反町三郎助後改て與左衛門(本所理堀邸に住す大目付役)文政四巳年九月三日歿す歳七十二麻布古川曹溪寺に葬る

梅田源次郎雲濱

名定明若狭の人安政四年勤王攘夷論を唱へて捕へられ小笠原左京大夫殿御預中安政六未年九月十四日病死歳四十四

梅辻規清飛彈

京都上加茂社人幼名禎作文久元百年六月二十二日八丈島に歿す歳六十四(規清は寛政十年五月十九日京師に生る午年午月の日誕生依て三年翁とも稱す天保の末江戸に出て神道の講釋を諸方にてなす然るに異説申觸候とて弘化四年二月廿一日寺社奉行所へ被召捕揚屋入吟味の上同年五月廿七日落着遠島被申渡粹大内藏へ押込同年六月出帆在島十五ヶ年文久元年八月將軍御上洛に付御赦の御沙汰有り因て御船手山下民之助八丈島に渡り赦狀可有之處其年六月廿二日死亡に付空敷歸船せしと云ふ)

梅辻春樵

安政四巳年二月十七日歿す歳八十

梅屋霍子鶴壽

通稱室田又兵衛後佐助一號鶴芝慶應元二年正月十一日歿す歳六十三辭世つまづくがさいと此世のいとまごひひま行く駒におくりおはかみ

梅屋鞠塲平兵衛

本姓佐原氏向島梅屋敷の開起人なり草阿部川町正念寺塔中觀妙寺に葬る(鞠塲は仙臺の人平八とて若年にして江戸に來り堺町芝居茶屋和泉屋勤十郎の雇人と成り平藏と改む貯財して享和初年住吉町に骨董店を開き北野屋平兵衛と改名し諸大家に立入り大に利潤を得て長谷川町に轉居す日に茶人文墨の名家つとめて益々賑はへり文化七年一會を催し道具市せり賣と名付く博

植松有信松蔭

尾張の人本居宣長門文化十寅年六月十五日歿す歳五十六

植松茂岳

有信の男明治九年三月廿日歿す歳八十三

植木筑峯

名金字子蘭稱善藏河口靜齋門人常陸の人安永三年年十二月廿二日歿す歳五十五聖坂功運寺に葬る

烏石葛辰君岳

幼名平吉親は下職すさきり也廣澤門人京に遊びて親鸞上人念佛の事に携りて咎を蒙り赦免後洛に住す安永八亥年九月廿三日京地に歿す歳八十一南禪寺に葬る(松下烏石を參觀せよ)

白田畏齋

名可久稱五郎左衛門備前の人本姓坂口氏元祿三年年十月七日歿す四十六淺草寶塔寺に葬る

の乃部

野呂介石

名隆年字松齡號十友紀州和歌山の人書法を伊字九に學ぶ文政十一子年三月十四日歿す歳八十二和歌山吹上護念寺に葬る

野呂惟省陶齋

天保九戌年七月六日歿す本郷三念寺に葬る

野田剛齋

名徳勝佐藤直方門人幕府の士明和五子年二月六日歿す歳七十九小石川極樂水善仁寺に葬る

野田醉翁 名久忠姫路侯の抱へ茶人享保十六亥年七月十日歿す小石川極樂水善仁寺に葬る

野中兼山 計軒 名正後止字良繼播州の人本姓高山稱傳右衛門谷時中の門人小倉侯に仕ふ寛文三卯年十二月廿日歿す歳四十九(一説歿年は寛文五巳年五月二日とも云ふ)

野中湘山 幕府御徒組名儀字祺明稱佐太夫歌學を善す歌の名を祺明と云ふ天保三辰年六月十四日歿す歳六十二小日向茗荷谷林泉寺に葬る法名桂林院湘山義忠、病中三月の詠に「咲花の色かもしらすぐるまに春の別れとなるを悲しき」

野村白壽 道元居 稱信我支考派の俳人文化十四丑年六月十六日歿す麻布園林寺に葬る

野村東阜 名公臺字子賤稱新左衛門南郭門人江州彦根世臣天明四辰年三月廿四日歿す歳六十八彦根城下慈眼寺に葬る

野々口立圃 松翁 通稱維屋庄左衛門名親重京師の人俳諧を貞徳に學び又繪を能くす延寶九酉年九月三十日歿す歳七十一洛東鳥部山に葬る

野々口隆正 佐紀之屋 本姓大國氏通稱正助石見津和野の人初號大柱山人明治四年八月十七日歿す歳八十麻布市兵衛町長泉寺に葬る

野々山晩山 初名桃陰京都の人爪木晩山の門にて俳諧を嗜む享保十八丑年八月八日歿す歳五十八

野々山剛直 名謙光號謙齋稱左一郎田邊藩の儒臣正徳三巳年十一月朔日歿す歳三十七

黒川龜玉 松羅館 名安定字子保通稱觀五郎書法唐宋に於る寶曆六年六月十一日歿す歳五十八白山心光寺に葬る

黒田兼山 薩藩儒臣文化十二亥年五月歿す歳五十九

黒田如水 孝高 慶長九辰年三月廿日歿す歳五十九

黒澤右仲 雉園 名萬新字新卿武州の人林風岡門人寛政八辰年十二月六日歿す歳八十四

黒瀬去舟 不識亭 平岡文蛤子門人初虛舟を俳名とす明和六丑年六月十六日歿す歳八十

桑原爲溪 空洞 名雌號方外閑人京師の人延享元子年五月六日歿す歳七十二

桑岡貞佐 桑々吟 通稱平三郎初名了我號平沙江戸の人其角門俳人享保十九寅年九月十日歿す歳六十五本所法恩寺に葬る

鉄形蕙齋 紹眞 俗稱三次郎窺川岸疊職の子也號杉臯書家北尾重政の門人北尾政美と云ふ一派を成し後福井侯の藩に在り文政七申年三月廿一日歿す歳六十四法號彩淡蕙齋

桑只丸 弄松閣 一號自鳴水子高田派の僧京本誓寺に住職たり法名覺印推本戈磨の門に入て俳諧を好くす正徳二辰年十一月二日歿す歳七十三

桑野文絢 松霞 越後の人名雪朗書法を菱湖に學べり明治十一年三月廿日歿す歳七十六淺草新谷町寛受院に葬る法號至誠院松霞日綱

桑山重長 寛永十九年七月七日歿す歳七十

野間三竹 靜軒 字子苞松永昌三門人城州柳谷に住す醫師壽昌院法印玄珠の男寛永十五年十二月十九日法眼に叙す延寶四辰年八月十七日卒す歳六十九

野澤語助 語息齋 前名野澤辰次郎義太夫節三線引の名人明治元年三月廿三日歿す歳七十八

野澤醉石 名恒字寧恒通稱彦六儒家かり天保十二丑年八月十一日歿す歳六十一田原城寶寺に葬る

くの部

黒岩鷺白 雪嶺庵 文化七年八月廿七日歿す歳七十九

黒川春村 葵園 初號淺草庵薄齋稱主水始め古學を狩谷掖齋に受け後自修して遂に國學の一家をなす慶應二寅年十二月廿八日歿す歳六十九淺草新堀永見寺に葬る

黒川道祐 梅林 名玄逸藝州の儒醫にて國典に通す元祿四未年十一月四日歿す洛北東隆寺に

黒川道節 元祿十五年十一月廿六日歿す寺全上

黒川清足 文化四年八月十九日永代橋落ちたる時溺死す

久保筑水 名愛字君節稱莊左衛門信濃の人天保六年閏七月十三日歿す歳七十七淺草新堀臨江寺に葬る

久保木竹窓 名清淵幼名新四郎後太郎左衛門下總香取の人文化十二丑年八月廿八日歿す歳六十八

窪 俊滿 尙左堂 通稱易兵衛始春海と云書を魚産又重政に學び狂文狂歌を善す戲號南陀迦紫蘭文政三年に歿すと聞く

久保品齋 名仲通字享稱二郎右衛門讚岐人後藤芝山門人一橋府に奉仕儒官と成る天保五巳年十月十九日歿す歳五十六千駄ヶ谷瑞圓寺に葬る

久保季竝 杉舎 幼字鎮吉後玄貞又翠書と改む明治十九年三月五日歿す谷中墓地に葬る

工藤他山 思齋堂 奥州弘前の人初古川富太郎後工藤と改む江戸に出て朝川善庵門に入り後坂地に趣き篠崎小竹に文章を學び其後奥州に歸る明治二十二年二月廿七日歿す歳七十二

工藤元琳 名球卿號萬光稱平助丈庵子儒にして醫を兼ぬ寛政十二申年十二月十日歿す歳六十二深川寺町心行寺に葬る

工藤元齋 丈庵 名安也號英々舎儒醫なり寶曆五亥年二月廿日歿す歳五十三寺同上

栗原信充 柳菴 通稱孫之丞別號又樂明治元辰年本姓武田に改む明治三年十一月廿八日歿す歳八十九京都梅尾高山寺地中清瀧川の傍に葬る代々上野護國院に墓碑有り(翁の七十年來丹精せしものは令講義全部の著述にて島津久光公の力に依て開板す序文同公の

四

撰する處なり職原抄全部薩州藩島津帶日本紀全部同島津家に於但私讀本と大内裡指圖及京師の地圖御陵墓考全部但世上未稱するものにて其外親王以下陵墓の地位を調しもの清和天皇御陵之事皇御陵墓なり水尾考則天寺を再興す

栗原桶川

名永貞字子元稱五郎八武州の人春臺門人寶曆十二年七月十三日歿す歳六十二

栗田土満

加茂眞淵門人通稱求馬遠州平尾八幡宮司文化八年七月八日歿す歳七十五

栗山愿 潜峰

加茂眞淵字伯立水府史館編修官たり寶永三戌年四月十七日歿す歳三十八駒込龍光寺に葬る

栗崎道有

蘭科醫道喜會孫享保十一年十月廿日歿す歳六十三

栗本光壽

京の人蹴鞠の名人元祿十七申年十一月廿一日歿す歳八十

館柳灣

館柳灣を見よ(たの部)

觀世長俊

信光嫡男通稱彌次郎法名心祐天文十丑年八月歿す

觀世信光

觀世音阿彌七男姓奏通稱小次郎永正十三子年七月七日歿す歳八十二法名大雅宗松

觀嵩月

英二峰門人名常雄天保元寅年十一月廿日歿す歳七十二深川陽泉寺に葬る

鞍岡蘇山

名元昌字煥甫稱文次郎書法を廣澤に學ぶ寛延三年三月五日歿す歳七十二伊皿子大圓寺地中門能院に葬る

熊本自菴 華岳

江戸の人南郭門人江戸堀江町に教授所を設け公儀より賞譽あり寶曆十二未年十一月三日歿す歳三十九

草場船山

明治二年正月十六日歿す洛東華頂山に葬る

日下部眞藏 生駒山人

本姓森氏名文雄字は世榮河内の人寶曆二申年十二月三十日歿す歳四十一

草加和助 崑山

名定環字脩夫浪華の人文化十四丑年正月十日歿す歳六十二小日向服部坂金剛寺に葬る

日下貞靖

延享二丑年十一月廿四日歿す歳六十二

釧雲泉

名就字仲孚肥前島原の人書仙と號す又釧雲泉の稱を以て行はる文化八未年十一月十六日歿す歳五十三越後出雲崎淨法寺に葬る

櫛淵彌兵衛

一心流劍術の達人名宣根文政二卯年四月十日歿す歳七十三小石川祥雲寺に葬る

雲井龍雄

米澤藩士本姓中島守善明治三年十二月晦日刑せらる歳二十七谷中墓地に碑有り

久世五市 靜齋

名秉彝天明四辰年七月廿四日歿す歳五十三深川心行寺に葬る

久世廣民 丹後守

寛政十一未年十二月十七日卒す歳六十三本郷丸山本妙寺に葬る

楠本雪溪 宋紫石

字君赫初能斐に學び後清人宋紫岩に書法を聞いて一變す天明六年三月十三日歿す歳八十二東本願寺地中徳本寺に葬る

藏田花女 瓊華

京の人小澤芦菴門人寛政十二申年十一月廿六日歿す歳三十六

倉谷鹿山

名強字子勉奥州三春藩文學傍書を善くす天保四巳年十二月十三日歿す歳七十五三春城西本掛寺に葬る

倉成善司 龍渚

名董字善卿豊前の人文化九申年十二月十日歿す歳六十五

空也上人

紫雲山極樂院光勝寺は四條坊門の東空也堂と號す延喜帝第二の皇子天祿三年九月十一日奥州會津黒川郷八葉寺に寂す

久野其律 兀齋

尾州の人通稱與四郎號永日庵家號橘屋月十七日歿す歳四十七辭世一魂飛でいづれへさると尋ねたらおらぬ知らぬで事は濟むなり

熊谷安左衛門 武貞

寶永四亥年九月四日歿す歳五十七淺草本法寺に葬る

熊谷鏡平 一椀房

非人なり文化八未年四月朔日歿す目白蓮華寺に葬る

熊澤蕃山 了介

本姓野尻氏岡山儒臣名伯繼號息遊軒稱次郎八元祿四未年七月廿七日歿す下總古河大堤邑鮭延寺に葬る

熊坂台州

名邦字子彦號曳尾堂白雲館稱字右衛門奥州伊達高子邑の豪富觀海の門人享和三年三月廿一日歿す歳六十五

熊代熊斐

名は斐字は淇膽通稱始彦之進後甚左衛門もと長崎の人にして譯官なりしが沈南蘋に學びて書名熊斐といふ安永元辰年十二月廿八日歿す歳七十九

楠本雪溪

紫山 紫石の男文化二巳年十一月十九日歿す歳七十三寺同上

楠本雪溪

紫岡 紫山の男名琳字玉林號聽松堂嘉永三戌年六月六日歿す歳七十寺同上

やの部

矢部騰谷

名保惠字誨、稱爲八元奥州の人にして幕府の同心たり儒古學を善くす天保九年戊二月四日歿す歳六十五小日向臺道榮寺に葬る

矢部駿河守 定謙

初彦五郎後駿河守食祿三百俵和歌を北村季文に學ぶ天保十四卯年五月廿二日(表向廿三日)卒す深川淨心寺に葬る(矢部定謙は下谷和泉橋通りに住し文政六未年小十人頭を命せられ其後御先手頭となりしか程もなく火附盜賊改加役を兼帯し天保三辰年堺奉行に轉じ其翌年八月堺の町に住める醫師廣岡常次郎の養方の弟と家督争ひの公事を古歌の「なきなぞと人にはいひてありぬへし心のとはいひかゝこたへん」の一首を以て常次が心魂を碎き時の間に其公事を捌きたり其顛末を定謙が和歌の師北村季文きゝつたへて和文にのりて珍らしと題し和歌の徳たるを門人等に示しけるがいと珍らしと誰れかれも寫して世の中に大にもてはやしぬ遂にやんごとなきあたりにも聞えて其器量を賞し給ひけり此年大坂町奉行に轉じ左近將監と改め天保七年關東筋大に不作にて米穀の價貴しと聞て江府へ浪花より

山岡俊明

俗稱佐治右衛門山岡道阿彌末孫幕下の士にて  
四百石賜る安永九子年十月十五日歿す歳六十  
九江戸菩提所は麻布敷下龍澤寺なり(俊明剃髮隱居して  
明阿彌陀佛と云狂名大藏千文と稱す安永九年四月微行し  
て京都に遊び病死す江州三井寺は山岡氏の祖道阿彌の墳  
地なり依て道阿彌の墓の側に葬す)

山脇尙徳 東洋

通稱道作本姓清水養壽院法眼を賜ふ平  
安の人寶曆十二年八月十三日歿す歳  
五十八深草山霞谷に葬る

山縣攀高 杏花亭

又號桂花菴有扇門人京師の人享保十  
五戌年十二月廿七日歿す歳六十四

山縣大貳 柳莊

甲斐の人名昌貞字士明加賀美光章門人  
明和四亥年八月廿二日刑死歳四十一其  
骸を四谷全勝寺に葬る

山縣少助 周南

名孔孺後改て孝孺字次公周防の人徂徠  
門人寶曆二申年八月十二日歿す歳六十  
六千駄木保福寺に葬る

山鹿甚五左衛門 素行

名高祐林道春の門後軍學者と  
して北條安房守家來分後浪人  
す寛文六年十月三日聖學異見の著書に付御咎を蒙る貞享

山田大佐 麟嶼

姓菅原氏正朔字大佐號尙古堂一名弘嗣  
堂官醫山田宗圓の男享保二十卯年三月  
十九日僅廿四才にて没す谷中南泉寺に葬る(麟嶼は始め  
物徂徠に學ぶ徂徠曾て麟を稱して千里駒と稱し鳩巢は天  
下第一の才子と稱せり幼きより字を知り學に志し尤も詩  
文を能くし享保十年の十月年僅に十二才にして大府に召  
され同十二月博士に擧げられ祿二百石を賜はる惜いかな  
痘を病で夭折す)

山田道安

名順貞和州山田城主從五位下民部大輔武夫を  
以て繪事を能くす天正元酉年十月廿一日卒す

山田檢校 斗養一

文化十四丑年四月十日歿す歳六十一  
山谷源照寺に葬る

山田宗編 四方菴

名周學小笠原佐渡守に仕へし茶道な  
り寶永五巳年三月二日歿す歳八十五  
東本願寺中善龍寺に葬る

山田宗俊 圖南

名正珍大佐長男醫を業とす天明七未年  
二月八日歿す谷中南泉寺に葬る

山田清安 作樂園

香川景樹門人薩州の人嘉永元申年十  
一月廿三日歿す歳五十六

數多の米を積下したる其働さ凡ならずとの評ありしに其年の九月御勘定奉行を命せられ御加恩有て五百石高となりぬ十二月のころ水油俄かに乏しくなりし時小舟町の油問屋吉兵衛を始として仲買の者數十人を吟味ありし此事により評判おしく落首杯立られて天保九年西九御留守居に轉じたれども同一年冬小普請支配に出直られてより亦々勢ひ強同十二年四月廿八日町奉行に進み駿河守と改め其名海内には轟きたり然るに九ヶ月を経て十二月廿二日奉行職を明けられ翌寅年三月廿二日罪ありとて勢州桑名松平和之進へ永の御預け跡目改易申付らる定謙桑名に至り食を絶ちて餓死せり弘化二年正月廿二日定謙子息鶴松召出され二百俵下され矢部の家再興命せらる

宿屋喜太郎 空々 本姓兒玉氏名慎字默甫田安侯の近習番後廣鋪用人に轉文化九申年七月廿一日歿す歳七十七下谷北寺町玉泉寺に葬る

八橋檢校 城秀 京の人江戸へ下り後歸京して京六角西に住す琴曲の名人にして表裏の組を定めし人なり貞享二年六月三日歿す歳六十四洛東黒谷光明寺に葬る法號鏡覺院圓應順心禪定門

柳川重信 雷斗 俗稱鈴木重兵衛實父は志賀理齋北齋門人となりし天保三年閏十一月廿八日歿す歳四十六下谷坂本宗慶寺に葬る

柳川春三 春蔭 尾張の人古き英學者にして一度開成所の頭取となる明治三年二月廿日歿す歳三十七

梁川星巖 名緯字公圖號詩禪道人又眞逸稱新十郎美濃の人若年にして江戸に來り山本北山の門に入り後平安に住す安政五年九月四日歿す歳七十

山岡道阿彌 通稱彦右衛門慶長八卯年十二月五日歿す歳六十二江州三井寺に葬る

山岡宗無 南溪 通稱住吉屋、利休同時の人慶長十八丑年十一月十九日歿す歳七十

山岡鐵太郎 鐵舟 名高歩本性小野氏徳川家臣明治十七年七月七日歿す歳五十三谷中全生庵に葬る

山岡俊明 俗稱佐治右衛門山岡道阿彌末孫幕下の士にて九江戸菩提所は麻布敷下龍澤寺なり(俊明剃髮隱居して明阿彌陀佛と云狂名大藏干文と稱す安永九年四月微行して京都に遊び病死す江州三井寺は山岡氏の祖道阿彌の墳地なり依て道阿彌の墓の側に葬す)

山脇尙徳 東洋 通稱道作本姓清水養壽院法眼を賜ふ平安の人寶曆十二年八月十三日歿す歳五十八深草山霞谷に葬る

山縣攀高 杏花亭 又號桂花菴有扇門人京師の人享保十五年十二月廿七日歿す歳六十四

山縣大貳 柳莊 甲斐の人名昌貞字士明加賀美光章門人明和四年八月廿二日刑死歳四十一其骸を四谷全勝寺に葬る

山縣少助 周南 名孔孺後改て孝孺字次公周防の人徂徠門人寶曆二申年八月十二日歿す歳六十六千駄木保福寺に葬る

山鹿甚五左衛門 素行 名高祐林道春の門後軍學者とす寛文六年十月三日聖學異見の著書に付御咎を蒙る貞享

梁田蛻巖 名邦泰字景鸞稱才右衛門江戸神田に住す人見鶴山門人寶曆七丑年七月十九日歿す歳六十八市谷本村本立寺に葬る

梁田象水 蛻巖男字鸞夫號扁齋名邦龜稱藤九郎寛政八辰年正月二十九日歿す歳七十六市ヶ谷本村本立寺に葬る

柳原紀光卿 權大納言光綱卿の子息初め光房字は藤葛落飾して晩寂と號す寛政十二年申正月四日卒す歳五十四紫野に葬る

柳田正齋 名定字仲靜俗稱定藏書家なり明治二十一年九月二十九日歿す歳九十三駒込千駄木町光源寺に葬る

柳澤吉保 保山 初め出羽守保明後松平美濃守と稱す從四位少將甲斐國主たり正徳四年十一月二日卒す歳五十七市谷月桂寺に葬る

柳澤淇園 里恭 本姓曾根氏郡山世臣名公美號玉桂通稱權太夫寶曆八寅年九月五日歿す歳五十三

矢野容齋 名道坦字貞甫又固仲拙齋男幕府の儒官明和元年七月十一日歿す歳八十七品川海晏寺に葬る

矢野恒齋 名道積字元懷寶曆三酉年七月二十四日歿す寺同上

矢野玉洲 名義成字章卿細井廣澤門人天明二寅年十二月二十八日歿す寺同上

矢野拙齋 名義道稱理平伊豫の人山崎闇齋門人享保十七年正月十二日歿す歳七十一寺同上

山田以文 錦所 名有孝稱伊豆國典故實に明なり天保六年二月廿四日歿す

山田龍谷 抱翠菴 通稱重次郎名重明字子成白川藩士天保十二年九月廿九日歿す歳五十九

山田大佐 麟嶼 姓菅原氏正朔字大佐號尙古堂一名弘嗣堂官醫山田宗圓の男享保二十卯年三月十九日僅廿四才にて没す谷中南泉寺に葬る(麟嶼は始め物徂徠に學ぶ徂徠會て麟を稱して千里駒と稱し鳩巢は天下第一の才子と稱せり幼きより字を知り學に志し尤も詩文を能くし享保十年の十月年僅に十二才にして大府に召され同十二月博士に擧げられ祿二百石を賜はる惜いかな痘を病て夭折す)

山田道安 名順貞和州山田城主從五位下民部大輔武夫を以て繪事を能くす天正元酉年十月廿一日卒す

山田檢校 斗養一 文化十四丑年四月十日歿す歳六十一山谷源照寺に葬る

山田宗編 四方菴 名周學小笠原佐渡守に仕へし茶道なり寶永五巳年三月二日歿す歳八十五東本願寺中善龍寺に葬る

山田宗俊 圖南 名正珍大佐長男醫を業とす天明七未年二月八日歿す谷中南泉寺に葬る

山田清安 作樂園 香川景樹門人薩州の人嘉永元申年十一月廿三日歿す歳五十六

二丑年九月廿六日歿す歳六十四牛込榎町宗參寺に葬る法號月海瑚光淨珊

山根華陽

名清字子潔稱七郎左衛門長州侯世臣周南の門人明和八卯年十二月廿八日歿す歳七十八

山根南溟

名泰徳字有隣稱六郎華陽子周南の門人寛政五年八月十四日歿す歳五十二

山中猶平

天水 名怒之號晴霞字宜卿伊勢の人始皆川節齋に從ひ後北山門人となる寛政二戊年九月六日歿す歳三十二淺草行安寺に葬る

山名玉山

名義豊法名日臺和歌及茶技を能くす元祿七年十一月十五日歿す市谷谷町慈照院に葬る

山村才助

昌永 常州土浦藩士文化四卯年九月十九日歿す歳三十二深川雲光院中照光院に葬る

山内香雪

名普字希逸號一枝堂市河米菴門人万延元申年二月三日歿す歳六十二三田藥王寺に葬る

山内容堂公

明治五申年六月廿一日薨す歳四十六

山内義武

延享三寅年七月廿七日歿す歳六十八洛東智恩院に葬る

山内花縣

春秋齋 初名花見寛政十二申年閏四月七日歿す歳六十五麴町心法寺に葬る

山井崑崙

名鼎字君彝紀州の人西條侯の文學と成る享保十三申年正月廿六日歿す歳四十八

山口西徳

喜雀堂 初め鞭石門人優生と號し又西生と書す後俳人和及の二世を繼て露吹菴と號す寛保二戌年正月十五日歿す歳七十五

山口羅人

老桂窩 號蛭牙齋京都書林柘屋甚四郎俳諧を松木淡々に學ぶ實曆二申年七月廿九日歿す歳五十四

山崎櫻齋

本姓橘氏名春秀稱平三郎幕府の大御番小普請り筆才ありて一家をなす又俳諧を善す天保十四卯年七月廿日歿す歳四十七小日向水上水日輪寺に葬る(櫻齋の名弘めに團扇を配りしが自詠の狂歌「うつけんの指もあらんの仁王尊握るこぶしが開く手のうち」櫻齋の父は名を春方號栗園書を善くす又狂歌の名人にて地形堂堅丸と云橋洲の門下なりき)

山崎闇齋

垂加 名嘉字敬義稱嘉右衛門播州完栗郡山崎村の人天和二戌年九月十六日歿す歳六十八私に垂加靈社と諡す黒谷山に葬る

山崎美成

北峯 通稱長崎屋新兵衛後久作字久卿號好問堂下谷長者町藥種商該博にして著述多し晩年零落す文久三年七月七日歿す歳六十七淺草松清町大松寺に葬る

山下池亭

友齋 名爲榮字君翼書法一家をなす文化十酉年九月十二日歿す歳八十一西本願寺地中法照寺に葬る

山科厚安

天明元丑年八月五日歿す歳五十三洛の眞如堂に葬る

山科宗安

延享四卯年八月八日歿す歳四十六洛の眞如堂に葬る

山科庄八

廣安 本姓進藤氏名元憲享保三戌年七月三日歿す歳四十六江州に終る鈴聲山に葬る

山本有所

名惟孝字元禮稱源五郎紀州侯に仕ふ考證學又書畫を善くす天保十二丑年正月十三日歿す歳七十八

山口富士女

信州飯田侯儒臣山口代出女幼名榮女嘉永四亥年十二月十七日自殺歳六十二法號一貞院不二妙松大師飯田城下長源寺に葬る

山口素堂

今日庵 名信章俗稱太兵衛元甲斐酒折宮祠官初來雪と稱す享保元申八月十五日歿す歳七十五谷中感應寺中瑞音院に葬る法號廣山院祐岩素堂居士

山口素絢

圓山應舉門人文政元寅年十月廿四日歿す歳六十

山崎春樹

寶山居士 天保二卯年四月廿四日歿す駒込海藏寺に葬る

山崎北華

名俊明字恒稱三郎右衛門自墮落先生と云ふ江戸の人別號不思菴不量軒捨樂齋確連房等の狂號有り元文四年十二月三十日歿す歳四十谷中養福寺に葬る

山崎薰烈

莆田 號槐雲堂本姓井戸氏天保八酉年正月廿九日歿す歳五十二

山崎知雄

蝸牛舎 名武陵稱彌左衛門一號瓢山又瓢菴廬岸本由豆流に學ぶ文久元年酉九月廿三日歿す歳六十四

山崎宗鑑

範光 本姓支那氏通稱彌三郎號不夜菴天文二十一年十月二日歿す歳八十九京天瑞寺に葬る

山崎圖書

蘭洲 名道冲始大助弘前文學寛政十一未年二月四日歿す歳六十七城南徳藏寺に葬る

山崎文軒

雲山 名瀧吉字元祥文人書を以て鳴る京師の人天保八酉年九月十九日歿す歳六十七加賀金澤春日山に葬る

山本反求

名長方字子立稱半右衛門本姓大久保氏天保九戌年正月十六日歿す歳七十六大久保專福寺に葬る

山本春正

木下長嘯子門人天和二戌年九月十八日歿す歳七十八

山本梅逸

名亮字明卿尾張の人京師に出て一家を成す安政四巳年正月二日歿す歳六十八

山本西武

無外軒 俗稱綿屋九郎左衛門俳道の大家延寶六年二月十八日歿す歳七十三

山本北山

名信字天禧稱喜六幕府の士井上金峩門人又號孝經樓主人下谷金杉に住す文化九申年五月十八日歿す歳六十八白山本念寺に葬る

山本中齋

古賀精里門人天保十一子年九月四日歿す歳四十七

山本龍齋

松甫 名維碩建部巢兆の父なり書畫を能くす天明五巳年六月六日歿す歳五十七深川惠然寺に葬る

山本綠陰

名謹字行公稱亮助北山の子茶佛老人とも號せり天保八酉年廿一日歿す歳六十一白山本念寺に葬る

山本經足

規妙子 一號矩齋怒近子の門俳人なり享保十一年二月廿六日歿す歳四十八

山本蘭洲

本姓山岡氏名智光稱左兵衛安永七戌年七月四日歿す歳七十五本所法恩寺に葬る

山本惟命

號南紀書史稱忠右衛門書法を能くす延享元子年七月九日歿す歳七十四三田龍原寺に葬る

山本普求 松門亭

初名不求一號雪莎翁俳諧を能くす京五條人明和卯年七月廿一日歿す歳七十九

山本守禮 猶亭

名豫章字子風稱數馬平安の人圓山應舉に學ひ一家を成す天保五年六月廿日歿す歳八十

山本清溪 正臣

字欽若從四位近江守大炊御門諸大夫よて衣紋式に精しく國學和歌に長ず文政六未年九月十四日歿す歳七十下谷蓮華寺に葬る

藪内竹陰 紹智

茶人竹心男初號宗堅寛政十二申年七月三日歿す歳七十四

藪内竹心 紹智

茶人劍溪男初め而空延享二丑年十一月廿三日歿す歳六十八

藪内劍仲 紹智

號藪隱齋又劍翁寛永四卯年五月七日歿す歳七十八

藪内劍翁 紹智

茶人眞翁男又號燕菴延寶二寅年十二月十三日歿す歳七十六

藪内劍溪 紹智

劍仲長男後宗徳と號す正徳二辰年五月七日歿す歳五十七

藪内眞翁 紹智

茶人劍仲長男明曆元未年正月六日歿す歳七十九

柳生但馬守 宗嚴

劍道柳生流の達人將軍御師範慶長十一年四月十九日歿す歳八十

屋代龍岡

名師道字友達稱與左衛門江戸の人林家の門天明年八月廿七日歿す歳七十七麻布善覺寺に葬る

まの部

前田夏蔭 鶯園

稱健助清水濱臣門人元治元子年八月廿六日歿す歳七十二

前田青峨 紫子菴

號二柳軒始泰室東都樂研堀に住す水間沾徳派俳人寶曆九辰年四月十六日歿す

前野良澤 蘭化

名達字士章江戸の人蘭方醫の始祖なり享和三亥年十月十七日歿す歳八十一龜戸村菅廟の傍に碑有り

前野默軒

小澤芦菴門人京の人文政元寅年十二月十日歿す歳七十四

窓の吳竹 青峨堂

多田氏稱千次郎野菜商青山熊野横町に住す文政七年十一月廿二日歿す歳八十二青山智覺院に葬る(文化十年秋十九才なる娘を先たてよめる一死んだ子の年を十九とかそふれば親指ばかりのこるかなしと又辭世の狂歌詩も歌も達者な時に讀ておけども辭世は出來ぬ死ぎは)

町田圓齋 朴翁

茶人秋波の繼嗣號翠軒又一筵齋安永四未年十二月廿四日歿す歳七十一

町田秋波 玉客齋

茶人名章享保八卯年十二月六日歿す歳六十三

町田昌坡 汲古齋

號松翁天保十亥年正月七日歿す歳七十四

丸屋九兵衛 伏見の義民

天明八年正月廿三日歿す

丸山權太左衛門

陸奥仙臺の産元文二巳年十月九日長崎に歿す歳四十六肥前長崎浩臺寺に

屋代弘賢 輪池

多々良氏初名太郎詮文天保十二丑年五月十八日歿す歳八十四白山妙清寺に葬る(詮文初名詮虎又詮賢又弘賢と改む入木一道の先達尹祥傳右衛門に學び一家をなし屋代流と稱す元御臺所人なりしか寛政五年六月五日支配勘定格奥御右筆所手附と成り其後御勘定格御右筆所詰に轉じ文化八年五月朝鮮人來聘の時彼國王への御返翰を認めし事此人の規模と云べし御別幅の執筆は表御右筆男舎産四郎思孝なり天保十九正月十九日百俵高に御加恩有て奥御右筆を命せられ部屋を給はる是を太郎部屋と云)

安原貞室 一襄軒

松永貞徳の門刺髮して二世花の下と稱す延寶元丑年七月七日歿す歳六十四洛上鳥羽實相寺に葬る

安田米齋

號杏雨山房又考詩閣書法を鈴木鷺湖又福島柳圃に學ぶ明治廿二年九月十日歿す歳四十三

安田老仙

名養江戸の人書を清人胡公壽に學ぶ明治十六年八月廿八日歿す歳五十四

安田躬弦 一菴

號棗本加茂季鷹門人文化十三年正月五日歿す深川寺町慈然寺に葬る

安井息軒

名衡稱仲平文久二年幕府儒者となる明治九年九月廿三日歿す歳七十八駒込養源寺に葬る

安見晚山

名元道字大中稱文平鳳岡門人享保十六亥年五月廿一日歿す歳五十麻布善福寺に葬る

安本玄春

天保七申年九月十七日歿す歳五十五

葬る(享保十七年春相撲取と成る身丈六尺五寸重サ四十三目常に俳諧を好み夢太の撰「蓮花會集」に一句有り「ひとつかみいさまるらせん年の豆」大坂天満川崎吉田吐成方に丸山筒を珍藏す)

圓山應舉

姓源幼名岩次郎後稱主水號仙嶺亦價齋丹波國桑田郡穴田村農家の子なり京都石田幽汀の門後一家を爲す寛政七卯年七月七日歿す歳六十三洛の四條智恩院末寺悟眞院に葬る法號圓譽無三一妙居士

圓山 震

應舉義子木下應愛の男字百里號方壺子稱主水天保九戌年八月三日歿す歳五十三智恩院末寺悟眞院に葬る

圓山應瑞

圓山應舉男文政十二丑年十二月十九日歿す悟眞院に葬る

圓山其諺 肖菊翁

號四時堂又眞泉堂尤も書を善くす又滑稽雜談抄の著あり寫本にて行はる元文元辰年八月廿二日歿す歳七十一

丸毛利通

通稱權左衛門號景進堂東江門人書家文化三寅年十一月十三日歿す年込原町淨運寺に葬る

曲直瀨道三 一溪

今大路道三を見よ

曲直瀨道三 玄朔

東井玄朔といふ一溪道三の孫にしりて後義子となり道三の名を襲ふ延壽院と號す寛永八未年十二月十日歿す歳八十三(嗣子親純字龜溪初玄鑑と稱し後道三の名を襲ふ)

曲直瀨正珪 雲夢

字君瑞稱養安院醫を以て幕府に仕ふ姓越智氏一號神門叟と云ふ延享三寅年二月廿五日歿す歳六十一麻布天真寺に葬る

松原素元 名宣樹號隨菴上田流の書法を善くす寛政二

松尾芭蕉 桃青 風羅坊天々軒釣月堂元祿七戌年十月十

松岡太伸 梅岡 名延年字子長江戸の人金華門人駒込白

松岡辰方 梅軒 丹治氏字子辨稱平治郎後清助故實有職

松岡行義 辰方長男家學を嗣く嘉永元年七月晦日歿す寺

松岡環翠 蓮痴 名光訓號松石通稱橋四郎津山藩士五十

松岡玄達 怡顏齋 字成章怒庵と號す初め神學を唱へ後

松岡明義 行義長男明治廿三年六月廿二日歿す歲六十五

松岡青羅 寛延三年六月十七日歿す歲五十七

松尾宗二 實曆二申年九月五日歿す歲七十六

松尾宗政 二等齋 號朝昇菴享和二戌年九月十三日歿す

松田晚翠 了然尼の夫名重固號壽庵醫術を善くす元祿十

松田直兄 安政元寅年二月廿一日歿す歲七十二

松田龜玉 清風館 名英文化十一戌年正月廿五日歿す歲

松平一心齋 備前岡山藩主從四位侍從後少將内藏頭名治

松平露女 文政五年十一月廿七日六歳にて夭死

松平確堂公 明治廿四年三月廿四日歿す歲七十八上野寛

松平定信卿 樂翁 越中守從四位下左近衛權少將隱居號

松平君山 子龍 名秀雲通稱太郎左衛門尾藩天明三卯年

松平縫殿頭 冠山 名常字君倫號不輕居士長門寺と稱す

松平外記 西丸御書院番高三百儀文政六未年四月廿二日

松村吳春 溪月 圓山應舉門人景文兄文化八未年七月十

松浦篤所 則武 號學山堂市川寛齋門人稱齋宮文化十酉

松浦交翠 通稱藤五郎名默字成之播州の人林春齋門人實

松浦武四郎 弘 從五位を賜ふ號北海道人又多氣志樓伊

松浦鎮信 德祐 稱肥前守刑部卿法印に叙す石州流の茶

松浦靜山 雪州 從五位下壹岐守名清文化三年十一月總

松井宗瑞 目白山人 通稱忠吾俳人宗瑞の號を嗣ぎて

松井羅月 通稱松井益庵醫學和歌共に善す天保九戌年七

松井羅州 名は暉星字は資實稱七郎大坂の人博通の聞あ

松平治郷 不味 出羽守從四位少將號宗納茶道に至り深

松平春嶽 舊越前守慶永實は田安公男明治廿一年一月侯

松田拙齋 宗養 名長恭寛政三亥年九月廿七日歿す歲六

松永土齋 通稱天野屋利兵衛享保十二未年正月廿七日歿

松永貞徳 尺五 字昌三號講習堂貞徳男藤原愷富門人明

松永貞徳 追遊軒 幼名勝熊雅髮して松友晚年延陀九又

松村熊五郎 鬼熊 豐嶋屋十右衛門雇人力量人に過ぐ人

松村華溪 景文 字士藻稱要人吳春弟天保十四卯年四月

松村華溪 景文 廿六日歿す歲六十五表向は弘化元年辰年城

松村華溪 景文 南大通寺に葬る

名高明字龍孫號修齋通稱傳十郎初號香谷後陽谷安政五年八月廿六日歿

松野龍谷 自玄堂 岡尾正惠門溝口千谷の師名重宗字誠之號和墨堂稱傳十郎川越藩士元文三年十二月八日歿

松野雲谷 龍泉堂 名高通字自恬溝口曉谷門人號香墨齋稱傳十郎天保九年八月十八日歿

松山天姥 名敬和字伯義通稱源藏書法を細井九早に學び後自から一家をなす天明三卯年十一月四日歿

松江重頼 維舟 俗稱大文字屋治右衛門號乳父子又腐講子晚年薙髮して維舟自江翁と云ふ延寶八申年六月廿九日歿

松會平陵 名丈字子言通稱三四郎下野人安達文仲に従ひ詩を學び後書を以て業とす文化十四年十二月六日歿

松崎觀海 名維時字子默稱才藏觀瀾の子太宰春臺門人笹山侯に仕ふ別號沼濤安永四年十二月廿二日歿

松崎蘭谷 名祐之字甘白稱多助笹山侯に仕ふ享保二十卯年七月九日歿

松崎慊堂 名復字明復號木倉稱退藏肥後の人儒道學に志深し弘化元年四月廿一日歿

松崎堯臣 觀瀾 字子允號白圭通稱左吉江戸の人笹山侯の侍臣徂徠門徂徠後春臺に従事す寶曆三酉年五月十二日歿

政十二丑年四月十四日歿す歲五十七谷中瑞林寺に葬る(調布は文化五年十一月師左交の名をつぎ師の未亡人おりに引取り老母とせり此人名題書物至て面白し豊後節には師の跡を慕うて三家に名を殘す中にも常盤津の源太、清元の傀儡師、又ハウサギ、歌右衛門の二番更、鳥羽繪など名高し丑年大火より困難貧苦いはん方なく芝居も昔どかはり休業がちにて亡師の未亡人の世話行届さかぬそれが爲兩人不和になり後には櫻田の名跡をかへし松島調布と改む調布はてつくりといふ意なり晩年には市谷本村町なる門弟松島陽助方に同居となれり)

松嶋半二 名松島調布の門人にて始め松島陽助後半二の名を襲ふ文政八年六月廿三日歿

松嶋庄五郎 初福原市之助の門人鳴物師長唄の名人松永鐵五郎と云ひ後忠五郎又四代目松島庄五郎と改む明治廿三年三月七日歿

松宮主鈴 觀山 名俊仍字舊貫下野の人明和六年三月十子年六月廿四日歿

松本魯山 各元房稱半右衛門江戸の人書家なり元文三年年十月十六日歿

松本董齋 名盛義字直方號小篔通稱正助明治三午年四月廿五日歿

松本龍澤 名就章字知道號玉潤堂稱主膳伊豫の人天保五年九月廿三日歿

松木淡々 號半時庵俳林小傳其他松井氏とす浪花の人其角門人寶曆十一巳年十一月二日歿

松下烏石 東海陳人 東武の人本姓葛山名辰字君藏又青蘆主人書を廣澤に學て古人の妙處を得たり後京都下魚堀堀川角に住す安永八年九月廿三日歿

松下見林 西峯 本姓橘名秀明浪華人醫を見宜翁に學ひ記等の著あり元祿六未年十二月七日歿

松下葵岡 名壽字子福號一齋稱清太郎烏石の姪なり江戸の人幕府に奉仕す片山兼山門人文事に葛山氏を稱す儒家なり文政六未年十二月十三日歿

松下昌林 秀山 眞山長子平安に生る名元明和二酉年九月十六日歿

松嶋半二 初調布 狂言作者にて始め松嶋半二元祖左交の門人一度二代目櫻田治助と成る文

松下見櫟 眞山 松下見林男伊藤龍洲門人延享三寅年九月十九日歿

松本烏厓 名愿字子恭稱九右衛門古賀精里門人詩人文化七年正月十九日歿

松本万年 明治十三年九月十八日歿

松本應隨 窓月菴 山本普求門人京都松原に住す天明三卯年三月十日歿

松本龜岳 名日觀號梅之房龜交山義子文久二戌年正月廿七日歿

松本順亭 天谿 名雄字子雌號紫陽亭物産家天保十一子年廿二日歿

松本積翠 名信字實甫稱成藏會津侯臣三宅島に趣く途中船覆りて溺死す時に天保九戌年閏四月四日なり

間部松堂 下總守隱居明治十七年十一月廿八日卒

万亭應賀 服部長狹男通稱幸三郎草雙紙の作者なり明治廿三年八月三十日歿

眞埜安道 號是翁稱七郎京の人古代の古實を精し江戸に出で伊勢貞丈の門に入る寛政九巳年七月廿日歿

儘田柳軒 名重明號梅柳軒稱主水唱歌をよくす寛政七卯年八月七日歿

万里小路光房卿 寛永三寅年九月十二日卒

昌谷昌溪 精溪 安政五年八月廿七日歿

松本鳥厓 名愿字子恭稱九右衛門古賀精里門人詩人文化七年正月十九日歿

松本萬年 明治十三年九月十八日歿

松本應隨 窓月菴 山本普求門人京都松原に住す天明三卯年三月十日歿

正木龍珉

名瓊古字青羊號玉淵堂別號墨齋稱四郎右衛門  
淺草並木町に住す海苔商龍澤門人安政六年末  
十一月廿三日歿す歳七十三淺草仙藏寺に葬る

卷 菱潭

明治十九年二月廿八日歿す歳四十一谷中天王  
寺に葬る

卷 菱湖

名大任字致遠前號弘齋稱右内天保十四卯年四  
月七日歿す歳六十七谷中天王寺に葬る

蔦田雲處

白風齋 軸外と號す慶應元丑年五月十三日歿  
す歳五十四越前福井元田原町光明寺  
に葬る

檜の屋可成

安政五年十月二日歿す歳六十

卷 鷗洲

菱湖男名之紀字百里號掖山々人稱柳輔明治二  
年九月二十五日歿す歳四十六淺草八軒寺町海  
雲寺に葬る

間宮一郎

白水 名升芳號拙齋國學書道に涉る天保十二  
丑年四月七日歿す歳六十三

間宮永好

水戸の士高田與清門人國學和歌をよくす明治  
五年正月三日歿す谷中玉林寺に葬る

間宮八十子

間宮永好妻歌文達人明治二十四年二月十九  
日歿す歳六十九谷中玉林寺に葬る

馬嶋犀川

寛政五丑年四月廿日歿す歳七十四

馬嶋松南

名長弘稱助太郎京の人天保十亥年五月十八日  
歿す歳四十九

馬嶋獅石

文政三辰年七月廿五日歿す歳七十一

けの部

契冲阿闍梨 圓珠菴

下川氏名冲字空心父を善兵衛と  
いふ母間氏寛永十七年尼が崎に  
生る後近江蒲生郡馬淵村に住す寛文二年春津の國曼茶羅  
院に住し其後高野山に登り又泉州久井の里に至り同八申  
年本師手定寂せるより妙法寺に住す元祿十四巳年正月  
廿五日寂す歳六十二浪華高津圓珠菴に葬る

慶紀逸

俳師稻津祇空門倚住子又四時菴と云ふ江戸の人實  
曆十一巳年五月八日歿す六十八谷中龍泉寺に葬る

月僊老師 白雲

勢州山田寂勝寺の住應舉門人文化六巳  
年正月十二日寂す年八十九

源逸記 芙蓉

高氏名孟彪字孺皮篆刻家なり天明四辰年  
四月廿四日歿す歳六十三小石川無量院に  
葬る

兼葭堂

木村巽齋を見よ

玄無法師 自然齋

本姓川喜田氏菅原姓勢州阿濃津の人  
武者小路實陰門人實曆五亥年十一  
月廿一日歿す歳七十一

妍齋津富

俳人寛政九巳年十二月廿一日歿す歳六十七今  
戸慶養寺に葬る

玄惠法印

獨清軒又山門法師健叟又洗心と號す觀應元寅  
年六月十日寂す年八十二

元政上人 不可思議

俗名石井源八郎號妙子又號草山  
寛文八申年二月十八日寂す歳四  
十六深草瑞光寺に葬る (元政の父は江州彦根の臣三千石

眞勢中洲

名は達富字は發貴稱彦右衛門尾張の人京師に  
遊び新井白蛾に従ひ占筮を事とす文化十四丑  
年二月歿す歳六十四

増穂殘口 最中

姓源豊後の人京に出で、近衛公に隨從  
し國學を好み博通を以て稱せらる享保  
二酉年九月廿一日歿す歳六十三

増田甲齋

遠洲掛川藩士姓立花稱久米藏一旦日蓮宗の僧  
と成る嘉永年間魯國に歸化し後歸國して増田  
甲齋と改め砲術をよくす露國にて日本語學校を設立せり  
といふ明治十八年五月三十一日歿す歳六十五麻布源正寺  
に葬る

益田鶴樓

名助字伯隣稱助右衛門本町四丁目五君香藥店  
主たりしが白石門人となり詩を能くす安永四  
年十二月三日歿す

益田遇所

名肅字士敬勤齋男万延元申年三月十六日歿す  
歳六十四駒込淨心寺に葬る

益田勤齋

名濤字萬頃稱重慶遇所の父天保三辰年五月廿  
三日歿す歳七十駒込淨心寺に葬る

一寸見河東 眞丈

通稱天満屋藤十郎河東節の祖本姓伊  
藤母方の姓を冒して河部氏享保十巳  
年七月廿日歿す歳四十二西本願寺地中成勝寺に葬る

一寸見沙洲

河東節を一變す死後贈りて七世河東と稱す  
文化十四丑年十月廿六日歿す歳五十九淺草  
山谷春慶院に葬る

\* \* \* \* \*

源琦

駒井琦を見よ

\* \* \* \* \*

ふの部

藤原信實 寂西

隆信男初め隆實左京太夫後中務大輔正  
四位下に叙す多能にして尤繪事音樂に  
妙なり文永二年十二月十六日卒す歳八十九

藤原肅 惺窩

字は歛夫定家卿の末冷泉爲純卿の男播州  
細川庄に生長す元和六年九月十二日卒す  
歳五十九洛相國寺に葬る諡妙壽院

藤吉木石 子虎

名桓稱嘉一兵衛姫路侯史臣鶴士軍門人  
寛政九巳年四月八日歿す歳六十二浪花  
福島村久安寺に葬る

藤田一正 幽谷

立原翠軒門東湖の父名與助字子定文政  
九戌年十二月朔日歿す歳五十三

藤田雄山 權平

名貞資字子證號龍川算術家天文律曆方  
に精し文化四卯年八月六日歿す歳七十  
四、四谷西應寺に葬る

藤田晚花 長左衛門 幼名安之助京の人享保元申年六月十四日歿す歳四十八

藤谷貞兼 仰雲軒 名貞好一號桂翁通稱甚吉京の人俳師令徳門人元祿十四巳年十月廿七日歿す歳八十七

藤田東湖 名彪字贊初稱虎之助後誠之進一正子安政二卯年十月二日震災の爲に壓死す歳五十水戸常盤原に葬る

藤田憲 吳江 富山藩儒員又書を善くす狩野家による明治十八年五月二十二日歿す歳五十九谷中天王寺に葬る

藤田松樹 名貞陸稱佐助秋元侯の臣俳諧を貞翁に學ぶ後浪人にして筆跡の師と成る延享三寅年七月三日歿す歳百六才武州大蓮寺に葬る

藤田茂吉 明治二十五年八月十九日歿す歳四十二淺草本願寺に葬る

藤村羊太夫 帆夫 延享二巳年八月二十三日歿す本所馬場妙源寺に葬る

藤村庸軒 反古庵 名當直號徹翁通稱十二屋源兵衛と云ふ喫茶一家をなす藤村流と唱ふ元祿十五年閏九月十七日歿す歳八十八

藤井高尙 松舎 宣長門人長門守備中吉備津宮祠宮天保十一子年八月十五日歿す歳七十七

藤井玄洞 三淳 青山侯儒臣享保三戌年十一月十三日歿す歳七十六攝州寺内村觀音寺に葬る

藤森弘菴 天山 名大雅字粹然稱恭助信濃人文久二戌年十月八日歿す歳六十四麻布古川曹溪寺に葬る

深尾直一 訶亭 名直字子方一名永常正徳五未年三月廿一日歿す歳五十七牛込横手町正定院に葬る

深尾滄浪 九龍 名元儒字君初省齋子天明四辰年十一月十日歿す牛込横寺町正定院に葬る

深尾省齋 致忝 名謙儒を以て家をなす享保三戌年十一月十一日歿す寺同上

深川潜藏 元儒 儒學又老佛に涉り物産國學又蘭學をも嗜めり安政三辰年五月四日歿す本所妙源寺に葬る

深田美之 厚齋 名正純尾州候儒臣松岡怒庵の門人天明四辰年四月三十日歿す歳七十三尾州城南性高院に葬る

深川湖十 老鼠 會氏號木者庵又鼠軒其角門人晋子點式秋色より讓受け又永機とも云ふ元文三年午七月廿七日歿す歳六十二山谷宗林寺に葬る

深井志道軒 榮山 號無一堂明和二百年三月七日歿す歳八十四淺草寺中金剛院に葬る(延明見聞記に深井志道軒名榮山無一堂元知足院の僧玄榮と云ふ蔭間野良の事に付寺放せられ本所石原に住し始め著述又貸本の敵討ものを編述せり其後淺草寺境内にて軍書を講ず其間に戲言を交へ聞く人をして絶倒せしむ一座に僧と女あれば必ず譏る事尤甚し日々多くの錢を得るといへども皆酒にかへて一錢も残さず在世の日自ら肖像を畫て種々の戲言を書して人に與ふ此頃は淺草寺地中金剛院

藤井貞幹 字子冬號無佛齋又好古稱叔藏京の人國學考證に長す寛政元酉年八月十九日歿す歳六十八洛眞如堂に葬る

藤井芝蘭 京の人名元亮字玄三明和五子年十月六日歿す歳五十八洛妙蓮寺に葬る

藤井紋太夫 名徳昭元祿七戌年十一月廿三日誅せらる小石川傳通院寺中昌林院に葬る(家説に此日御能有之公羽衣のシテ被遊御中入の節御樂屋にて紋太夫を御手討に被遊死骸先づ清休取扱被申付云云)

藤間お芳 踊の師匠あり明治廿五年八月廿九日歿す

藤江東江 名邦良稱清藏熊陽の子先職を襲ふ(龍野儒臣)延享三寅年六月十四日江戸の旅舎に歿す歳五十一西久保光明寺に葬る

藤江熊陽 名忠廉稱直藏播州の人仁齋の門人龍野侯儒臣享保十八丑年十一月二日歿す歳六十六

藤江龍山 名致遠字子任稱源藏東江男寛政十年七月廿八日歿す歳七十四西久保光明寺に葬る

藤木文嶼 宗立 通稱左助名茂和畫人天保十四卯年五月十六日歿す歳五十六

藤木敦直 甲斐 加茂縣主歌道書法に達して殊に書風に一派を開く世に加茂流を稱す慶安二丑年正月四日卒す歳六十八

藤木箕山 吞舟軒を見よ

藤本鐵石 文久三亥年九月十八日歿す歳四十八

深井秋水 名政圓字得絲稱主膳土佐の人山崎關齊門享保八辰年六月四日歿す歳八十二

深見願齋 名玄融字雙玉號有隣通稱初新兵衛後久太夫玄岱の二子安永二巳年二月十五日歿す歳五十九上野護國院に葬る

深見玄岱 本姓高階氏字子耕號天漪又葵山人稱新兵衛書は天間先生に學ぶ長崎の人享保七年八月十八日歿す歳七十四上野護國院に葬る

深見重左衛門 自休 本姓深溝氏初名十藏名貞國享保十五戌年三月十八日歿す歳九十

五駒込片町龍光寺に葬る(自休は俠客にして亦風流を好み浪花の梅翁江戸に來りしに俳諧を學び始めて師弟の約を結ばんと對面の折自休額を廣く扱きあけたれば梅翁是を見て「名月や來て見よかしのひたひきは」此頃は専ら額の扱あけはやりたり小唄にも「ひたひきは」此頃は専ら見ぬぬを來て見よかしのエ」と唄ひたり後御法令に背く廉數度有り依て天和二年八丈島へ謫せられ十八年を経て實永元年八月御赦有て歸國す老年に及ひ鐵の棒の杖を突き上齒を金下齒を銀にて入齒せしと云ふ)

古市播摩 紹意 南都興福寺代官和歌連歌を兼達す寛永十八巳年三月十七日歿す歳六十一

古市東之進 南軒 名剛字士強號芳林園享保七寅年八月六日歿す歳六十二谷中大行寺に葬る

十二

古島玉函

名岳字子高號長嘯樓稱文右衛門相摸の人嘉永元年申年九月一日歿す年七十一青山教寛寺に葬る

古林正温 見宜翁

初名道齊字桂庵號壽仙房播州飭磨の人黒田侯に任ふ明暦三酉年九月十七日歿す歳七十九

古河黙阿彌

吉村黙阿彌を見よ

古田織部 印齋

從五位下名は重勝美濃の人高一万石元和卯年六月十一日故有て自殺す歳七十三紫野三元院に葬る(織部の茶法を千宗易に受け始めて秀吉公に仕ふ洛堀川通三條南に茶室を構ふ今藤堂家の京の邸古田舊宅ありと其後東照神君に仕ふ又台徳君御師範幕下に隨て年あり後大坂一味の事發覺して死を賜ふ)

古屋昔陽

名高字公款號紫濱陳人稱十二郎肥後の人古學を力む文化三寅年四月朔日歿す歳七十三音羽五丁目桂林寺に葬る

古澤蘆中 芸暉堂

初名牛麿俳師知石の門人寛保四年十月六日歿す歳四十四

芙蓉花山人 一本亭

浪花の人通稱平野屋清兵衛別號花開樓天明三卯年正月廿六日歿す歳六十三淺草西福寺に葬る

二山遊翁 格堂

名義長伯養義子寛保三亥年十一月廿五日歿す歳六十六牛込榎町宗參寺に葬る

二山伯養

名義長稱彌二郎石見の人中川侯の儒臣寛保二年八月廿日歿す歳八十七牛込榎町宗參寺に葬る

福田鞭石 笑堂

一號井龜軒御法兒と稱す俳師富尾似船門人京師の人享保十三申年二月十五日歿す歳八十

福田竹庵

名務廉稱彦八郎春海門人文政二卯年閏四月廿八日歿す歳四十六淺草崇福寺に葬る

福田理軒

明治二十二年三月十九日大坂に歿す歳七十五

福田美楯

富士谷御杖門人嘉永三戌年五月三十日歿す歳六十二

福田太華

本名川象一名無量字子壽藤原氏通稱儀右衛門熊本世臣百石を領す弓馬槍刀火術書畫詩文古實國學和歌及天文地理兵法水練等に達す嘉永七寅年八月廿一日歿す歳五十九二本榎覺林寺に葬る

福永恕堂

名寛字嚴恭稱巨作日向高鍋の人錦岫女の夫嘉永四亥年五月十六日歿す歳四十八

福井松泉 池流亭

初め俳名松洗後泉の字に改む一號小僧と云ふ松春の從弟本姓兒玉氏元文元辰年九月三日歿す歳五十三

福嶋千代女 素園

加賀松任驛旅店福島屋六兵衛女幼名はつ加賀の千代と稱す安永四未年九月八日歿す歳七十四金澤専光寺に葬る

福嶋隣春 雨の屋

字吉人號花所稱左平畫人明治十五年九月十三日歿す歳七十二淺草阿部川町正念寺地中觀明寺に葬る

福島柳圃 默堂

通稱十次郎名寧字子直文人畫師明治二十二年十月廿二日歿す歳七十下谷稻荷町泰宗寺に葬る

二松三拙

號櫻窓幕府町同心にして書を能くす安政五年歿す

佛覺翁

寛政元酉年十月十日歿す歳八十九

船田耕山

名雅通稱田四郎書百法瀬流の師なり松平周防侯に仕ふ寶曆十二年十月三日歿す歳三十九早稲田建勝寺に葬る

文雄師

音韻學に通じ磨光韻鏡の撰者なり寶曆十三未年九月二十三日歿す歳六十

文寶堂文寶

通稱龜屋文右衛門太田南畝の門人號を譲られて後の蜀山人と號す飯田町中坂の藥店なり文政十二丑年三月廿三日歿す歳六十二

文々舎蟹子丸 諧遊

通稱久保泰十郎幕府賄方姑め俳諧を専す時諧遊號文々舎後狂歌師と成て蜀山の蟹子丸と名付けし也又號葛飾名匠寛本所割下水に住す天保八年二月九日歿す歳五十八

風外師 默室

心越禪師に學び書を能くす正徳二辰年正月十一日歿す駒込高林寺に葬る

福王雪岑 白鳳軒

御能役者通稱茂右衛門名盛勝英家の書を學ぶ小川破笠弟分となる天明五已年三月十八日歿す深川心行寺に葬る

福田露言

俳師内藤露沾門人元祿四未年四月十日歿す歳六十二

福田半香 曉夢生

名信字吉人渡邊華山門人元治元子年八月廿八日歿す歳六十一

福谷水竹

鶴田卓池門人嘉永三戌年正月十二日歿す歳六十四

福島松江

名興世字幹松稱茂左衛門南郭門人岩村侯儒臣江戸の人明和元申年六月十日歿す歳五十一

福森一雄

通稱始め兵治後喜字助と改む寛政八年久助の字に代ふ玉巻惠助門人文政元寅年九月八日歿す歳五十二小松川源法寺に葬る

福住正兄

箱根湯本温泉の主二宮尊徳門人晩年和歌を嗜みて歌人と交る明治廿五年五月廿日歿す歳六十九箱根早雲寺に葬る

不夜菴太祇

明和八卯年八月九日歿す歳六十三

富士谷成章 層城

本姓皆川字仲達號北邊淇園の弟柳川侯に遊事す安永八亥年十月二日歿す歳四十二洛の蓮臺寺に葬る

富士谷御杖

初名成元成章子又名成壽稱專右衛門文政六年八月六日歿す歳五十六

富士田吉次 楓江

初名千藏長唄の中興にて節も此人より一變す明和八卯年三月二十九日歿す歳五十八芝金杉正傳院に葬る(吉次は始め佐野川万菊門弟佐野川千藏と云ふ女形なり後役者を止む富士田吉次と改め長唄うたひと成其後二代目都大夫和中と改む(元祖和中は家名を伏見屋と云ふ楓江は此伏見屋の子供なり乗物丁に住)後再び楓江とて芝居へ出勤す退座後嗣子門弟藤次郎を二代目千藏楓郷と云ふ)

富士田千藏 楓郷

文政六年十二月九日歿す歳六十七

この部

小出大年 二山 名寛之字大年義平と稱す儒家寶曆六子年閏十一月廿日歿す深川六間堀要津寺に葬る

小林一茶 號俳諧寺信州西柏原の人文政十亥年十一月十日歿す歳六十五

小林忠俊 鶴林 法橋五松字公英出羽米澤の人京師の醫官古野周徳門人後江都に召さる文化十酉年十月廿八日歿す歳七十一東本願寺に葬る

小林蓮堂 天保十一子年六月朔日歿す歳五十三

小林歌城 ヲバヤシを見よ(この部)

小林永濯 鮮齋 稱秀次郎狩野永恵門後一派の畫風を興す明治廿三年五月廿七日歿す歳四十八

小林瓦齋 濟雨亭 名美影通稱三右衛門篤胤門人文久二戌年正月十日歿す歳六十三淺草北清島町法善寺に葬る

小西來山 湛翁 號十万堂泉州堺の人享保元申年十月三日歿す歳六十三大坂一心寺に葬る

小林靜齋 英一 通稱市太郎畫家なり嘉永元申年十月廿四日歿す歳三十一

小堀蓬雪 茶人宗甫二男名政尹稱權十郎元祿七戌年八月四日歿す歳七十

小堀正信 元祿七戌年正月二日歿す歳四十六

五柳亭徳升 戲樂 通稱關根甚藏家号豊島屋鎌倉河岸に住せし紙商なり後貸本商と成る又典り山門人山樂と云て講釋師と成り其後御看役所書役になれり嘉永六巳年七月廿五日歿す歳六十一

小沼樂山 京の人通稱初吉兵衛後橋字惠安永八亥年十月十日歿す歳八十七京觀音寺に葬る

小貫循涯 名徹典字眞五紀州の人東涯門人寶曆四戌年十一月廿四日歿す歳七十四清節と私諡す

鏑井北梅 未得 軍談師桃林亭東玉門人玉梅號遲開道人狂名小金ノ馬成文久二亥年十二月五日歿す歳六十三

五岳上人 古竹老衲 豐後日田願正寺の住職姓平野名惠川廣瀬淡窓門人後一家をなす詩書畫三絶と稱す明治廿六年三月三日歿す行年八十三歿せし年の正月狂書に一首の狂歌を讀せりと聞く曰く「我が好きは酒と肴と恭と角力金と女は云ふまでもなし」

古賀精里 彌助 名樸字淳風號訥齋肥前の人佐賀侯の儒官寛政中に振擡を蒙り聖堂の教官たり文化十四丑年五月四日歿す歳六十八

兒玉默甫 名慎號宿空々稱喜太郎田安侯儒臣文化八未年七月廿一日歿す歳七十七南品川白泉寺に葬る

小塚竹溪 名信遠字得受又號虬峰稱莊兵衛安永五申年六月十六日歿す歳六十三

小永井小舟 幕府御家人御徒目附詩文書共に名あり明治廿一年十二月十日歿す歳五十八谷中墓地に葬る

小堀宗甫 遠洲 大猷院君御師範從五位下遠江守名政一號孤蓬正保四亥年二月六日卒す歳六十九紫野孤蓬庵に葬る

小堀宗中 大膳 慶應三卯年六月廿七日歿す歳八十二

小堀政之 備中守と稱す政尹の長男延寶二寅年八月廿四日歿す歳五十五

小堀政貴 稱十左衛門政尹の三男寶永元申年六月廿三日歿す歳六十六

郡山華南 名吉貞字吉亨稱長五郎古實を講す天保十一子年八月廿一日歿す歳六十五

後藤椿庵 名省字仲介元文三年十一月十七日歿す歳四十三洛普門院に葬る

後藤太仲 梨春 名光生號梧桐菴物産家明和八卯年四月八日歿す年七十五愛宕下青松寺に葬る

後藤厚甫 名師張號小芝山稱小三郎芝山末子天明六年四月五日歿す洛北功徳院に葬る

後藤艮山 名達字有成稱左一郎江戸の人林家の門享保十二年九月十八日歿す歳七十五洛普門院に葬る

後藤松軒 舒嘯 三州の人幼にして明を喪ふ後山城伏見に住す警者と成て松軒勾當と稱す寛文十年江戸に至り會津侯に聘せらる享保二酉年五月十八日歿す歳八十八北澤森岩寺に葬る

後藤芝山 名世鈞字守中高松侯儒官号竹風稱彌兵衛天明二寅年四月三日歿す年六十一高松城西萬日原に葬る

小南栗齋 名寛字子柔通稱常八郎古學古實に精しく號を古學道人と云ふ万延元申年十月十日歿す歳九十駒込大林寺に葬る

小南圭助 名克天明七未年九月二十四日歿す市谷長遠寺に葬る

近藤棠軒 名元隆字公盛江戸の人號敬齋稱大作文政八酉年十一月十七日歿歳三十三本所長久寺に葬る

近藤洞蕭 名益尙稱小平次土州侯扈從役狩野洞雲門人元祿六酉年十二月十六日歿す歳四十一

近藤芳樹 稱晋一郎長門の人國典に通じ和歌を能くせり明治十三辰年二月廿九日歿す

近藤義清 幕府旗本稱又兵衛新編江戸志同續編の著あり安永四未年正月廿二日歿す歳五十六

近藤眞琴 算術國學に達し海軍の事に精し假名の會を起し人なり明治十九年八月四日歿す歳五十六

近藤謙齋 名晴政號新々館稱源十郎松平淡州侯儒臣享保四亥年十一月六日歿す歳六十七本所法恩寺に葬る

近藤守重 正齋 字藤厚通稱重藏一號芙蓉道人文政九戌年十月六日近江大溝にて死す歳五十六(或は亡命行へ知れずと云ふ)

近藤壽俊 稱半助又宗三博く雜學に涉りし人天明四辰年五月廿六日歿す歳五十四廣尾天現寺に葬る

江月宗玩 欠伸子 界の人津田宗及の男號情袋子紫野大徳寺百五十六世なり寛永二十未年十月朔日歿す歳七十紫野大徳寺に葬る

五井持軒 名守任稱嘉助浪花の人蘭洲の父下河邊長流に  
學び一家を成す郡山本多侯文學享保六丑年閏  
七月十八日歿す歳八十一

五井蘭洲 名純禎字子祥持軒の男號洲菴稱藤九郎津侯の  
文學と成る寶曆十二年三月十七日歿す歳六  
十六

近衛尙通公 號後法成寺天文十三辰年八月廿六日薨す歳  
七十三  
信尋公男承應二己年七月十九日薨す歳三十

近衛信尹公 初名信基又信輔號三藐院、龍山公の息筆道  
一体を創して近衛流と申す慶長十九寅年十  
一月廿五日薨す歳五十

近衛信尋公 應山 號自性院信尹公男慶安二丑年十月十  
一日薨す歳五十一  
近衛前久公 龍山 號東求院、慶長十七子年五月八日薨  
す歳七十七

近衛基瀨公 號圓滿院、尙嗣公男享保七寅年九月十四日  
薨す歳七十五

小窪瀚海 名徹字周索稱佳藏志州の人儒者文化四卯年八  
月四日歿す歳五十九淺草本然寺に葬る  
壺外散人 俳人文政三辰年十一月廿四日歿す歳七十高田  
誓閑寺に葬る

小柳平助 肥後熊本の産角力文久元戌年四月十六日遺恨  
のために殺さる享年三十三淺草偏立寺に葬る

小宮山昌秀 楓軒 通稱次郎右衛門字子實水戸の人博覽  
典故に精し天保十一子年三月二日歿  
す歳七十五

五味釜川 名國鼎又伯耳稱貞藏甲斐の人春臺門人寶曆四  
戌年三月十二日歿す歳三十七

五升亭蝶夢 幻阿 號伯菴京師の人寺町に住す芭蕉堂を  
再建せり寛政四子年十二月廿四日歿  
す歳六十四

小嶋喜菴 嘉永元申年十二月七日歿す歳五十二  
小嶋士鳳 地藏居士 名虎彦豫州の人天保十二丑年十  
月十一日歿す歳七十三下谷稱迎  
院に葬る

小嶋五一 成齋 名知足字子節別號不感道人前名靜齋福  
山藩士文久二戌年十月十八日歿す歳六  
十六駒込肴町長元寺に葬る

戀川春町 壽山人 通稱倉橋壽平狂名酒の上の不埒駿州  
小島侯の臣小石川春日町邸に在り戀  
川と云は住居地名にされるなり書は石燕の門寛政元酉年  
七月七日歿す歳四十六四谷新宿成覺寺に葬る

古筆一村 別家 了佐三男稱勘兵衛鑒定名人にして別に家  
を成す慶安三寅年十月歿す

古筆了意 名定常改て最長鑑學菴道古稱羊之丞實は神  
田道僖定武男了泉没後師家を相續し琴山の  
印を傳ふ天保五年八月六日歿す歳八十四

古筆了祐 了榮八男初名八兵衛即性菴直空名定香俳名  
性菴直空了祐  
定香貞享元年四月廿日歿す歳四十法名即  
性菴直空了祐

小山春山 下野真岡の人名朝弘字遠士會澤正忠門人明治  
廿四年一月廿一日歿す歳六十五谷中天王寺に  
葬る

小松原翠溪 名貞字廓大號希唐菴天保五年十二月晦日  
歿す歳五十六  
駒井 琦 源琦 字子輶平安の人圓山應舉門人寛政九巳  
年八月八日歿す歳四十八

小牧矢柄 果民 名充方字子果豐後臼杵藩士天保七申年  
二月二日歿す歳七十臼杵城南月桂寺に  
葬る

古溪宗陳 大徳寺百十七世大慈廣照禪師慶長二酉年正月  
十七日寂す歳六十六

古今亭 名ん生 壽耕 元祖三遊亭圓生門人始圓太後古  
政三辰年十二月廿六日歿す歳四十八本所表町本久寺に葬  
る法號古今院眞生日録

小枝繁 絳山 通稱露木七郎次號歡酸陳八小説戯作を好  
みて小栗外傳橋供養等其外讀本を多く著  
し又擊劍に長し水府御守殿附と成り四谷忍原横町に住す  
文政九戌年八月七日歿す歳六十八

古庵浪花 應々山人 號應院梅盛門東本願寺一如大僧  
正連枝越中井波瑞泉寺住職たり  
元祿十未年十月九日寂す歳三十五

米谷桃邸 名寅字子虎號似月堂稱次郎八伏見の人一號金  
城文政七申年五月十七日歿す歳六十七伏見願  
生寺に葬る

古筆了博 了意男名最恒一蓬庵夢翁稱彌太郎嘉永六丑  
年七月廿四日歿す歳六十四

古筆了任 一村男名守村稱勘兵衛延寶五巳年四月十  
四日歿す歳六十四

古筆了仲 守村義子守直稱勘兵衛元文辰年八月晦  
日歿す歳八十一谷中臨江寺に葬る

古筆了音 了珉二男即悟菴眞兒享保十巳年六月廿二日  
歿す歳五十二

古筆了榮 了佐四男名定門初稱源六郎又三郎右衛門俳  
名定門延寶六年十月八日歿す歳七十二法  
名即心院直截了榮

古筆了延 了音男玄仲菴名長泰安永三年七月十五日  
歿す歳七十一

古筆了佐 名節佐正覺庵標材寛文二年寅正月廿八日歿  
す歳九十一(源姓江州西川の人平澤氏初名  
彌四郎雅髪して法名了佐と號す近衛關白前久公に從ひて  
古筆の目利を傳授し遂に古筆鑑定家の始祖となる又和歌  
を鳥丸光廣卿に學び同資慶卿より了佐が九十の算を賀し  
て和歌及び道服を賜ふ禱に關白秀次公より妙壽院惺窩を  
御使として古筆を以て家號とすすとを命せられ琴山の印  
を賜ふ以後代々極印にこれを用ふ)

古筆了珉 名重政初六歳即空庵玉翁實は了雪二男了佐  
の實孫了周早世により遺迹相續し琴山の印  
を傳へて五世となる元祿十四巳年二月十九日歿す歳五十  
七

古筆了周世四 名重忠不妙菴法宜實は小川某の男母は了佐女なり了祐養て嗣と爲す古筆家第四世となる貞享三寅年正月元日歿す歳十七

古筆了雪 了佐五男了珉實父名重光稱次右衛門俳名重光延寶三卯年閏四月十四日歿す歳六十四谷中臨江寺に葬る法名無心菴古雲道樸居士

古筆了泉世八 了延男鏡照菴湖山初號了就天明二年寅七月晦日歿す歳四十三

鯉屋杉風 簀翁 本姓杉本氏通稱市兵衛號採茶菴又茶舎簀杖享保十七子年六月十三日歿す歳八十六西本願寺地中成勝寺に葬る

小瀬道喜 甫庵 尾州春日郡の人士岐氏の族なり稱又四郎初關白秀次に仕ふ後堀尾吉晴に仕へ吉晴死後前田利常に從仕す太閤記の作者なり寛永十七年八月十一日歿す歳七十七

小菅寶馬 竹窓菴 俳道松窓とも云ふ別號五千堂又連々舍寛政十年年二月十九日歿す歳七十二駒込徳性寺に葬る

小菅蒼狐 柳前齋 始名觀丈明和三戌年十一月六日歿す歳五十五駒込徳性寺に葬る

江村好菴 樸齋 剛齋男實永四亥年四月四日歿す歳七十洛東東喜寺(イニ善正寺)に葬る

江村宗珉 剛齋 字友石專齋次男稱全庵郡山儒員萬治三子年七月十七日歿す歳五十四寺全上

江村愚亭 明和七年寅二月廿九日歿す歳二十四寺全上

江村青郊 名宗實字若虛延享元子年四月十九日歿す歳四十四寺全上

江村青甸 毅菴 名簡字易從剛齋孫享保七寅年六月十三日歿す歳六十九寺全上

江村專齋 倚松庵 名は宗具祖先榮基は播州三石城主たり落城の後遷て京師に住す專齋學に志し醫を業とす百歳の時後水尾上皇勅して杖扇茶酒を賜る寛文四辰年九月廿六日歿す歳一百二十餘と云ふ寺同上

榎本東順 本姓竹下氏故有て榎本と改む元江州堅田の人にして江戸に出て醫を以て本多上野侯に仕ふ俳諧は由良正春に學ふ後隱者とされり其角の父なり元祿六酉年八月廿九日歿す歳七十二、二本板上行寺に葬る

榎本其角 寶井其角を見よ(たの部)

江間徳伸 東邸 號仙子樓鉄舟居士字子靜安政三辰年十月十一日歿す歳八十五谷中平間寺に葬る

江馬細香女 蘭齋長女書詩書を善す頼山陽門文久三戌年九月歿す

江馬蘭齋 名春琢字元恭通稱春齡大垣藩醫前野蘭化門人天保九年歿す年九十二

江原風和 梅樹軒 正六位佐渡守に任す出羽國の社司岸本調和の門に入り俳諧を善す正徳二辰年二月十八日京都に歿す歳六十一

江川太郎左衛門 坦菴 名辰英豆州葦山の代官坦庵は歿す歳五十五淺草本法寺に葬り葦山本立寺に分骨す長男英龍家を嗣て早世す

江竹長八 左官職泥鰌細工に妙を得たり俗に伊豆の長八と云ふ天祐居士と號す明治廿二年八月十日歿す淺草松葉町正定寺に葬る

榎並隆璉 京師の人稱助之原弘化元辰年五月廿五日歿す歳七十

榎並貞因 長閑堂 通稱鯛屋善右衛門(菓子商にて大坂任す安原貞室の門人元祿十三辰年三月廿三日歿す歳八十大坂八丁目寺町寶樹寺に葬る)

榎並貞義 紀海音 貞因次男俗稱喜右衛門後善八號貞十一大坂八丁目寺町寶樹寺に葬る法號清潮院海音日法と云(紀の海音を參見せよ)

榎並貞富 花實菴 貞因從弟通稱鯛屋清左衛門正徳二辰年五月六日歿す年七十二墓所全前

榎並貞風 魚周堂 貞義の子俗稱忠七道頓堀太左衛門橋筋八幡前に住す明和七寅年二月八日歿す歳六十餘

江村北海 君錫 伊藤乾洲男青山侯儒員傳左衛門天明八申年二月二日歿す歳七十六

江左尙白 芳齋 名三益又本翁也舊門人江州大津の人享保十七子年七月十九日歿す歳七十三

江尻箕山 万延元申年五月三日歿す歳五十一深川淨心寺地中玉泉院に葬る

江嶋其磧 京警願寺通柳の馬場に大佛餅を業とす通稱江島屋八郎右衛門後書肆となり戲作に名を得つ元文二辰年七月三日歿す歳七十

ての部

蹄齋北馬 駿々亭 俗稱有坂五郎八北齋門人御家人の隱居弘化元辰年八月六日歿す歳七十四(北馬は戯に左筆を揮て曲書を作り或は席上の草書に奇才の附の高し又彩色に巧なるを以て谷文晁に愛せられ密書の模様を手傳ひて大に筆硯を潤すと云ふ晩年菴髮して下谷二長町に住せり)

出口延佳 度會氏伊勢内宮の祠官正四位下信濃守と稱す本邦の典故を講し神道を唱へて著述多し元祿三年正月十六日卒す勢州尾上川妙見山の後に在り(今度會郡宇治山田岩淵町字一夜坊遍照庵隣地小阜上に在て同町高源寺に屬す)

出口延經 延佳の子正四位下神宮權禰宜たり正徳四年年八月廿一日卒す歳五十八墓所同前

出口貞木 花香菴

安原貞室門人幼名柳意元祿九子年十月朔日歿す歳七十一

手柄岡持 明誠堂

秋田侯の臣通稱平澤平格文化十四年五月廿日歿す歳七十九深川淨心寺地中一乘院に葬る(平格名常富號山人俳諧に月成、狂詩に韓長龜、又天壽、戯作の號を喜三二、晩年薙髮して自ら平荷と名く歿する五日前に知巳へ辭世を詠みて送れり其狂哥に「狂哥よむうらみ手柄の岡持よよまぬだんでは日からの牡丹餅」

鐵翁居士 祖門

本姓日高氏父は長崎港に住す大工職仁三郎と云幼き頃は共に職をせり後僧となり稼圃の流に入り書を學ぶ明治四年十二月七日寂す歳八十一

徹書記

清巖を見よ(せの部)

寺門靜軒

名良字子温號克己稱彌五左衛門常陸人江戸繁昌記の件に付天保十三年秋武家奉公搦被申付明治元年二月廿四日歿す歳七十三

寺田臨川 立革

安藝侯文學名高通稱半藏延享元年十一月四日歿す歳六十七

天幽玄眞

平姓河合氏享保十九寅年八月十五日歿す歳七十二洛本誓寺に葬る

天滿屋宗全

實曆十一年己七月十四日歿す歳八十四

田喜菴護物 東寅居

弘化元辰年七月廿八日歿す歳七十三淺草稱念寺に葬る

晁有輝 詩叔

本姓淺岡氏名豐興宋紫石門に入り書を學べり文化八末年七月四日歿す廻町心法寺に葬る

あの部

淡島椿岳 南平堂

本性小林氏稱城三名氏平明治廿二年九月廿一日歿す歳六十七谷中天王寺に葬る

饗庭松宇

名正盈字有夫稱三郎兵衛江戸の人南畝に學び幼にして神童と呼ばる書を善くす天保九戌年五月廿二日歿す歳五十九

阿部友進 櫟齋

名喜任一名成字享號巴菴園明治三年十月廿日歿す歳六十六

阿部友之進 將翁

名照任字伯重奥州の人實曆三酉年正月廿八日歿す歳百四歲上野梅禪寺に葬る

跡部宮内 光海

名良顯號光海神道國學に精し儒學は佐藤直方門人享保十四年酉正月廿七日歿す歳七十一青山梅窓寺に葬る

有田東原

幕府西九御先手與力稱次郎兵衛文政十二丑年六月十一日歿す歳五十八谷中長久院に葬る

有馬涼及 臥雪

號存菴又了及臥龍とも稱す茶事に精しく法眼に叙す元祿十五午年十二月七日歿す歳六十九

有坂蹄齋 北馬

蹄齋北馬を見よ(ての部)

有賀長伯 敬齋

平安の人平間重雅門人和歌に秀づ元文二巳年六月二日歿す歳七十七大坂高津東正法寺に葬る

趙陶齋 息心齋

名養字仲願息心居士又清輝閣長崎の人もと清人趙氏の胤なり天明六年四月廿日歿す歳七十四墓地は泉州界也とぞ

寺井養拙 養拙齋

書家佐々木志津磨門人一家を成し養拙流と云ふ京の人正徳元卯年七月廿五日歿す歳七十二河東專念寺に葬る

寺井西角

號輪花堂又要見居士享保十五年寅八月八日歿す歳七十

寺町三智 百菴

幕府表坊主號新柳亭居處を換る事百度に及ぶ依て百菴と唱ふ寛保元年十一月小普請入りと成り實曆六年買閑の身と成るとて一脱すていけふ夏衣かろき身のかろきかうへに輕かれよとや寶曆十二年十月歿す

寺澤友太夫 友齋

名政辰寺澤流の書法をばしむ元文六酉年正月廿六日歿す歳七十一下谷車坂大久寺に葬る

寺坂吉右衛門 了貞

名信行延享四年十月六日歿す歳八十三下谷曹慶寺に葬る

寺坂秋女 操節

本姓田尻氏寺坂信行妻延享元年九月十三日歿す年七十二寺同上

手嶋堵菴

心學者なり天明六年二月九日歿す歳六十九洛東鳥部山に葬る

有賀長収

長伯の孫文政元寅年五月七日歿す歳六十九坂府高津東正法寺に葬る

青池芳濤 林宗

名盈天保四巳年二月廿二日歿す歳六十二淺草曹源寺に葬る

青野欽之

名叔元京の人始源藏後源左衛門水戸に住ふ實永三成年十二月十日歿す歳五十四

青山延干 拙齋

通稱量助字子世水戸の儒員天保十四卯年九月六日歿す歳六十八水戸常盤原に葬る

青木鷺水 白梅園

通稱次右衛門號歌仙堂又三省齋俳師立圃の門人京の人享保十八丑年三月廿六日歿す歳七十六

青木栗里 春澄

名與勝字定懷筑前の人南海紀開を著述して大に鳴る文化九申年六月十八日歿す歳五十一

青木宗鳳 紫雪菴

名凡鳥號水滸浪花に住す明和二酉年十二月十日歿す歳七十六

青木文藏 昆陽

名敦書字厚甫甘薯先生と稱せらる父ハいへり明和六丑年十月十二日歿す歳七十二下目黒龍泉寺に葬る法號本立院道譽生心

青木貞二

初名節信州松本の産醫學を修む松本方年の門に入り亦雲照律師に從て印度哲學を修む明治二十二年二月六日歿す歳三十三染井墓地に葬る

青木錦村

明治七年五月十五日歿す歳五十八

青木十口 意心齋 名貞信後改めて佐徳號清古閑人寛政三亥年七月廿一日歿す歳六十九

青木春證 印雪軒 名貞悟號之乎翁又素心堂京の人正徳五未年七月廿日歿す歳六十三

青木淨運 天和二戌年三月十一日歿す歳六十三河東凌光寺に葬る

青嶋松濤 號一鼎本所横川に住し書を善す天保十一子年四月八日歿す歳七十三淺草新寺町正福院に葬る

赤尾鷲洲 子穀 名秀實安永三年五月十二日歿す谷中妙雲寺に葬る

縣宗知 玉泉子 幕府同朋上柳甫齋門に入て遠州流の茶道を修す享保六丑年六月廿七日歿す歳六十六下谷廣徳寺塔中梅雲院に葬る

曉鐘成 眞秋 本姓木村氏稱彌四郎大坂元福井町和泉屋太兵衛と云ふ醬油造商なり若年に家出して天王寺町に住し鹿を飼養して鹿の屋と云ふ戯作を好み巡島記の續編をも綴れり晩年丹波に旅行して百姓一擡の檄文を草せし事により京に拘引せられ萬延元年十二月十九日牢内にて歿す歳六十八攝州西成郡正覺寺に葬る

赤井文次郎 得水 號得樂書を能す伊勢町に住す清水消水門人佐々木津志磨の孫弟子なり延享三寅年三月十八日歿す歳五十七

赤松良平 太庚 名弘字毅甫號赤草述齋木瓜翁の號有り春臺に學ふ明和四亥年四月十二日歿す歳五十九麻布善福寺に葬る

新井明郷 通稱傳藏白石長男寛保元酉年七月廿四日歿す歳五十一

新井宣郷 通稱平藏日石次男享保八卯年五月十四日歿す歳二十五

新井邦孝 通稱源太郎安永四未年八月十日歿す歳五十三

新井邦賢 通稱傳次郎天明七未年二月廿七日歿す歳五十八

新井成美 始め傳次郎後稱勘解由實は小笠原石見守政久三男寛政六寅年九月十九日卒す歳二十三

新木田久老 五十槻園 初め稱彌三郎伊勢外宮祠官眞淵門人鈴屋と異曲同工の聞え有りて一家を成す文化元年八月十四日歿す歳五十九

荒木田守武 五十鈴 俳道の祖正四位上大宮の長官文明六年九月叙爵天文十八年酉八月八日卒す歳七十七

荒木維岳 字嵩夫號吳井稱八郎明和四戌年七月廿六日歿す本所押上眞盛寺に葬る

荒木寛快 達菴 名舜字學公號蓬生畫人なり万延元申年正月九日歿す歳七十五牛込七軒寺町淨輪寺に葬る

新木又右衛門 伊賀國阿拜郡荒木村の人郡山本多侯に仕ひ浪士と成る寛永十四年八月廿四日歿す歳四十一(雲錦隨筆には廿年と有り)

荒木吳江 名克之號東水字子盈稱長藏書をよくす寛政五丑年五月廿日歿す歳六十五本郷丸山長泉寺に葬る

赤松鴻平 滄洲 名鴻字國鸞播州の人本姓舟洩氏赤穂儒臣享和元酉年正月八日歿す歳八十

赤松琴二 小雅堂 名香雨大坂の人書畫の定をよくり明治七年十二月廿四日歿す歳六二淺草正念寺地中に葬る

赤松新助 沙鷗 名舊邦字新甫播州の人元祿中江戸にり儒を以松山侯に住ふ明和四年亥十月晦日歿す歳一百以上といふ

安達文仲 清河 名備號詩堂下野の人服部元喬門人寛政四子年閏二月六日歿す歳六十七、三輪眞正寺に葬る

東大洋 玉峨 奥州仙臺の人平安に住す應舉の親友た天保十亥年八月廿三日歿す歳八十七

荒川右門 方正 名元英荒川文藏姪寶曆二申年正月廿日歿す歳五十九洛東大興寺に葬る

荒川文藏 温恭 名方至平安の人小川弘齋門人享保十卯年十月十三日歿す歳五十二洛東大興寺に葬る

新井白蛾 黃州 名祐登通稱謙吉號古易館易說に卓見あり占筮に妙驗ありて世に鳴り寛政四年子五月十四日痰喘を憂て加州金澤に歿す歳六十八

新井白石 初名璵後君美字在中本姓荒井氏木下順菴門人從五位後守たり享保十年巳五月十九日卒す歳六十九淺草本願寺中に葬る墓所人の知る所なり

新井升平 篤光 白蛾男號無盡齋文化七午年二月九日歿す歳四十四

荒木適齋 名魁之字公楚號青嶽居吳江の男書家文化八未年十二月二日歿す歳五十八本郷丸山長泉寺に葬る

安藤朴翁 名缺定稱新五郎年山の父伏見宮に仕ふ長嘯子に歌を學ぶ後從五位内匠頭に叙す元祿十五年八月廿三日歿す歳七十六

安藤東野 名煥圖字東野稱仁右衛門下野那須の人始中野橋に學び後徂徠の門に入る享保四亥年四月十三日歿す歳三十七今戸福壽院に葬る

安藤洞菴 名元簡字守直省菴の男稱正之進柳川侯に仕ふ元祿十五年十二月廿九日歿す歳三十六

安藤年山 初め明後爲章稱新助丹波桑田郡の人初め伏見宮に仕へ後兄爲定と共に水府侯に仕ふ(祿三百石)享保元申年十月歿す歳五十八

安藏冠里 信友 從四位侍從對馬守俳諧を好む享保十七年子七月廿五日卒す歳六十二麴町橋岸院に葬る

安藤省菴 初名守正後守約字魯默稱市之進筑州柳川の人松下昌三門後水府の儒臣元祿十四年巳十月廿日歿す歳八十

安樂庵策傳 醒翁 本姓平林氏京の人誓願寺中竹林院住侶茶事を金森宗和に學ぶ醒醉笑の著あり寛永十九年正月八日歿す歳八十九

安西舟雪 雲煙子 名於楚字山君稱虎吉樂研堀に住す書畫鑒定家なり嘉永五子年八月歿す

藍原君章 鳳臺 兵學家二樂男本姓越智名通貞安永七戌年六月五日歿す歳三十六本所中の郷成就寺に葬る

十八

藍原二樂 子玄

軍學家なり兵家秘書呈進に依て白銀を賜ふ明和三年五月四日歿す歳六十五本所中の郷成就寺に葬る

芥川貞佐 一十軒

綱屋貞柳門人安永八亥年正月廿一日歿す歳八十一

綾岡輝松

本姓池田氏通稱奈良屋吉兵衛書畫共に一流あり明治二十年五月廿四日歿す歳七十一、三田聖坂大信寺に葬る

天野平岸 大麓

名眞映號大及齋又尙和菴駿河の人書人慶應元年三月廿日歿す歳六十三深川本誓寺中常照院に葬る

天野桃隣 太白堂

號吳竹軒又五無菴芭蕉門人本姓切部幕府の臣通稱作左衛門享保四年十二月九日歿す歳七十一淺草新寺町新光明寺に葬る

天野信景 白華翁

通稱治部字子影薙髮して信阿彌大和の人尾州に住す鹽尻の著あり享保十八年九月八日歿す歳七十三

天野屋利平

松永土齋を見よ

朱樂菅江 道甫

通稱山崎郷之輔名貫後景貫寛政十年十二月十二日歿す歳六十三青山久保町青原寺に葬る菅江は四ツ谷甘崎町に住せし御先手與力なり漢籍を内山淳時に學び又和歌をも能くして本名を景基といひしが家基の御諱を避けて改む又初め俳名を貫立といひしかば人皆貫公と呼びて遂に菅江の字に書き改めしなり朱樂の字を冠すとは會て太田南畝宅にて諸人酒宴の折菅江戯れに「我のみひとりあけら菅江」と詠せしより遂に朱樂を渾名の如く呼ぶやうになりしなり寛政七年六十一にて薙髮せし時産神市谷八幡社前にて

あの部

淡島椿岳 南平堂

本性小林氏稱城三名氏平明治廿二年九月廿一日歿す歳六十七谷中天王寺に葬る

饗庭松宇

名正盈字有夫稱三郎兵衛江戸の人南畝に學び幼にして神童と呼ばる書を善くす天保九戌年五月廿二日歿す歳五十九

阿部友進 櫟齋

名喜任一名成字亨號巴菴園明治三年十月廿日歿す歳六十六

阿部友之進 將翁

名照任字伯重奥州の人寶曆三酉年正月廿八日歿す歳百四歳上野梅禪寺に葬る

跡部宮内 光海

名良顯號光海神道國學に精し儒學は佐藤直方門人享保十四年正月廿七日歿す歳七十一青山梅窓寺に葬る

有田東原

幕府西丸御先手與力稱次郎兵衛文政十二年六月十一日歿す歳五十八谷中長久院に葬る

有馬涼及 臥雪

號存菴又了及臥龍とも稱す茶事に精しく法眼に叙す元祿十五年十二月七日歿す歳六十九

有坂蹄齋 北馬

蹄齋北馬を見よ(ての部)

有賀長伯 敬齋

平安の人平間重雅門人和歌に秀づ元文二年六月二日歿す歳七十七大坂高津東正法寺に葬る

「まさかきのはたち餘りの男山かみさへすつる身とはなりにさ」辭世の狂歌は「執着の心や婆婆にのこるらむ吉野の櫻更しな月」

阿武松縁之助

能登國鳳至郡の人幼名長吉相撲となりて初名小車後小柳と改む毛利侯抱力士となる嘉永五年正月朔日歿す歳五十九深川淨心寺に葬る

扇屋宇右衛門 墨河

本姓鈴木氏號五明樓娼家に樓號を付けし始なり狂名棟上高見と云寛政十三年正月十一日歿す歳五十八淺草常福寺に葬る(扇屋は江戸吉原江戸町一丁目に住みし妓樓の大見勢にして尤も舊家なり墨河は頗る奇才文思あり歌俳茶の湯を好み風雅に心を委ね身を慎み行を正し抱へ遊女等を遇するに慈愛あり家の妓女には花扇瀧川など尤も高し是等の妓女皆手跡よく歌をもよみたり墨河の奨めにて千蔭東江などを師とせしに高尙雅麗なりとの世評高かりき寛政六年の春本石町川岸に飯田屋之情義にて淺草山の宿に扇と馴染せ置きしが逢ふせの絶間あるをかねてある夜假住居させ置きしが逢ふせの絶間あるをかねてある夜花扇は姿をかへ大門をぬけ出で、忍びて文之助の許に至り共にかけ落して行くへ知れざりしを様々尋ねて主家に戻しぬ然るに花扇は其夜より病氣と稱し籠り居て勤めせし墨河はさかしくいたはり諭して「散らさじとぞめし心もえら梅のかばかり風の吹きつるらん」と詠じて遣しければ花扇もさすがに耻ぢ且感涙を流して「ちらさじとぞめし垣根の梅の花また來る春に咲かざらめやは」と返歌して元の如く勤めしとぞ)

扇屋稻木女 千戸路

鈴木墨河妻歌書とも千蔭の門人文政八酉年五月廿六日歿す歳六十六寺同上

淺利又七郎

名義信一刀流小野派の名人嘉永六丑年二月廿日歿す年七十六淺草田圃慶遠寺に葬る

有賀長収

長伯の孫文政元寅年五月七日歿す歳六十九坂府高津東正法寺に葬る

青池芳濟 林宗

名盈天保四巳年二月廿二日歿す歳六十二淺草曹源寺に葬る

青野欽之

名叔元京の人始源藏後源左衛門水戸に住ふ實永三戌年十二月十日歿す歳五十四

青山延千 拙齋

通稱量助字子世水戸の儒員天保十四卯年九月六日歿す歳六十八水戸常盤原に葬る

青木鷺水 白梅園

通稱次右衛門號歌仙堂又三省齋俳師立圃の門人京の人享保十八酉年三月廿六日歿す歳七十六

青木栗里 春澄

名典勝字定懷筑前の人南海紀聞を著述して大に鳴る文化九中年六月十八日歿す歳五十一

青木宗鳳 紫雪菴

名凡鳥號水蒲浪花に住す明和二酉年十二月十日歿す歳七十六

青木文藏 昆陽

名敦書字厚甫甘薯先生と稱せらる父の日本橋小田原町に住し佃屋半右衛門といへり明和六丑年十月十二日歿す歳七十二下目黒龍泉寺に葬る法號本立院道譽生心

青木貞二

初名節信州松本の産醫學を修む松本万年の門に入り亦雲照律師に從て印度哲學を修む明治二十二年二月六日歿す歳三十三染井葛地に葬る

青木錦村

明治七年五月十五日歿す歳五十八

青木十口 意心齋 名貞後改めて佐徳號清古閑人寛政三亥年七月廿一日歿す歳六十九

青木春證 印雪軒 名貞悟號之乎翁又素心堂京の人正徳五年七月廿日歿す歳六十三

青木淨運 天和二戌年三月十一日歿す歳六十三河東凌光寺に葬る

青嶋松濤 號一鼎本所横川に住し書を善す天保十一子年四月八日歿す歳七十三淺草新寺町正福院に葬る

赤尾鷺洲 子穀 名秀實安永三年五月十二日歿す谷中妙雲寺に葬る

縣宗知 玉泉子 幕府同朋上柳甫齋門に入て遠州流の茶道を修す享保六丑年六月廿七日歿す歳六十六下谷廣徳寺塔中梅雲院に葬る

曉鐘成 眞秋 本姓木村氏稱彌四郎大坂元福井町和泉屋太兵衛と云ふ醬油造商なり若年に家出して天王寺町に住し鹿を飼養して鹿の屋と云ふ戯作を好み巡島記の續編をも綴れり晩年丹波に旅行して百姓一擧の概文を草せし事により京に拘刑せられ萬延元年十二月十九日牢内にて歿す歳六十八攝州西成郡正覺寺に葬る

赤井文次郎 得水 號得樂書を能す伊勢町に住す清水清水門人佐々木津志磨の孫弟子なり延享三年三月十八日歿す歳五十七

赤松良平 太庚 名弘字毅甫號赤草述齋木瓜翁の號有り春臺に學ぶ明和四亥年四月十二日歿す歳五十九麻布善福寺に葬る

新井明郷 通稱傳藏白石長男寛保元酉年七月廿四日歿す歳五十一

新井宣郷 通稱平藏白石次男享保八卯年五月十四日歿す歳二十五

新井邦孝 通稱源太郎安永四未年八月十日歿す歳五十三

新井邦賢 通稱傳次郎天明七未年二月廿七日歿す歳五十八

新井成美 始め傳次郎後稱勘解由實は小笠原石見守政久三男寛政六寅年九月十九日卒す歳二十三

新木田久老 五十槻園 初め稱彌三郎伊勢外宮祠官眞淵門人鈴屋と異曲同工の聞え有りて一家を成す文化元年八月十四日歿す歳五十九

荒木田守武 五十鈴 俳道の祖正四位上大宮の長官文明六年九月叙爵天文十八年酉八月八日卒す歳七十七

荒木維岳 字嵩夫號吳井稱八郎明和四戌年七月廿六日歿す本所押上眞盛寺に葬る

荒木寛快 達菴 名舜字舉公號蓬生畫人なり万延元申年正月九日歿す歳七十五牛込七軒寺町淨輪寺に葬る

新木又右衛門 伊賀國阿拜郡荒木村の人郡山本多侯に仕む寛永七年戌十一月七日讐討の爲暇を乞ひ浪士と成る寛永十四年八月廿四日歿す歳四十一(雲錦隨筆には廿年と有り)

荒木吳江 名克之號東水字子盈稱長藏書をよくす寛政五丑年五月廿日歿す歳六十五本郷丸山長泉寺に葬る

赤松鴻平 滄洲 名鴻字國鸞播州の人本姓舟洩氏赤穂儒臣享和元酉年正月八日歿す歳八十

赤松琴二 小雅堂 名香雨大坂の人書畫の鑒定をよくり明治七年十二月廿四日歿す歳六十六二淺草正念寺地中に葬る

赤松新助 沙鷗 名舊邦字新甫播州の人元祿中江戸にり儒を以松山侯に住し明和四年亥十月晦日歿す歳一百以上といふ

安達文伸 清河 名備號詩堂下野の人服部元喬門人寛政四子年閏二月六日歿す歳六十七、三輪眞正寺に葬る

東大洋 玉峨 奥州仙臺の人平安に住す應舉の親友たり天保十亥年八月廿三日歿す歳八十七

荒川右門 方正 名元英荒川文藏姪實曆二申年正月廿八日歿す歳五十九洛東大興寺に葬る

荒川文藏 温恭 名方至平安の人小川弘齋門人享保十九卯年十月十三日歿す歳五十二洛東大興寺に葬る

新井白蛾 黃州 名祐登通稱謙吉號古易館易說に卓見あり占筮に妙驗ありて世に鳴りぬ寛政四年子五月十四日痰喘を憂て加州金澤に歿す歳六十八

新井白石 初名興後君美字在中本姓荒井氏木下順菴門人從五位筑後守たり享保十年巳五月十九日卒す歳六十九淺草本願寺中に葬る墓所人の知る所なり

新井升平 篤光 白蛾男號無盡齋文化七年二月九日歿す歳四十四

荒木適齋 名魁之字公楚號青菴居吳江の男書家文化八未年十二月二日歿す歳五十八本郷丸山長泉寺に葬る

安藤朴翁 名映定稱新五郎年山の父伏見宮に住し長嘯子に歌を學ぶ後從五位内匠頭に叙す元祿十五年八月廿三日歿す歳七十六

安藤東野 名煥圖字東野稱仁右衛門下野那須の人始中野搦謙に學び後徳徠の門に入る享保四亥年四月十三日歿す歳三十七今月福壽院に葬る

安藤洞菴 名元簡字守直省庵の男稱正之進柳川侯に住し元祿十五年十二月廿九日歿す歳三十六

安藤年山 初め明後爲章稱新助丹波桑田郡の人初め伏見宮に住し後兄爲定と共に水府侯に住し(祿三)百石一享保元申年十月歿す歳五十八

安藏冠里 信友 從四位侍從對馬守俳諧を好み享保十七年七月廿五日卒す歳六十二麴町橋岸院に葬る

安藤省菴 初名守正後守約字魯默稱市之進筑州柳川の人松下昌三門後水府の儒臣元祿十四年巳十月廿日歿す歳八十

安樂庵策傳 醒翁 本姓平林氏京の人警願寺中竹林院住侶茶事を金森宗和に學ぶ醒醉笑の著あり寛永十九年午正月八日歿す歳八十九

安西舟雪 雲煙子 名於堯字山君稱虎吉樂研堀に住す書畫鑒定家なり嘉永五年八月歿す

藍原君章 鳳臺 兵學家二樂男本姓越智名通貞安永七戌年六月五日歿す歳三十六本所中の郷成就寺に葬る

藍原二樂 子玄  
軍學家なり兵家秘書呈進に依て白銀を賜ふ明和三戌年五月四日歿す歳六十五本所中の郷成就寺に葬る

芥川貞佐 一十軒  
鯛屋貞柳門人安永八亥年正月廿一日歿す歳八十一

綾岡輝松  
本姓池田氏通稱奈良屋吉兵衛書畫共に一流あり明治二十年五月廿四日歿す歳七十一、三田聖坂大信寺に葬る

天野平岸 大麓  
名真映號大及齋又尙和菴駿河の人書人慶應元丑年三月廿日歿す歳六十三深川本誓寺中常照院に葬る

天野桃隣 太白堂  
號吳竹軒又五無菴芭蕉門人本姓切部幕府の臣通稱作左衛門享保四亥年十二月九日歿す歳七十一淺草新寺町新光明寺に葬る

天野信景 白華翁  
通稱治部字子影薙髮して信阿彌大和の人尾州に住す醫匠の著あり享保十八丑年九月八日歿す歳七十三

天野屋利平 松永土齋を見よ

朱樂菅江 道甫  
通稱山崎郷之輔名貫後景貫寛政十年青原寺に葬る菅江は四ツ谷甘崎町に住せし御先手與力なり漢籍を内山淳時に學び又和歌をも能くして本名を景基といひしが家基公の御諱を避けて改む又初め俳名を貫立といひしかば人皆貫公と呼ひしを遂に菅江の字に書き改めしなり朱樂の字を冠するとは曾て太田南畝宅にて諸人酒宴の折菅江戯れに「我のみひとりあけら菅江」と詠せしより遂に朱樂を渾名の如く呼ぶやうになりしなり寛政七年六十一にて薙髮せし時産神市谷八幡社前にて

下總佐倉の人醫學大家湯島に私立病院を起して順天堂といふ明治十五年七月廿七日歿す歳五十六谷中墓地に葬る

佐藤尙中 舜海  
佐藤尙中 舜海  
下總佐倉の人醫學大家湯島に私立病院を起して順天堂といふ明治十五年七月廿七日歿す歳五十六谷中墓地に葬る

佐治竹輝 享保三戌年閏十月廿二日歿す歳四十

猿山龍池 季明  
名周曉通稱直江號不言齋又大平山人叢麓とも號す篠田行休門にて大橋流書法に達し寺社奉行附右筆となる後辭して書法指南をなし大に行はる安永九子年正月八日歿す歳六十餘下谷長福壽寺に葬る

猿山巫江  
通稱右膳後多宮季明子父名を繼て龍池と號す寛政四子年十月廿五日歿す同寺

猿山赤城  
猿山直江二男名周之稱左膳文化三寅年二月廿八日歿す歳四十六上野山下常樂院に葬る

佐脇英女  
嵩雪の女幼名滿佐書をよくす寛政三亥年六月三日歿す淺草誓願寺地中稱名院に葬る

佐脇嵩之 一翠齋  
名道賢字子嶽通稱甚藏號果々觀又東窓翁初代英一蝶の門人安永元辰年七月三日歿す歳六十六寺同上

佐脇嵩雪 中岳堂  
名貫多稱倉治號仔止樓嵩之の男文化元子年十一月廿日歿す歳六十九寺同上

酒泉彦太夫 竹軒  
名弘字惠廸享保三戌年五月十五日歿す小石川傳通院中見樹院に葬る

佐川田正俊 壺齋  
又昌俊とかく通稱喜六號狀々翁又臥輪とも云ふ永井直勝侯に仕ふ寛永廿未年八月三日歿す歳六十五山城宇治興聖寺に葬る昌俊は書及歌學に精し若年の時木戸玄齋は仕ふ(木戸玄齋は

「まささきのはたち餘りの男山かみさへすつる身とはりにき」辭世の狂歌は「執着の心や婆婆にのこるらひ野の櫻更しなの月」

阿武松縁之助  
能登國鳳至郡の人幼名長吉相撲となり初名小車後小柳と改む毛利侯抱力士と嘉永五子年正月朔日歿す歳五十九深川淨心寺に葬る

扇屋宇右衛門 墨河  
本姓鈴木氏號五明樓娼家に樓を付けし始なり狂名棟上高見を云寛政十三酉年正月十一日歿す歳五十八淺草常福寺に葬る(扇屋は江戸吉原江戸町一丁目に住みし妓樓の大見にして尤も舊家なり墨河は頗る奇才文思あり歌俳茶の好みを好み風雅に心を委ね身を慎み行を正し抱へ遊女等をするに慈愛あり家の妓女には花扇淵川など尤も高し是等の妓女皆手跡よく歌をもよみたり墨河の契めに千蔭江なごを師とせしに由る高尚雅麗なりとの世評高かり寛政六年の春本石町川岸に飯田屋文之助と云若者あり花扇と馴染せ置さしが逢ふなり花扇の情義にて淺草山の宿に假住居させ置さしが逢ふなり花扇の情義にて淺草山の宿に花扇は姿をかへ大門をぬけ出で忍びて文之助の許に至り共にかげ落ちて行くへ知れざりしを様々尋ねて主家に戻しぬ然るに花扇の其夜より病氣と稱し籠り居て勤めせし墨河さましくいたはり諭して「散らさじとぞめし心もまら梅のかばかり風の吹きつるらん」と詠じて遣しければ花扇もさすがに恥ぢ且感涙を流して「ちらさじとぞめし元根の梅の花また來る春に咲かざらめやは」と返歌して元の如く勤めしとぞ)

扇屋稻木女 千戸路  
鈴木墨河妻歌書とも千蔭の門人文政八酉年五月廿六日歿す歳十六寺同上

淺利又七郎  
名義信一刀流小野派の名人嘉永六丑年二月廿日歿す年七十六淺草田圃慶遠寺に葬る

越後中納言景勝家來なり始盤物と云(後和歌を飛鳥井黄門雅庸卿に學ぶ集外歌仙成功して「芳野山花まつ」の和歌を巻中に入らる後水尾院御褒美の御短冊を賜る御製みつきのの櫻よきとく春風に言葉の花もささぞ初ける)

坂川暘谷 芝泉堂  
名貫文字平學稱平次郎御家流の書法を能くし手跡指南を業とす嘉永二酉年六月歿す本所本法寺に葬る

坂田兵四郎 聲和  
小唄の名人今長唄の坂田は此流儀なり元祖坂田藤十郎の甥也享保二酉年六月十一日歿す歳四十八深川淨心寺に葬る

坂田鷗客 鹿園  
名愛字世誨通稱亮八一號鹿園書家なり明治九年九月五日歿す歳五十一

相樂一雲  
下谷廣小路に住す町醫師なり寛政十二申年十一月廿二日歿す行年百六十八(文々珍話集に一雲儀は奥州會津若名家滅亡の後の江戶に出て下谷に住居し近邊の人に祖父の家滅亡の事を知りて下谷の生年を物語る事嫌へは心易くも慥に知りて若年の項の事一雲がいふを以て其年歴を考へ時として若年の項の生れなるへさかど人云あへり見掛は七十餘歳と見ゆるのみにて格別替りたる容貌にもあらず然るに牛込神樂坂に片桐長兵衛とて千石の御旗本あり今とて苗字を替て下條長兵衛と云しが生嶋御旗本なり今本の隠居有り享保十巳年八十の賀を祝ひて老人七人尙齒會有之其面會〇柳原越中守家來百六十七歳志賀瑞翁俗名金太郎醫師百三十六歳小林勘齋〇松平肥後守家來百七歳佐治宗見〇御旗本隱居石寺宗壽翁稱權左工門醫師九十三歳谷口一雲御旗本八十三歳下條長兵衛浪人八十三歳岡本年之亟右打寄集會せしとて其節の書面今片桐長兵衛方に

二

殘れり然るに其中に出たる谷口一雲といへるは則今の相樂一雪か事なり残りて寛政十二年に死す享保年中尚齒會の書記により其年輪を考ふるに凡百六十八歳なり(中略)此一雪か生質は物事に勞する事なく流水のよどみなく行かどとく滞りたる心なくして心に思ふことを包み隠すと云ふとなく我儘に世を送れる一奇人なり常に無益の事と苦勞すまじきと大欲を慎むべしといへり云々)

坂内寛哉 詩繪工の上手柴田是真の師なり天保六未年四月廿日歿す歳六十九入谷正洞院に葬る

酒井抱一 雨華庵抱一を見よ(うの部)

坂井伯元 號伐木林道春門人廣澤の師といふ元祿十六未年十一月十日歿す歳七十四駒込龍光寺に葬る

坂井學思齋 一號東卓處士名直隆稱孫太郎享保十三戌年十月十一日歿す歳三十五

坂 昌成 天保十三寅年八月十一日歿す

榊原一學 香山 名長俊武器古實禮式に精し號忘筌齋寛政九巳年十一月廿日歿す歳六十四谷中天王寺地中了院寺に葬る

榊原霞洲 名延壽字万年篁洲子寛延元辰年九月朔日歿す歳五十八鯉ヶ橋圓應寺に葬る

榊原芳野 通稱高藏國學古典に精し伊能穎則門人明治十四年十二月四日歿す年五十五

榊原篁洲 名玄輔字希翊和泉の人木下順庵門人寶永三戌年正月三日歿す歳五十一寺霞洲と同じ

榊原月堂 稱越中守築地邸に住し千八百石を領す安政六未年九月廿九日卒す歳六十一深川富吉町正源寺に葬る

臯月平砂 解菴 名良珍字美叔貞佐門弟江戸の人天明三卯年二月廿八日歿す三田中寺町常林寺に葬る

佐習淡齋 文政八酉年七月四日歿す歳五十四相生町淨運寺に葬る

三國正心 筆海堂 本姓菅原氏通稱素助初名正真後正心に改む水戸の人延寶二寅年十月廿四日歿す年六十一谷中自性院に葬る

三遊亭圓生 圓里 始馬喰町附木店に住す落語家にて俳七十一(圓生は始め東亭八ツ子門弟後鬼九多子と云ふ後に三笑亭可樂門に入て東亭亭世樂と改め故有て破門せられ自立して山遊亭猿松と名乗りけるが立川馬門人と成り馬笑と改め寛政九年四月又三遊亭圓生と改む座しなから役者の身振聲色芝居掛り鳴物入の元祖なり)

三陀羅法師 姓清野氏内神田に住す狂歌の名人文化十一に葬る「さぬ」の情をあらば今ひとつうをもつけよ明むつの鐘」又「すかし見ればひるかどをまで武藏野のくさきをわけて出し月哉」など世上に云ひはやさる)

三條西季知卿 明治十三年八月廿四日歿す

三條實萬公 諡忠成公安政六未年十月六日歿す歳五十八

三條實美公 明治二十四年二月十八日歿去歳五十五昔羽護國寺中豊嶋ヶ岡に葬る

三條實隆公 逍遙軒 西三條内大臣法名堯空號聽雪天文六百年十月三日歿す歳八十三

榊原淨晃 百兒 名忠次式部大輔寛文四年辰三月廿九日卒す歳六十一

彭城百川 通稱源左衛門實曆三酉年八月廿五日歿す年五十六

坂將曹 靜山 名光淳延享四卯年九月廿日歿す四谷善慶寺に葬る

坂 秋齋 天明四辰年正月十九日歿す歳八十九洛東真如堂に葬る

坂本融賢菴 名久隆稱左京醫にして儒を兼ね延享四卯年八月廿九日歿す歳五十四河東開名寺に葬る

坂本吳山 名得明稱仁右衛門越後高田侯儒臣明和八卯年八月廿五日歿す歳五十六落合村泰雲寺に葬る

坂本天山 名俊豊字伯壽稱孫八信州の人高遠侯世臣後致仕して諸州を漫遊し炮術を試み一家の炮術をなす享和三亥年二月廿九日肥前平戸にて歿す歳五十九

坂本政均 元高松藩儒赤井嚴三の男幕臣坂本良右衛門の家を繼ぐ洋學を修めて文久元年翻譯局詰を命ぜらる明治二十三年一月十五日歿す歳六十駒込吉祥寺に葬る

佐田介石 等象齋 明治十五年十二月九日越後高田に寂す淺草桃林寺に葬る

佐竹永海 愛堂 通稱衛司字周村又號九成堂又幽室子奥州の人法眼に叙せらる明治七年戌十二月廿四日歿す歳七十二

薩摩太夫外記 通稱兼太郎茅場町に住す享保元申年正月十五日歿す 實は正月十一日 歲四十五 大火の爲焼死

藏六居士 君樹 補姓名茂喬字君樹稱六藏濱村氏家別家名人と稱せらる寛政六寅年十一月四日歿す本所靈山寺に葬る

藏六居士 賁齋 名參字兼徳又號賁齋幼稱仙吉君樹の姪にして嗣子となり六藏と稱し又藏六居士の號を繼ぐ名人 藏六と謂はる文政二卯年七月十八日歿す歳四十八寺全上

藏六居士 訥齋 名籍字子收初號南溪晚年訥齋と號す本姓小林氏初め賁齋に從て家刻を學び絶技の稱あり賁齋歿後親戚訥齋をして師後を嗣がしむ因て亦藏六と號す天保十四卯年八月十八日歿す歳五十三寺全上

莊恬逸 春龍 名良宣字斌剛松平城州侯儒臣正徳元卯年六月十三日歿す歳六十二駒込吉祥寺地中龍光寺に葬る

桑揚庵光 識之 通稱岸字右衛門又光甫狂名つゝりの光瑞泰寺に葬る辭世一一聲はするでは開かぬはとゝきす年分夢の曉の空

相馬大作 南部大膳大夫家臣本名下斗米秀之介江戸に走りて一番町八木丹波守組品川十右衛門長屋に隠れ居たるを文政五年閏正月廿一日飯田町にて被召捕同年八月廿九日死刑歳三十四

莊子謙 名允通稱莊田二郎後平五郎豊後の人曰杵侯世臣南部門人實曆四戌年三月十六日歿す歳五十八高輪妙福寺に葬る

佐野隱山 名正意紀州世臣早く仕を辭し同州柳谷山中に居り實曆二申年七月十四日歿す歳九十七紀伊關部邑柳谷山中に葬る

三條實美公

三條實美公

明治二十四年二月十八日薨去歳五十五音羽護國寺中豊嶋ヶ岡に葬る

三條實隆公

逍遙軒

西三條内大臣法名堯空號聽雪天文六百十年十月三日薨す歳八十三

莊子謙

南郭門人寶曆四戌年三月十六日歿す歳五十八高輪妙福寺に葬る

佐野隱山

名正意紀州世臣早く仕を辭し同州柳谷山中に居り寶曆二申年七月十四日歿す歳九十七紀伊園部邑柳谷山中に葬る

佐野東州 名潤字君澤稱文助文化十一戌年三月十日歿す 淺草新堀正定寺に葬る

佐野量丸 竹元齋 陶宮九三門人明治二十一年十月八日歿す 八十二谷中天王寺墓地に葬る

佐野紹益 榮庵 名重孝通稱灰屋三郎右衛門京都東上立 あり傾城吉野を妾とせし人なり元祿四未年十一月十二日歿す 八十三内野新地立本寺に葬る

佐野善左衛門 政言 姓藤原高五百石初名源之助嵯川 相模守組新御組入天明四辰年四月三日切腹す 東門跡中山徳本寺に葬る

櫻田治助 左交 通稱笠倉善兵衛幼名治三郎文化三寅年 六月廿七日歿す 七十三下谷わら店法 養寺に葬る 法號黙了院左交日念辭世「花清し散ても浮む 水のうへへ」左交の濠越二三治後に榮陽と改の門弟にし て中興名譽の一人なり寶曆八年戲場へ出勤せしより五十 餘年狂言の作意一變し殊更二番目世話物に妙を得又名題 小書等至巧なり世人呼んで櫻田風と云ふ一流を殘せり又 淨瑠璃を著すと百廿餘段何れも佳作なり殊更狂言せりふ 時好の詞或ははやり物などを道具に遣ひ見物の耳目を悦 ばし趣向思ひ付など俗に芝居通の悦ぶこと尤多し

櫻田治助 世 松島半二(元祖)を見よ(まの部)

櫻田治助 交左 二代目治助門人初音助後松島半二三代 目櫻田治助と改め深川仲町に住す家號 山城屋といふ明治十年八月七日歿す 七十六東本願寺中 法融寺に葬る

佐倉宗五郎 木内宗五郎を見よ

佐久間草偃 艸顯 名顯字叔徳松村吳春門人安政元寅年 四月廿六日奥州棚倉にて歿す 八十七

佐久間修理 象山 名啓字子迪號滄浪真田侯儒臣元治元 子年七月十一日刺殺せらる 五十四

小枝繁 絳山 通稱露木七郎次號歌鶴山人小説戯作を好 述す又擊劍の術に長じ水府御主殿附となり四谷忍原横町 に住す文政九戌年八月七日歿す 六十八

佐々木嘉武 文山の男家業を継ぐ享保十四年十月二日歿 す 五十五

佐々木景欽 天保二卯年九月十八日歿す 五十二洛正行 寺に葬る

佐々木玄龍 池菴 字行又煥甫稱萬次郎江戸の人文山の 兄享保八卯年二月廿一日歿す 七十 四芝増上寺地中淨運院に葬る 法號領春院興譽瑞靈玄龍

佐々木文山 墨華堂 名淵龍字文山稱百助玄龍弟享保 二十卯年五月七日歿す 七十七 寺同上法號流芳院發譽墨花文山居士

佐々木琴臺 名世元字長郷號仁里稱源三郎種村箕山門人 寛政十二申年八月廿日歿す 五十五谷中感 應寺に葬る

佐々木志津磨 靜菴 京の人號松竹堂又専念一家の書 法を立て志津磨流と云ふ元祿 八戌年正月十九日歿す 七十七洛西淨福寺に葬る(一説 に金澤の人稱七右衛門號専念翁名直信加茂の社家藤本甲 斐の門人なり或人云書家の看板をかくと此人より始ると)

櫻井梅室 名雪雄近代俳道の名人嘉永五年子十月朔日歿 す 八十四洛本善寺に葬る

櫻井吏登 雪中菴 周竹(寸松齋嵐雪門)門人始李岫嵐雪 雪中菴と稱す寶曆四戌年六月廿五日歿す

櫻井蕉雨 文政十二丑年五月九日歿す

櫻井雪館 寛政二戌年二月廿二日歿す 七十四

佐久間熊水 名欽字士欽鶴士寧門人東海の姪文化十四丑 年十月廿五日歿す 六十七下谷坂本養玉院 に葬る(補正諸家人物志に熊水は江戸の人下谷に住居す 天明元年三月望日初て兩國の酒樓に會宴し都下の文士を 招延す此こと明和年中勝川春章より起ると雖も皆寺院に 於てし酒樓に催すこと熊水其本を開き書畫會なる者今に 有て絶えず云々)

佐久間洞巖 容軒 名義和字巖號太白山人遊佐木齋門人 奥州の人仙臺侯に住ふ元文元辰年二 月十日歿す 八十四

佐久間東川 名茂之字思明書家なり寛政十二申年十月廿 五日歿す 本所法恩寺に葬る

佐久間勝之 從五位下大膳亮、正勝男寛永十一戌年十一 月十二日卒す 六十七

佐久間宗透 不干齋 從五位下將監俗稱甚九郎信盈の 男織田信長公に住ふ寛永元年子 閏四月廿七日歿す 七十六

佐久間文爾 夜雨亭 名維章寛政十一未年六月十九日 歿す 青山玉窓寺に葬る

佐々木弘綱 竹柏園と號す伊勢人足代弘綱門人明治廿四 年六月廿五日歿す 六十四谷中墓地に葬る

佐々木宗淳 十竹 號子朴初め妙心寺の僧後儒と成り助三 郎と云ひ水府に住ふ元祿十一丑年六月 三日歿す 五十九常州増井勝樂寺に葬る

篠本竹堂 名龍字子温又號新齋稱久兵衛本姓佐治氏井上 金我門人幕府に住ふ續三王外記は此人の著な り文化六巳年九月五日歿す 六十七、四谷南寺町榮林寺 に葬る

埼 淡園 戸崎を見よ(まの部)

佐瀬得所 名恒字子象又號松城稱八太夫會津藩明治十一 年一月一日歿す 五十七、三田臺町寶相 寺に葬式其實白銀臺町西照寺に葬る

きの部

紀梅亭 九老 本姓大津氏名時敏無村の門人始め平安に あり後舊郷大津に住し地名を姓とす文化 九申年七月七日歿す 年七十

木部滄洲 名敦字子敏稱順助北溪門人守山侯に仕ふ明和三年戌十一月廿二日歿す歳四十六小石川三白坂慈照院に葬る

城戸千楯 稱範次號靈室荒木田久老門人弘化二巳年九月廿一日歿す歳六十八洛黒谷山上に葬る

城戸南華 名垣字亭一豊前小倉の人寶曆四戌年七月三日歿す歳四十一嵯峨法輪寺に葬る

木戸松菊 名孝允稱準一郎明治十年五月廿六日卒す歳四十四

衣笠南翁 名一淳字宗葛稱六左衛門堺の人儒を以て鳴る延享三寅年八月廿三日歿す年六十七谷中玉林寺に葬る

祇園南海 名正郷字伯玉木下順巷門人寶曆元未年九月八日歿す歳七十五(此人通稱與一郎紀伊侯儒臣となり始めて宋の沈無名が書を學び善く竹を畫く日本南宗の祖たり)

祇園尚濂 通稱孫三郎字師援一號百懶南海男寛政三亥年五月歿す歳七十九

紀海音 梗並貞義を見よ(えの部)

清原雄風 崑岡 本姓森氏稱市原玄達字伯高豊後の人詠歌を業とす文化七巳年八月廿日歿す歳六十四、四谷南寺町法藏寺に葬る

清原宣賢 環翠 古學博士從五位上大外記天文十九戌年七月廿二日卒す歳六十八

清原雪信女 久住守景女母は神足善右衛門法名道庵の女なり名はおゆき後平野屋伊兵衛守信か妻と

子と成り後兩度芝居へも出勤せしが不評にて止む且其妻女彼を嫌ひ遂に離別す然れども名前は其儘にせり安政四巳年十月二日震災の爲めに死す淺草橋場法源寺に葬る

舊旅居士 忍見院 東本願寺御門跡一如上人芭蕉に學び後一派を立つ元祿十三辰年四月十三日寂す歳五十二

牛露軒一雪 柳風菴 掠梨氏稱三郎兵衛京の人貞徳の門延寶八申年九月二日歿す歳六十五

北庭筑波 平米雷 本姓伊井通稱孝之助明治二十年十二月十日歿す歳四十六深川高橋本誓寺に葬る

北圃恪齋 名恭字仲温北島氏紀州在田郡栖原村の人天明二寅年八月十三日歿す歳五十二(貞享の頃書肆を江戸に開き須原屋茂兵衛と稱すると恪齋に至る迄既に六世)

鬼谷少石 天明二寅年九月十三日歿す三田北寺町大松寺に葬る

北尾重政 花藍 別號台嶺又紅齋齋一陽并稱左助北島氏伊勢の人書畫共に好し文政二卯年二月十一日歿す歳八十一(重政はもと日本橋通一丁目須原屋茂兵衛方の雇人にて清助といへり同人のもと紀州北島村に在るを以て我が姓とせり書法をよくして曆の版下は老年に至る迄かきたり版下は筆工中當時三都に及ぶ者なしといふ書も又妙手なり歿後浮世繪の品格落ちたりといふ評さへありき)

喜多川歌麿 柴の屋 稱勇助後勇記號燕齋齋名信美武州川越の人文化二巳年五月三日歿す歳五十三(始め狩野家の書を學び後鳥山石燕の門に

なる探幽法印の門人なり天和二戌年四月廿九日歿す歳四十四

清川正明 姓愛知稱八郎文久三亥年四月十三日横死

清田龍川 名勳電北海の三男君錦の嗣子と成る文化五辰年十一月十九日歿す歳六十二

清田儋叟 名約字君錦號孔雀樓主人稱文平伊藤龍州男天明五巳年三月廿三日歿す歳六十七

清田宜齋 實曆五亥年三月十一日歿す歳七十三洛東大雲院に葬る

玉瀾女 本姓徳山氏百合女の子名を町と云ふ池野大雅堂の妻天明四辰年九月廿八日歿す歳七十八

玉室宗珀 障眼子 大徳寺百四十七世一號春屋宗嗣寛永十八巳年五月十四日寂す歳七十

清元太兵衛 紫雲 延壽齋の實子幼名巳三次郎文政元年三月都座初舞臺同六年正月榮壽化二年冬又清元太兵衛と改む是清元の二代目なり弘五十四深川淨心寺に葬る

清元延壽太夫 俗稱岡村吉五郎寛政六年富本太夫と改め同十一年市村座初舞臺文化九年豊前と不和と成り廢業し同九月再勤して豊後路清河太夫と云ふ同十一年清元延壽太夫と改め文政七年春剃髮し延壽齋と改名す文政八年五月廿六日意恨の爲刺殺せらる歳四十九深川淨心寺に葬る

清元延壽太夫 實は淺草今戸町材木商藤田屋繁次郎と云此流儀懇望にて遂に持參金を以て養

入り一格をなし浮世畫の妙手男女の時勢を寫す事尤上手にして近世錦繪の花美を極めたり文化元年五月十六日豊臣太閤と五婦人を畫き錦繪にして賣出せし事に付き御吟味の上三日入牢の上手鎖の罪を得七月七日落着歌麿此時馬喰町に住居す

北川眞顔 狂歌堂 通稱北川嘉兵衛姓紀氏後號俳諧歌場文政十二丑年六月六日歿す歳七十七

北川貞扇 東園舎 大坂の人推本才廣門人寛延三年五月十六日歿す歳六十四

北村隆志 號信齋又錦花堂狂歌俳諧共に善くす明和元申年九月六日歿す歳七十一(東陽子云「藝が身をたすくる程のみあはせ」と云ふ句は錦花翁隆志といへる俳人の獨吟七百韻中の句なり海内に行簡て高名なる句なり翁は梨柿園信徳の門人にして京籠井高辻の人なり好事の者句の面白さに前句付の集に再び出せしより流布せり)

北村文英 平安の人名可昌號馬所稱伊兵衛仁齋門人享保三戌年七月廿一日歿す歳七十三

北村湖元 湖春男始湖源號信安齋寛延二巳年五月四日歿す歳七十四、四ッ谷日宗寺に葬る

北村湖春 花果院 季吟法印男父の業を嗣て歌學所に補せられ法眼に叙す元祿十丑年正月十五日歿す歳五十下谷池の端茅町正慶寺に葬る

北村季吟 拾穂軒 通稱初め久助呂菴と號す後歌學所と稱する祖なり寶永二酉年六月十五日歿す歳八十八寺同上(季吟は江州北村郷の人醫を以て業とす和學を貞徳に學び終に一家をなす元祿二巳年十二月二十一日父子共に新規被召出二百俵被下置悴湖春は貳拾人扶持被下席の儀は御醫師並に被申付其後元祿七戌年三月十一日三百俵御加増同十二年十二月十八日被叙法印歌學所に進み再昌院法印と稱し國學博士とも稱す別號湖月亭

北村季文 稱平吉季春男春水の孫なり博覽にして漢學にも通せり季吟以來中興の人と稱す法印に叙せられ嘉永三年二月九日に歿す年七十三

北村春水 湖元の男明和五丑年五月十七日歿す四ッ谷日宗寺に葬る

北村正立 成等院 北村季吟二男稱源之丞元祿十五未年閏八月廿一日歿す歳五十一谷中瑞輪寺中源妙院に葬る

北村雪山 名三立號雪參にも作る又花隠とも云肥後熊本の人承應中江戸へ出て四百石を以て肥後侯に仕ふ大酒放蕩自適して後職を辭し元祿十五年十月二十一日長崎に死す(雪山醫學を長崎に修する間來船の支那人に就き又歸化の明僧に親しみて文徵明の筆意を受け漢様の書法を以て大に鳴る近古漢様の書道の盛なる此人より始まる細井廣澤も此翁の門人なり尙此翁の崎行近世崎人傳にあり)

喜多村節信 筠居 通稱彦助後彦兵衛名又信節とも云ふ日歿す歳七十三淺草田圃幸龍寺に葬る

杵屋六三郎 初長唄三絃の名人享保十九年三月十八日歿す

杵屋六三郎 天滴 初代六三郎の子中興の名人にして長唄の節を二變せり又二人三絃の類の曲彈をして是かため見物の評有しも此天滴より始る寛政三年三月廿八日歿す歳八十二芝光圓寺に葬る

杵屋六三郎 杵屋正次郎門人初名長次郎後六三郎薙髮して六翁と改む安政二卯年十一月晦日歿す歳七十谷中川端本壽寺に葬る

杵屋六左衛門 吐曉 始め三郎吐曉は俳名也安政五年八月十六日歿す歳五十四深川淨心寺地中善應院に葬る

杵屋勘五郎 道廣 本姓中村勘兵衛三男長唄三絃の祖寛永二十年未九月十一日歿す歳七十深川本誓寺中勝徳院に葬る

杵屋勘五郎 喜絃齋 江戸歌舞妓三絃の元祖初め杵屋祖杵屋六左衛門元祿九年十月二日歿す歳六十一年未十月廿一日歿す年六十一寺同上

杵屋勘五郎 照海 初名三郎助文久元年十一月六日歿す歳五十一

杵屋喜二郎 長唄三絃并にはやし方等級又法式を定めし人にて今の芝居の大さつまも此人に始ると云て可なり正徳五年未五月十二日歿す歳六十七

埤淡園 戸崎を見よ

北向道陳 堺の人豊臣家に仕ふ紹陽門人利休壯年の時師といふ永祿五戌年正月十八日歿す歳五十一

北向雪竹 竹叟 通稱八郎兵衛平安の人上代様の書を著す俳人芭蕉翁の書道の師なり元祿七申年五月十二日歿す歳七十二

北野能順 連歌を以て鳴る寶永三戌年十一月廿八日歿す歳七十九

北山馬孟熙 寒巖 名馬良稱大太郎御先手與力漢書を著し清人に學ぶ文晁の師なり寛政十二年正月十八日歿す淺草山谷法禪寺に葬る

喜多武清 可菴 字子慎號五清堂谷文晁門人安政三辰年十二月廿日歿す歳八十一芝二木榎承教寺地中顯乘院に葬る法號道玄院幽譽可菴武清辭世一來て見ればこゝ二本の面白き斬相手に其角一蝶

北澤遜齋 名就將稱新吾天明八申年十月廿七日歿す歳五十三洛東鳥部山に葬る

北嶋檢校 元祿三年九月四日歿す

北靜盧 梅園 名慎言字有和通稱三左衛門四當書屋山岡俊明門人嘉永元年二月廿九日歿す歳八十四西久保天徳寺中教受院に葬る(靜盧は元芝邊のすきといへる料理兼待合茶屋の子なり幼名定次郎と云家根方棟梁の家になり網の破損針金といへり一度古本のせどにて狂歌師となり後又狂歌を廢して學に耽り終に博識となり云ふにもなり此翁に事物等をまゝ聞きたりと云ふ此人の曲亭馬琴も此翁に日記を見て知らるさしも根底博學宏識なるは其著梅園日記を見て)

杵屋正次郎 天滴門人名手の聞えありゆりやすの文句を三味線彈きにて綴ること此正次郎に始る文政三年辰九月朔日歿す

橋庵田鶴丸 唐衣橋州の門人狂名蘆邊田鶴丸俗稱次郎兵衛天保六未年十月六日溺死す歳七十七

金令舍道彦 本姓鈴木氏奥州仙臺の人文政元寅年九月六日歿す歳六十三

金羅居士 田沙 號芳草林一俳人なり寛政六寅年正月五日歿す歳高輪正覺寺に葬る

木村蓬萊 名貞貫字君恕徂徠門人初嶺南稱勝吉勝山侯の學士娶らす子なし明和三亥年十月廿五日歿す谷中日暮里臨江寺に葬る

木村得臣 名晟號玉函又梅軒稱堯内北深門歳四十にして目を病み盲とあるされども教授して業とす寶曆二申年八月廿四日歿す歳五十二三田長松寺に葬る

木村容齋 越後高田侯の儒員明治二十一年二月十七日歿す歳五十六

木村雅經 立嶽 越中富山前田侯藩士狩野晴川及勝川に學ぶ明治二十三年七月九日横濱自宅に歿す歳六十四

木村兼葭堂 異齋 通稱吉右衛門名孔恭字世肅浪花堀江の人好事の癖あり古書畫古珍器を多く藏せり享和二戌年正月廿五日歿す歳六十七

木村毅齋 名高致實は根岸長兵衛子稱彌十郎寛保二戌年十一月朔日歿す歳六十三高輪泉岳寺に葬る

木村子虛 名謙常州の人稱八左衛門寛政八辰年七月六日歿す歳六十

木内宗五郎 下總國印旛郡公津村の名主なり萬治元年二月公津村に磔死近年祠を建て、宗五靈社と號す其側に墓あり

鳩居堂直孝 明和八卯年二月三日歿す歳五十九

紀伊國屋文左衛門 千山 本姓五十嵐氏父は紀州の人初名文平享保十九寅年九月廿四日歿す歳六十六深川靈巖寺地中成等院に葬る法號歸性融相熊谷墓平戸にも墓ありと云ふ追記に本姓は別所を眞とす歿年は元祿六年八月八日享年五十四葬地は深川龜住町玄信寺とあり

木下長嘯子 天哉翁 名勝俊從四位下左近衛權少將洛東靈山に閑居し東山夢翁の號有り慶安二丑年六月十五日卒す歳八十二

木下寅亮 竹軒 名汝弼號蘭潭木下順菴次子金澤藩に仕ふ寛保三亥年七月五日歿す歳七十七千束村に葬る

木下道圓 蘭所 名元高字平之儒士かり享保元申年十二月廿七日歿す麻布善福寺に葬る

木下蘭臯 名實開字公達稱字左衛門尾藩の世臣實曆元未年六月十九日歿す歳七十二

木下應受 應震の父字君贊圓山應舉二男出て木下を冒す文化十二亥年九月六日歿す

木下應震 應瑞義子實は應受の子なり字仲恭天保十一子年二月十七日歿す歳五十五

木下應瑞 應舉の子字儀鳳砂子詩畫に妙を得たり世に詩瑞と云ふ是なり文政十二丑年三月十九日歿す

木下杏林 順齋 名元昌道圓の男正徳四年八月六日歿す麻布善福寺に葬る

木下順菴 名貞幹字眞夫稱平之允號錦里敏慎齋とも云に仕へ延寶申幕府御儒者に召出さる元祿十一年寅十二廿三日歿す歳七十八千束村に葬る池上本門寺内久壽院碑あり靖恭を諡す

菊池衡岳 名禎字叔成稱内記紀府世臣松崎觀海門人號門四友文化十二年八月十六日歿す歳五十九布永昌寺に葬る

菊池耕齋 東勻 京師の人父は元春寛永十年江戸に出で道春の門に入り久留米侯に仕ふ天和戊午十二月八日歿す歳六十五下谷廣徳寺に葬る

菊池廓堂 名履稱順助笹山侯儒士天保元寅年八月十二日歿す

菊池容齋 武保 通稱菊池量平幕府御先手與力本姓河原氏明治十一年六月十六日歿す歳九十一谷中天王寺墓地に葬る

菊池南汀 名短字子正稱平八安永八亥年七月十五日歿す小石川常樂院に葬る

菊池南洲 名重固字子厚稱造酒造南汀子文化五辰年七月廿二日歿す小石川常樂院に葬る

菊池五山 名桐孫字無弦又號小釣雪一號娛菴稱左太夫詩州の人詩を好くす嘉永二酉年六月廿七日歿す歳八十一下谷廣徳寺に葬る

菊岡沾涼 崔下菴 内藤露沾門人通稱藤兵衛名房行號南仙齋伊賀上野の人延享四卯年十月廿四日歿す歳六十二淺草誓願寺に葬る

菊岡沾涼 開行舎 天明三卯年二月二日歿す歳八十五芝増上寺地中昌泉院に葬る

菊田伊州 嘉永五亥年十一月廿五日歿す

菊后亭秋女 秋色 其角門人大目氏寒玉の妻享保十巳年四月十九日歿す歳五十七

菊守園見外 東雲菴 號重陽堂明治六年一月二十七日歿す

木澤福菴 安永七戌年六月六日歿す洛の淨華院に葬る

岸澤古式部 五代目岸澤式佐の子にて初名仲助文政六年式佐の名跡を嗣ぎ六代目と稱す嘉永七年古式部と改む萬延元年常盤津家元と不和に成り是より岸澤の一流を開けり慶應二寅年十二月十九日歿す

宜春菴觀翁 丹水 姓古氏元祿九子年四月十八日歿す歳六十九洛東淨福寺に葬る

岸本晚翠 稱幸左工門號樂遊園書を善くす文政四巳年十月廿日歿す歳四十六

岸本和英 壺枕齋 岸本調和養子享保二酉年二月四日歿す歳四十六築地本願寺地中に葬る

岸本調和 壺瓢軒 名友正號土齋石見の人江戸に出で萩野安靜門人正徳五年未十月十七日歿す歳八十二西本願寺地中に葬る

ゆの部

岸本由豆流 讚岐 字大隅號尚古考證園又権園本姓朝田家を嗣ぐ和學を村田春海に受く弘化三年閏五月十七日歿す歳五十八淺草誓願寺地中林宗院に葬る

湯川東軒 初名要字元綱又字丁甫と改む稱丙次平安の人仁齋晩年の門人久留米侯に仕ふ實曆八年寅十月歿す歳八十一

油谷倭文字 江戸京橋弓町伊勢屋平石工門女稱れしつ加茂眞淵翁門人實曆二申年七月十八日歿す歳二十深川本誓寺に葬る

涌蓮處居 姓名逸す又號曉峨居士冷泉爲村卿に和歌を學びて大悟の歌道を開く安永三年五月廿八日歿す

熊斐 熊代熊斐を見よ(くの部)

夕霧 大坂新町妓院扇屋の抱遊女本名照延實六午年正月六日歿す歳廿七大阪下寺町淨國寺に葬る

湯淺元禎 常山 稱新兵衛字祥備前の子世臣南郭門人天明元丑年正月九日歿す歳七十四岡山城東義家山に葬る

湯淺元禎 常山 稱新兵衛字祥備前の子世臣南郭門人天明元丑年正月九日歿す歳七十四岡山城東義家山に葬る

湯淺元禎 常山 稱新兵衛字祥備前の子世臣南郭門人天明元丑年正月九日歿す歳七十四岡山城東義家山に葬る

由美原泉

名濬字子善又好道稱善吉筑前の人伊藤仁齋門人加州侯に仕ふ明和九辰年十月晦日歿す歳八十一牛込板町宗參寺に葬る

めの部

目賀田文村 介菴

名宇隆字士蝶通稱帶次郎後帶力清水家御用人文晁門人明治十三年四月廿七日歿す歳六十八

明兆子 兆殿司

洛東東福寺の住たり吉山又兆典子破草鞋赤脚子とも稱せり應永三十四申年八月廿日歿す歳七十六

みの部

水戸光圀卿 義公

頼房卿男中納言西山翁と號す元祿十三辰年十二月六日薨す歳七十三

水戸齊昭卿 烈公

景山と號す萬延元申年八月十五日薨す歳六十一

三輪雲叟

天和二戌年九月十九日歿す歳六十洛南足院に葬る

溝口曉谷

名成曉字子謙號兼妙館又自玄堂一號墨齋千谷の子出羽寒河に生る寛政八辰年四月三日歿す歳六十九寺同上

溝口千谷

名成從字子誠號兼妙稱庄司美濃の人松野龍谷に從て書法を極め自玄堂の稱を嗣ぐ門生三千人と號す寶曆十辰年八月二日歿す歳六十五寺同上

美圖垣笑顔 愛亭

新橋加賀町の質商美濃屋甚三郎と云ふ後書肆と成り涌泉堂と稱す狂歌を嗜み眞顔の門に入り涌泉亭眞清と云へり晩年芝田町に移り弘化三年九月歿す歳五十八

三井高福

通稱三井八郎右衛門明治十八年十一月廿日歿す歳七十八

三井親和 龍湖

字濡々又號萬玉亭稱孫兵衛信州の人細井廣澤門人天明二寅年三月七日歿す歳八十三深川寺町増林寺に葬る

三井親孝 龍洲

親和男通稱孫四郎文化十五寅年五月七日歿す寺同上

水野大膳 華陰

名元朗字明卿春臺門人莊内世臣にて家老に至り國を富まし兵を強うし頗る政績ありし人なり寛延元辰年七月九日歿す歳五十六

水野種樹

四ツ谷に住し草木培養の術を自得し文政十二年草木綿葉集を著せり天保五年九月廿四日歿す歳六十八

水野忠成 堪翁

駿州沼津城主出羽守侍從天保五年二月廿八日卒す歳七十一小石川傳通院に葬る

三輪花信齋 在榮

猿を描くに妙なり寛政九巳年四月二十七日歿す四ツ谷勝興寺に葬る

三輪勇閑

姓廣森氏通稱紀伊國屋庄左衛門高田馬場に住す猿を書き根付を彫て名有り有徳の人にして渡世の爲にあらず谷中三浦坂宗善寺に葬る

三輪執齋

名希賢號躬耕稱善藏平安の人佐藤直方門人酒井侯に仕ふ延享元子年正月廿五日歿す歳七十六洛東建仁寺に葬る

三上和及 露吹庵

本姓高村氏直唱法師と號し洛西壬生村に隱栖す元祿五申年正月十八日歿す歳四十四

三好雪女 松慶尼

大坂島の内藥種商木津屋五郎兵衛女廿一歳の時柳里恭の妾となり後年清人伊孚九の門に入て書に志し又和歌俳諧を好くす文化元年二月二十三日歿す歳八十二

三谷因石

初名君季號松養軒明和二酉年三月二十八日歿す歳七十

三谷宗鎮 良朴

通稱丹下號南川子又不偏齋茶道を千原叟に習ひ儒を東涯に學ぶ藝州侯に聘せらる寛保酉年五月十二日歿す歳七十七

箕田牛山

名隆字世龍號風月樓又福應齋稱重左衛門書法に通ず文化九申年十二月十九日歿す麻布六本本崇崙寺に葬る

溝口竹亭

元祿五申年六月廿九日歿す歳三十五

溝口源谷

名成住稱庄司號後嘯齋後軒と改む別號自玄堂曉谷の子文化十四年九月十三日歿す歳三十三芝本立寺に葬る

水野忠邦 越前守

遠州濱松城主天保五年御老中同十四年九月十三日辭職閑居同十五年六月廿一日再勅上席弘化二年二月廿二日役儀召放嘉永四年二月九日卒す歳五十九(表向十六日)下總山川萬祥寺に葬る

水野皓山

名廣葉字士勤一號觀生堂稱源之進京師に住す物産學に精し弘化三年二月二日歿す歳七十

水野十郎左衛門

初名忠定後成之高五千石松平淡路守婿寛文四辰年三月廿七日松平河州邸に於て切腹歳五十二芝三田聖坂功運寺に葬る

箕作阮甫 紫川

名度稱字座西號成牛津山侯爵官もと美濃の人天保十年幕府に召され安政二年九月將軍に謁せり文久三亥年六月十七日歿す歳六十五白山淨正寺に葬る

箕作秋坪

明治十九年十二月三日歿す谷中天王寺に葬る

箕作省吾 玉海

阮甫嗣子弘化三年十二月十三日歿す歳二十六白山淨正寺に葬る

水間沾徳 合歡堂

名友兼通稱治郎左衛門號友齋始露言門人沾葉と云ふ後露沾社中たり享保十一年六月晦日歿す歳六十三本所法恩寺に葬る

水木歌仙

水木辰之助門弟娘踊師の祖安永八卯年七月二日歿す歳七十下谷竹町常在寺に葬る

水木歌仙

初代歌仙の養女文化十三年十二月廿七日歿す寺同上

水木歌仙

二代目實子稱榮女明治六年七月十五日歿す歳七十一寺同上

美津女 杉本美津を見よ

水島卜也 名之成通稱傳左衛門古實禮式に委し門弟三千餘人と云ふ元祿十五年八月十四日歿す歳九十一麻布日ヶ窪長輝寺に葬る

峰岸空阿 松濤菴 名宗古歌學を善くす文化十二年正月十五日歿す駒込大林寺に葬る

峯女 播磨屋某の子深川の産金合舎道彦門文政十一子年十月三日歿す歳六十二深川雲光院に葬る辭世「よしわしを語りしとも難波江のひと夜の夢と今はなりけり」

三繩準藏 蒲山 名惟直字温郷號桂林江戸濱町に住す清河門人文化五年正月廿八日歿す歳六十五西本願寺地中善宗寺に葬る

皆川篁齋 文政二卯年七月十八日歿す歳五十八

皆川淇園 名愿字伯恭號筠齋又有斐齋別號海子稱文藏京の人堀河學をなす學堂を建て、弘道館と云ふ書畫共に能くす文化四卯年五月十六日歿す歳七十四洛の阿彌陀寺に葬る

南宮太湫 名岳字喬卿稱彌六一號壹洲又積翠樓信州の人なり中西淡淵門人にて岡本花亭の師なり安永七戌年三月三日歿す年五十一牛島弘福寺に葬る

三村道樹 明治二年九月廿日歿す歳八十二

三浦梅園 字安貞號洞仙老豊後杵築の世臣寛政元酉年三月十四日歿す歳六十七

三浦瓶山 名衛興字淳天稱左兵衛石見の人山縣周南の門人寶曆中江戸に出て富山侯儒臣と成る寛政七年卯年九月十日歿す歳七十一本所中の郷徳音寺に葬る

宮原龍山 名律字樂大又名義房稱泰助文化八未年六月十七日歿す年五十二高輪泉岳寺に葬る

宮部義正 冷泉爲村卿門人稱忠八又孫八と改む初爲泰卿より勘當せられし人なり寛政四子年正月廿一日歿す歳六十芝三田小山龍原寺に葬る此人の歌人口に膾炙する「何事もいつはり多き世の中に子をおもふ道そまことなりける」

宮川忍齋 又號曆齋長沼齋門人始宮腰尙古と云ふ若州の人享保元申年十一月廿七日歿す歳六十二

宮川長春 春旭堂 稱長左衛門尾州の人寶曆二申年十一月十三日歿す歳七十一(長春は尾州宮川村の人正徳年間江戸兩國小路に住す、土佐家門人菱川氏の風を慕ふ長春曾て狩野家の下請負を爲して日光御用を勤め口中論なし狩野の門弟等大勢にて長春を打擲し其上荒繩にていましめ芥溜に入置く然るに宮川宅にては歸宅せざる故其子尋に出て父を芥溜より助け歸り性命別條なしといへども老人の事故足腰いたみ難澁の体を見て其子大に怒り一刀を携へ狩野の家へ切込み三人切殺す依て其子死罪長春の流罪狩野の家は關所となり其後長春は御赦免を得本所に住す此頃門人春水等は上を憚り恐れて氏を勝宮川と改む○延寛日記五の卷に寛延三年午十二月廿九日八町堀同心町に罷在候御繪師狩野春賀方へ芝新堀に住める同業宮川長春といへる者拂方金子の儀に付段々申募り候處春賀家内にて長春を取すくめ候儀を悻長助承り早速走付家内大勢よ手を負せ内兩人即死自分は自殺致候云々)

宮川龍駒 字子房稱貞吉寛政三亥年六月朔日歿す淺草東國寺に葬る

三浦竹溪 名義實字子彬稱平太夫江戸の人秋生徂徠門人柳澤侯に仕ふ後吉田侯儒官と成る寶曆六年五月五日歿す歳六十八市谷袋寺町運秀寺に葬る

三浦左藤 笠舎 通稱四郎左衛門號幽齋寛政五年五月廿一日歿す歳六十五淺草黒井町正覺寺に葬る(佐藤は江戸吉原有名の人三浦屋四郎左衛門とて大家なり高尾薄雲其他多くの名妓を出せり元和四年に其家起りて寶曆六年秋家絶えたり始京町一丁目右側角に住す後俳諧師と成り淺草山谷に菴を結べり)

三浦坦齋 名黃鶴字修鈴號思堂文政二卯年正月十日歿す歳五十六

三浦乾也 通稱陶藏明治二十二年十月七日歿す歳六十九築地門跡地中妙泉寺に葬る(翁ハ乾山派の未流にして磊落不羈實に一個の名人もない後仙臺藩にのみならず長崎に遊びて洋船製造の術を學び後仙臺藩に招かれて軍艦を作る是我邦西洋形造船の嚆矢なり又水戸藩の爲に反射爐を造り亦電信のヤボン横濱瓦斯の雛形等皆翁の製作に係る其他奇行奇言記すべきもの多かれと略す)

三浦吳山 瓶山の男稱和多理先職を襲ふ文化三寅年四月廿四日歿す歳四十七本所中の郷徳音寺に葬る

三浦茂正 淨心 通稱五郎左衛門號三五巷北條家の臣正保三戌年三月廿三日歿す歳七十九東叡山内普門院に葬る法號稱陽院定譽淨心

三熊思孝 花顛 字介堂稱主計加賀の人初月湖の門に入り住し行狀奇なり崎人傳を起草して世に行ふ(文の別潤は嵩溪也)寛政六寅年八月廿六日歿す歳六十五

宮川南溪 橋南溪を見よ(九の部)

宮川崑山 名徳字子潤天明七未年十月十五日歿す

宮川松賢 柿園菴 名正由號道柯居士又號松亭稱宇兵衛京の人令徳門人享保十一年二月廿一日歿す歳九十六洛の鳥部山に葬る

宮田迂齋 針峰 名明字子亮稱宇右衛門大和の人春臺門人天明三寅年十二月廿七日歿す歳六十六池の端正慶寺に葬る

宮園鸞鳳軒 初め宮古路園八と云ふ園八節の元祖明和八年初めて中村座春狂言に出勤天明五巳年五月九日京都にて歿す

宮園千之 本名山城屋清八文政年中江戸にて園八節の廢れたるを再興せり天保五年十二月歿す本所押上大雲寺に葬る

妙壽院惺窩 北肉山人 藤原の條に出づ

三宅亡羊 寄齋 名鳥字江南泉州の人藤原惺窩門人慶安二丑年六月十八日歿す歳七十洛北鷹峰に葬る

三宅万年 石菴 三宅觀瀾兄名正名平安の人官より浪華に學場を立て此人に掌らしむ享保十五年戌七月十六日歿す歳六十六河内物光寺に葬る

三宅道乙 革齋 亡羊義子號研山本姓合田氏稱忠兵衛備前侯に仕ふ延寶三卯年八月廿一日歿す歳六十三

二十八

三宅袋河 蝶々舎 俳諧漢學及書畫をも善くす元文元辰年五月十七日歿す歳四十一

三宅了閑 吟雪菴 名廣高茶事に名高し南坊流と稱す寛政三卯年三月十四日歿す淺草新堀松源寺に葬る

三宅觀瀾 名緝明字用晦號端山稱九十郎石菴弟平安の人淺見細齋門後木下順菴門に入る水府儒官享保三年八月廿六日歿す歳四十五駒込龍光寺に葬る

三宅錦川 通稱修平文政七申年八月十三日歿す歳六十五

三宅旭峯 享保三戌年八月七日歿す歳六十一洛東清光寺に葬る

三宅尙齋 名重固稱儀右衛門若冠にして某侯に仕ふ直諫を以て君公の怒にふれ三年獄中に幽せらる獄中に在て血書し狼靈白雀の二録を著す寛保元年酉正月廿九日歿す歳八十

都一中元 千翁 京都東本願寺某院の所化廿一歳の時還俗して山本土佐又岡本文彌に學ひ後一流を立て須賀千仞と名のる後都太夫一中と改め五十歳の時刺髮千翁と改む享保八年九月京地に歿す一春國著音曲系譜による一書名の忘れれども都一中正徳二年江戸に下り二代目團十郎方にて浄瑠璃を語りし事見えたり千仞江戸土産といへる浄るりも此頃なるへし又案るに春臺獨語に實永の頃都一中江戸へ下りし事をいへり又享保九年春中村座にて都一中追善淺間が嶽巴之丞二代目中村七三郎奥州嵐和歌野勤る事歌舞年代記に見えたり依て江戸へ來りしこと明らかし又大槻氏の話に享保十九年の追善浄瑠理淺間嶽は初代一中の十三回忌なり左すれば享保七年歿として可ならんか墓所は西京西大谷にありて四世序遊の父吾平か先年京師に至りし時見たりといへり云々

宮澤雲山 名雄字神遊號破硯翁嘉永五年二月五日歿す歳七十二

宮崎筠圃 名奇字子常稱常之進尾州の人伊藤東涯門人東涯歿して蘭嶋に學び又書を能くす墨竹殊に巧妙なり安永三年十二月十日歿す歳五十八

宮城玄魚 梅素 通稱三郎號玉抄子器用なる質にして書畫篆刻をもなし戯文戲作をもしたり明治十三年二月七日歿す歳六十四谷中天王寺に葬る

宮重忍齋 名信義字子房別號飯山稱甚左衛門蘭林門人國學を荷田在滿に受く元文二巳年八月廿日歿す歳五十四四ッ谷戒行寺に葬る(一書に安永十年八月六日歿す年六十六ともいふ)

宮本無三四 二天 吉岡太郎左衛門二男前名太十郎初號仙又天英後二天正保二酉年五月十九日歿す歳六十四下總行徳願寺に葬る

宮瀨龍門 名維翰稱三右衛門紀州の人服部元喬門人本姓劉氏明和八卯年正月四日歿す歳五十三高田玄國寺に葬る

三升屋二三治 思聲 狂言作者通稱伊勢屋宗三郎姓青地俳號和島後榮思又思聲といへり安政三辰年八月五日歿す年七十二深川龜住町心行寺地中正壽院に葬る(二三治の家は淺草瓦町二番組札差五代)

都一中世 本名千葉嘉六寛政四年三月一中節の中絶を再興せり文政五年七月某日歿す本所小梅淨泉に葬る

都一中世 明治十年八月廿日歿す歳三十本所小梅常泉寺に葬る

宮古路豊後掾 和中 都一中門人始め都國太夫半中又和中後に宮古路國太夫と改む享保十五年春江戸に下り葺屋町川小芝居へ出勤豊後節の祖なり元文五年九月朔日ある女と情死せり歳三十八

都屋都樂 龜徳 三笑亭可樂門人初三笑亭都樂後都屋又年十二月廿七日歿す歳七十三淺草法恩寺中光照寺に葬る(都屋都樂は小石川傳通院門前の生れにて上繪職高松熊吉と云ふ元素人岬のむれに入り又茶番狂言鳴物等を好み諸方を遊びあるきとありし物小屋出來たり是は舞臺や阿蘭陀エキママン鏡とて見世物方へ正面に美濃紙八枚綴ぎ位の物しつらひ五尺程向ふ方へ色々の繪をさし入れて見しむ人々珍らしく思ひ日々大勢の見物にて評判高かりし或日熊吉も見物して面白く思ひ又翌日も見物せしに品々替りたる書姿を視て種々の技藝に感服し如何もして是を學ばんと日々見物して途に此仕方を發明し知れざる處は其道の人に尋ね又飯田町邊に住める高橋養養は朋友にて俱に此技を好み又飯田町邊に此蘭科醫師玄莊の子なり終に藥用を傳授せられ元上繪師なれば自ら書をかきて寫したるに思ひのまゝに出來しかは是より猶工夫をこらし右書中に彩色を加へ其外火銀の光りを發明し自ら口上を述べ又唄ひて所作を寫し、に女養を見ても大感し此中へ鳴物を加へたらんには又一層面白からんとすしめしはかひの夫に習ひ鳴物に合せ亦口上も補助の人形を出し又は不岩の怪談のすこみなぞして見せければ諸人も驚き或は不

目伊勢屋四郎左工門(本姓青地氏米藏宿の起立人にして舊家なり人悪言して乞食四郎と云ふ)の出見世にして同町西側に住す此二三事武代目宗三郎實子幼名宗藏と云母は其頃富家の聞え高かりし府下三平八の(三平八と云へるは則渡邊平八 松本平八 水野平八なり)一人水野平八が女ちせ(此頃評判の美人にて錦繪にも出でしと云ふ)當家へ嫁して男子一人を生りて惣領は宗藏(二三次也)二男宗吉(放蕩にして家出をなし後書人となり名を月松と呼べり)女は早世す長男宗藏は文化元年家督して三世伊勢屋宗三郎と改め家相續せり妻は金座改後藤四郎兵衛弟只吉女と改めり早世す又妻は文化五年六月晦日歿す歳廿三實母ちせは七代目團十郎を最負し折々出入せしと宗三郎(二三次也)も時々三升宅へ行て遊びくらしける内遊に吉原杯にも遊ひ放蕩の身と成り此頃全盛の噂高かりし角海老樓の遊女大井といへるに別染妻歿後身を購ひて出陣させ妻とせり此頃より戲場の作者に成らむと望み三升を頼みて文化九年市村座へ名前を出三升屋二三次と出せしが始なり(此時の市村座は名前に勤せず)翌十四年二月三升の作者井崎子方の者七人余を山谷の集八百善へ招き振舞と號し歌妓其他にて百人斗りの人數を集め近邊の座敷を借切會せし費二百金餘も散財せりと云ふ此事市中にて専ら噂となりしより本家伊勢屋四郎并親類は以の外の立腹にて終に文化十二年三月北町奉行所水田備後守役所へ宗三郎事久御前付相願同四月間届けられ宗三郎相續して宗三郎と改め幼年に付後見人相添愛に於て宗三郎三代目と名跡は取上げ本名を改め二三治と名乗り一家親類絶の上本宅近邊へ立廻り申間敷とて脚の分金を費ひ大井を連れ本所御前町へ移す此輩年大井は死す其後深川仲町の藝妓とくは幼妻とせり此輩に男子三人女四人出たり此内一男拾吉は幼少の折清元延壽大夫(後大泉)へ養子と成り養父大井と改め芝居へも出勤し評判も高かりしか嘉永の始め離縁と

成り昔屋町新道に移り永壽と名乗り稽古を業とせり此頃  
は二三治も零落して此に同居せり然るに永壽は嘉永四年  
五月歿し又實家瓦町の家も他へ譲りて黒舟町へ引移り追  
々衰弊して札差の株も同組の鹿嶋利助へ譲渡し是にて宗  
三郎の家は絶えたり○二三治作者として履歴は文化十  
三年子の顔見世より桐座にて二枚目と成り文政十巳年十  
一月より河原崎座にて立作者に進み嘉永元申年春市村座  
奥行の砌より退座出勤凡三十七ヶ年なり二三治の素姓知  
る人稀なれば言長けれど記す

三升屋四郎 東升

大坂の産狂言作者七代目白猿弟子分  
天保八酉年五月廿八日歿す深川寺町  
正行寺に葬る

三澤初子

仙臺侯綱宗の妾にして綱村を生めり綱宗幽居  
中側に在て忠節を盡せし人なり仙代萩の政岡  
は初子の事なりと云ふ貞享三寅年二月四日歿す歳四十七  
中目黒正覺寺に葬る(大槻氏云伊達實録に淺岡と云者は  
鳥有の人物なり世人三澤氏を以て淺岡局の本名なりと思  
ふも誤なり又葬地は仙臺孝勝寺を真とすと)

三島景雄 自寛

號方壺又三樂菴通稱吉兵衛眞淵門人文  
化九申年四月廿六日歿す歳六十八淺草  
新堀善照寺に葬る

しの部

學をも窺ひ天文地理曆數の事にも心得ありてその筋の著  
述もあり又鯨を捕る法に尤巧みなりと云ふ委しきとは畧  
す)

芝全交 交遊

通稱山本藤十郎と云ふ大藏流の狂言師な  
り西の久保神谷町に住す寛政五丑年六月  
十八日歿す

司馬全交 晋米齋

名林信號藍亭又米齋文政八酉年五  
月二日歿す歳五十一

鹽原太助

元上州利根郡の人江戸に出で貨殖して家を起  
す文化三年八月十四日歿す淺草八軒寺町東  
陽寺に葬る

鹽田隨齋

號澤雷醉士字士夢稱又之丞弘化二巳年二月廿  
八日歿す歳四十九

鹽谷宕陰

名世弘字毅侯號九里晚香園稱甲歳慶應三卯年  
八月廿八日歿す歳五十九谷中天王寺に葬る

鹽山善齋

名義勝字志立天明四辰年三月十七日歿す歳四  
十八京北西蓮寺に葬る

此中菴土芳

通稱服部半左衛門初號馬別號篁中菴伊賀  
上野人享保十五戌年正月十八日歿す年六十  
二長田西蓮寺に葬る

鹿野武左衛門

辻断の元祖もとは長谷川町に住せし塗師  
職人あり本名安次郎罪有て元祿七年二月  
大島へ流刑六ヶ年満居せしか同十二年四月赦免あり元祿  
十二卯年八月病死歳五十一

志賀理齋 忍齋

名忍字子堪稱理助號天鶴山人又我樂多  
老人とも云ふ天保十一年正月廿二日  
歿す歳七十八駒込吉祥寺地中洞泉寺に葬る

鹿都部眞顔

北川眞顔を見よ(この部)

司馬可因 立地庵

俳人寛政十一年八月十三日歿す  
日向還國寺に葬る

柴田碧海

天保六未年七月十六日歿す歳六十三

柴田南窓 正流齋

軍談師田邊南鶴門人房州南若谷村  
人本姓芝山俗稱次郎名常晴弘化三年  
年四月十五日歿す歳七十五

柴田義董 栞海

字威仲備前の人平安ま住し松村吳春  
學びて能手と稱す文政二卯年四月五  
歿す年四十

柴田是真 令哉

稱順臧字恒然號枕流亭鈴木南嶺門人  
初圓山派後一家を成す明治廿四年七  
十三日歿す歳八十五淺草今戸稱徳寺に葬る

柴野栗山

名邦彦號古愚稱彦輔讀岐の人始め後藤芝山  
學ひ後一家を爲す天明中幕府儒官と成る文  
四卯年十二月朔日歿す歳七十三大塚御厩品に葬る

柴山鳳來

名博我字子文明和八卯年九月廿九日歿す

柴山豫章

名協字季和稱七郎江戸の人豊後岡侯の世臣  
我の子北溪の門に入り儒官と成る明和四亥  
六月朔日父に従て平安に遊ひ客舎に歿す歳三十八

司馬江漢 春波樓

名峻字君岳號不言道人俗稱勝三郎  
孫太夫本邦油畫の祖文政元寅年十  
廿一日歿す歳七十二麻布淨林寺に葬る(本村慈眼寺に  
墓碑ありと云へり)江漢は始め浮世繪師鈴木春信の門  
入て重春と號し師歿後二世春信と名のれり後長崎に行  
蘭畫を學ひ油繪銅版の術を得たり文才もありいさゝか

志賀隨翁 藤怒軒

柳原越中守臣稱源太夫本名義則享保  
十五戌年六月十六日歿す年百五十五  
愛宕下天徳寺地中不斷院に葬る法號眞月院諦念隨翁(二  
斷院の過去帳にはあれど墓所未詳)

松露庵鳥醉

熊澤氏名序比文化五辰年四月九日歿す大  
光源院に葬る

松林亭伯圓 伯海

軍談師神田白龍門人南傳馬町寄席  
川嘉兵衛の男幼名助次郎伯海の號(一  
浪花在留中壽海より譲り受けたるなり安政二卯年十月  
日震災の爲に死す歳四十四)

松林山人 儼

長崎の人江戸に來り書を以て鳴る晚年僧  
と成り諸州を周遊し江戸に歸る俗稱松林  
羽矢一寛政四年八月十二日歿す大川端東江寺に葬る  
(此人沈南嶺方面圖が花鳥の畫法を得て筆跡世に高し淺  
草日音院の地内に掛堂をかまへ爰に終れり)

松亭金水 積翠道人

名經年又保定通稱中村源八郎嘉  
府家人神田大和町に住し手跡の  
師たり金川の門に入り筆耕をなし春水の人情本を淨し  
て自らも人情本を著述す金川の金に春水の水をとり金水  
と云ふ文久二戌年十二月十二日歿す年六十六浅草町大  
法寺に葬る

紫檀樓古善

本姓藤島氏始紫檀樓古木と云ひ制號して古  
喜と改む天保三辰年十月八日歿す歳六十六  
深川龜島町を信寺に葬る法名紫檀樓古善居士辭世  
二六道の辻駕籠に身はのりの道ぬふつ申して極樂へ行くと

志田野坡 無名菴

越前の人色部門人江戸三井南野店に  
勤む俗稱半次郎後彌助元文五申年正  
月三日日向國に歿す歳七十八

自墮落先生

山崎北華を見よ(この部)

志築柳園 稱忠次郎後姓中野と改む和蘭文法を創説せし人なり文化三年七月九日歿す歳四十七

白井震澤 名緝字士光別號綺々亭天明三卯年七月十三日歿す歳四十三洛西西方寺に葬る

新塲小安 通稱伊勢屋卯之助新香塲に住す俠客なり慶應元年八月五日歿す年七十六深川猿江重願寺に葬る法號觀譽靜翁

新塲小安 通稱米本卯之助と云ふ初代小安の子なり明治廿四年十月六日歿す年四十七墓所同前

志邑佳風 稱平次右衛門嵐雪の門人享保二酉年十二月十日歿す歳五十一谷中養泉寺に葬る

志村無倫 雪堂 號拾柴軒越後の人江戸に來り季吟の門に入る享保二酉年二月廿九日歿す歳六十三愛宕下青松寺に葬る

森羅亭萬象 風來 姓中原氏名中良號桂林初森嶋甫齋桂川甫周舍弟平賀源内門人狂名竹杖の爲輕森羅の號は鳩溪より譲らる後二世風來と號す文化五年十二月四日歿す歳五十五一本板上行寺に葬る

森羅萬象 南湖子 初名七珍万寶通稱福島屋仁左衛門年七月廿六日歿す歳七十西門跡中妙延寺に葬る

新宮涼庭 驅豎齋 名領字涼庭丹後の人平安に西洋醫術を始めし人なり安政元寅年正月九日歿す歳六十八

心越興儔 東皐 明人祇園寺住職と成り後水府に住す書を能くす元祿八亥年正月十九日歿す歳五十七

篠崎小竹 名弼號小竹齋三嶋の男別號長堂稱長左衛門嘉永三戌年五月八日歿す歳七十一

篠本竹堂 名籐字子温續三王外記の作者といふ文化六巳年九月五日歿す歳六十七、四谷南寺町榮林寺に葬る(篠本はサ、モトと稱ふるを正しとす仍てさの部にも記す)

志應藕塘 弘化二巳年五月廿日歿す歳四十九

庄司甚右衛門 初名甚内相州小田原の人江戸吉原遊廓の開基人正保元申年十一月十八日歿す歳六十九深川雲光院に葬る

芍藥亭長根 喜三二 本阿彌光悅七世孫刀劍鑿定を業とす幼名三太郎後次郎右衛門と云ふ享和二年狂歌を好み狂文を善くし喜三二の稱をつぐ弘化二巳年二月十日歿す歳七十八谷中妙法寺に葬る

寂照庵知足 又號照軒嶋藤亭通稱千代倉勘左衛門俳人なり寶永元申年四月十三日歿す歳六十六

嶋築癖 千里 名峻築刻家文化二丑年八月七日歿す歳六十二本所法恩寺に葬る

島本仲道 土佐の人明治廿六年一月二日歿す青山墓地に葬る辭世の句「いさ死の追分坂やはとゞさす」又「熱い世に水と消ゆる命かな」

重田梧山 寄石店 初淡々門人後白鶴に屬す享保十八丑年三月二日歿す歳三十八

澁川伴五郎 義方 源姓越後の人關口八郎右衛門氏業に柔術を學び後自ら一家をなして澁川流と稱す寶永元申年五月七日歿す歳五十一高輪泉岳寺に葬る

新庄道雄 柏園 本姓江川氏稱新左衛門駿河の人松華主人とも號す村松春枝の門人天保六年未十二月歿す

新門辰五郎 淺草田町火消十番組の頭取にて俠氣あり明治八年九月十九日歿す

新門妻逢女 慶應四辰年三月六日自及す

志野宗信 足利義政公に仕へて香道志野流の祖茶事は珠光の門大永二年午八月十八日歿す歳八十二

篠田行休 金溪陳人 名眞號沙彌上野の人大橋重政に書法を學び別に一流を成す篠田流と云ふ寶曆十三年正月十九日歿す歳七十九小日向金剛寺に葬る

篠田定考 明浦 名養字子浩書畫共に善くす畫名星岳初め島田氏稱五郎藏大橋の門人明浦流と云ふ安永九子午五月十四日歿す本郷丸山本妙寺に葬る

篠山光官 通稱吉之助北島大納言雅家の裔と云ふ寛政二戌年七月廿二日歿す牛込横寺町圓福寺に葬る

信夫槐芽 名顯祖號壽山稱眞五郎江戸の人天保三辰年閏十一月廿七日歿す歳六十七淺草本然寺に葬る

篠崎東海 平姓名維字子文家世醫を業とす初號三悅若髮して金吾と稱す堀河學を主とす元文四年未七月朔日歿す歳五十四谷中喜性寺に葬る

篠崎三嶋 名應道字安道號郁州稱長兵衛浪花の人豪商にして書數万卷を收藏す文化十四年十月三十日歿す歳七十七

澁川助右衛門 春海 始保井算哲一名順正幼名六藏元祿五年五月十八日東髮改名同十一年三月澁川と改む正徳五未年十月六日歿す歳七十七品川東海寺に葬る

澁井太室 名孝德字子章稱平左衛門林風岡門人初井上蘭臺に學ぶ佐倉侯儒臣天明八年申六月十四日歿す歳六十九

澁井小室 子要 名至德一名貫大室の男天保六未年六月十七日歿す歳六十一本郷丸山長泉寺に葬る

十返舎一九 醉齋 名貞一通稱重田與七幼名幾五郎天保二卯年八月七日歿す歳六十八淺草土富店善龍寺地中東陽院に葬る辭世「此世をばどりきおいとまに線香のけむりと共にはい左様ぢら」

自在庵祇徳 稻津祇宗門人通稱來藏寶曆四戌年十一月廿四日歿す歳六十四本所押上大雲寺に葬る

式亭小二馬 本町庵 通稱菊地虎之助後大輔名德基三馬の男嘉永六丑年正月十一日歿す歳七十四深川雲光院地中長源院に葬る

式亭三馬 本町庵 通稱菊地大輔四季山人洒落齋遊戯堂修囉哩樓の數號有り文政五年閏正月六日歿す歳四十八寺同上

首藤水晶 安永元辰年八月廿二日歿す歳三十三下谷龍泉寺に葬る

秋玉山 秋山玉山を見よあの部

三十一

春秋庵白雄 志ら雄坊 信州上田藩の士通稱加舎五郎  
住し正風の中興と稱す寛政三亥年九月十三日歿す歳五十  
三品川海晏寺に葬る

秋色女 菊后亭を見よ(さの部)

新見法入 ニヒミを見よ

珠光庵 南星 號獨庵軒洛三條に寓す六條堀川に茶室在  
て珠光庵と號す性敏にして和歌をよくし  
戲文繪畫を好み其名世上に鳴る文龜二年五月十五日歿す  
歳八十一紫野眞珠庵に墳在りと云ふ

珠光百庵 百花樓 名師光號百花主人不角社中の茶人な  
り天明七年二月廿九日歿す歳六十  
三愛宕下青松寺に葬る

朱舜水 名之瑜明國折江縣飲姚の人清兵入寇の亂を避けて  
來化す水戸義公徵して待つに師禮を以てす仍て舜  
水水戸の藩邸に寓す天和二年四月十七日歿す歳八十三  
常州久滋郡大田郷瑞龍山下に葬る

壽阿彌曇喬 月所 本姓長島又江間氏稱五郎作名秋邦字  
爽又得入嘉永元年八月廿九日歿す  
歳八十小石川傳通院寺中林昌院に葬る法號東陽院壽阿彌  
陀佛曇喬和尚 辭世一孫彦に別るこのかなしきもま  
た父母にあふぞうれしき曇喬は始め俗稱を眞志屋とて  
神田新石町に住し菓子商一水戸殿御用達なり後業を受  
けて二代目居し戲場を好み遂に狂言作者實田壽菜が名を山  
本北山に學び後難髪と云ふ長唄浄瑠璃の作多し又儒學を山  
て僧と成り壽阿彌と號す幕府御連歌の執事を貳拾五年間  
勤めたり平常狂人の如く大號て狂言といへり坂東秀佳松

清水連 曲河 名純又冕とかく字子章書人なり文政二卯  
年五月十一日歿す歳七十三小日向金剛寺  
に葬る

清水玄昌 龍鱗齋 茶人天明四年四月十六日歿す下谷  
龍泉寺に葬る

清水江東 名嘉英劉文翼門人通稱大坂屋嘉右衛門江戸下  
谷の商人なり別號明經典閣寛政六寅年六月七  
日歿す歳五十六

清水諸葛 名監字子文號古書堂寛政二戌年歿す歳七十四

清水赤城 名正德稱俊藏上毛の人號遜齋嘉永元申年五月  
十日歿す歳八十三

獅子菴蘆元 里紅 號黃鶴園美濃の人支考門人難髪して  
蘆元坊延享四年五月十日歿す歳五  
十六

椎本芳室 甘泉菴 號舊室翁難波の人才廣門人延享四卯  
年三月四日歿す歳八十四

椎本才鷹 舊德翁 始め谷氏名則氏號松笠軒初め江戸石  
町四丁目に住し後難波天満七丁目  
寓す和州宇多の人初名西丸と云御答めありて西麻呂と改  
む西山宗因門人或以弟とも云ふ元文三年正月二日歿す  
年八十

下河邊長流 長嘯 本姓小崎氏名具平通稱産六和字田  
の人近世國學を起し鼻祖貞享三寅  
年六月三日歿す歳六十三

霜解道和留 千種庵 書肆にて通稱山中要助といふ文  
化八末年四月廿六日歿す淺草今  
戸稱福寺に葬る

本錦升井杜若市川三升杯出這入して狂言等の相談をな  
せり又往來するに身に墨染の衣を着して鉦を前に提げ銀  
輪の花手桶を片手に錫杖を突き五枚わらじをはきて鼠木  
綿の頭巾を冠り松本幸四郎が身振りをして修行に歩行せ  
し事ありとは是は文政の初め頃と云へり節信云壽阿彌はま  
し屋と云ふ菓子屋の二男なり五郎作と稱す北山の弟子な  
りしが勤學もせず遊山あるさのみせり戲場を好み田舎杯  
に出で旅役者となりし事もあり一度千葉氏の智と成り時  
繪師の株を求めて貰ひしか氣違の様成男とていとばれて  
分れたり歌も詠み文書く事は漢文を讀む様成る假名書し  
たり併一奇人なり云々

清水濱臣 泊々舎 通稱清水玄長醫師なり村田春海に學  
ひ教授を業とす文政七年八月十七  
日歿す歳四十九東本願寺中善照寺に葬る

清水動閑 澁紙庵 名宗怡片桐石州門道簡の男道漢又動  
閑とかく別號傳習庵清水家二代あり  
元祿四未年十一月二十九日歿す歳七十八牛島弘福寺に

清水快閑 名紹治動閑の門弟享保元申年九月十二日歿す  
歳六十二寺同上

清水道閑 名宗治清水家初代仙臺侯茶道宗匠慶安元子年  
六月二十日歿す年六十九

清水道竿 名釣玄清水家三世元文二巳年六月晦日歿す

清水道簡 一樹庵 道竿釣玄の男天明三卯年二月二十九  
日歿す歳六十八

清水道慶 一葉庵 名有源業を快閑に受く初道啓後道慶  
延享四卯年九月四日歿す歳五十

清水礫洲 名巡字士遠稱太郎赤城男安政五年正月二十  
六日歿す

下田芳澤 名武卿字一甫稱三藏南部盛岡の人井上金我門  
人文政三辰年四月廿四日歿す歳七十一芝金地  
院中二玄菴に葬る

下村堤亭 螺舎 稱又右衛門其角門人享保二酉年三月十  
一日歿す歳五十五深川法禪寺地中南龍  
院に葬る

自然堂鳳朗 對竹 田川氏號鶯笠菴弘化二巳年十一月二  
十八日歿す歳八十四谷中天王寺に葬  
る

ひの部

廣澤長好 閑入軒 望月長好を見よ(もの部)

廣岡宗瑞 一叟 通稱戸太夫俳人二世宗瑞と稱す明和九  
辰年八月九日歿す香初本淨寺に葬る

廣瀬篤叟 菊洞 名淵字退結京の人享保六丑年七月二日  
歿す歳四十九洛西万福寺に葬る

廣瀬臺山 名興字寧號廣興州の人福原五郎門人文化十  
四年十月十三日歿す歳六十三深川長壽寺に葬  
る

廣瀬惟然 辨慶庵 芭蕉門人美濃の人寶永七寅年五月二  
十七日歿す

人見友元 竹洞 名節字宣郷別號鶴山、道生の姪なり、  
正月十四日歿す、歳六十九、下野市場の山中に葬る。

人見道生 卜幽軒 本姓小野氏、名壹號、林塘京師の人、幼時  
來り羅山の門に入り、水府威公の侍講と成る、寛文元年、老患  
眼疾して致仕す時に、歳六十三、寛文十戌年七月八日歿す、歳  
七十二。

人見道設 名傳號、懋齋、卜幽の男、元祿九子年九月二十三日  
歿す、鎌倉扇谷爽塹地に葬る。

尾藤肇 二一州 字志尹、號約山、稱良、佐別號、半隱、又流水、伊豫  
の人、片山、北海の門、又管子、旭にも學ひ、後昌  
平學校教授となる、文化十酉年十二月四日歿す、歳六十九、大  
塚御厩島に葬る。

人見愚堂 俳人なり、享保十五戌年七月十七日歿す、歳四十  
八。

人見蝶之 芳草堂 明和五子年八月廿五日歿す、歳五十一

人見瓊邑 名黍字子魚、稱彌、右衛門、尾州の人、寛政九巳年二  
月二日歿す、歳六十九。

人見川柳 柳思菴 江戸町奉行附同心、通稱人見、周助、川柳  
風、狂句の點者、四代目と號す、弘化元辰  
年二月五日歿す、歳五十六、赤坂法安寺に葬る。

仁杉李院 通稱八右衛門、幕府町與力なり、何くれとなく有  
名の扇面を藏する事、千餘依て、扇面長者と云安  
政三年六月廿八日歿す。

平林鴻山 空山房 名可儀、字士羽、號虛實菴、通稱東馬、東嶽  
の子、文政四巳年十月七日歿す、歳四十  
九、寺同上。

平林惇信 消日居 名明義、號靜齋、稱新五郎、江戸の人、細井  
廣澤門人、書術を業とす、寶曆三酉年八  
月二十一日歿す、歳五十八、寺同上。

平岡暢好 文蛤子 通稱與左衛門、俳人なり、享保十六亥年  
十月二日歿す、歳四十。

平賀源内 鳩溪 名國倫、號風來山人、天竺浪人、又紙齋、堂戲  
曲には、福内、鬼外と號す、安永八亥年十二  
月十八日獄中に病死す、歳五十四、橋場總泉寺に碑を立つ  
(一説安永九子年二月十八日卒死と云々)

平田鐵胤 篤胤養子、明治十三年十月廿五日歿す、歳八十二  
淺草橋場總泉寺に葬る。

平田道仁 稱彦四郎、七寶製工の名人、正保三戌年七月十三  
日歿す。

平田延胤 鐵胤男、明治五年正月二十四日歿す、歳四十五、淺  
草橋場總泉寺に葬る。

平田無卜 蝸翁 越後の人、江戸京橋柳町に住す、俳人なり  
享保五子年十月廿日歿す、歳六十三。

平田公愷 春里 字新民、號善善堂、稱新助、北山門人、文政十  
二丑年正月九日歿す、歳七十三、谷中興行  
寺に葬る。

平田篤胤 平氏、號伊吹、舍稱大角、出羽秋田の人、宣長歿後、門  
人、天保十四卯年閏九月十一日歿す、歳六十八、出  
羽秋田廣澤山上正洞院今寶鏡院に葬る。

土方縫殿助 仁翁 水野出羽侯臣、文久三亥年七月二十六  
日歿す、三田中寺町常林院に葬る、法名  
光盛院殿仁翁道賢居士、沼津靈山寺にも碑在り。

日尾荆山 至誠堂 名瑜、字德光、本姓魚住、安政六未年八月  
十二日歿す、歳七十一、谷中大通寺に葬  
る。

東條八太夫 春門 もと江戸町奉行附與力、後轉じて長崎  
へ出役吏幹を以て、聞ゆ、文久二戌年四  
月十三日長崎奉行附調役勤中に歿す、歳六十二。

日吉安清 佐阿彌 通稱四郎次郎、謠曲の作者、長祿二寅年  
二月四日歿す、歳七十六。

左甚五郎 宗惠 本姓河合氏、播州明石の人、寛永十一戌年  
四月二十八日城州伏見に於て歿す、歳四  
十一。

日根對山 小年 本姓日根野氏、名長和、泉州堺の人、慶應元  
丑年九月二十一日歿す、歳五十三。

日夏能忠 貞享三寅年六月二十九日歿す、歳六十二、丹波國  
岡吹村西遠寺に葬る。

日夏繁高 通稱彌助、享保十六亥年五月九日歿す、歳六十一  
代々木清岸寺に葬る。

日夏重能 通稱喜左衛門、寛文三卯年九月十八日歿す、歳七十  
十二。

雛屋立圃 野々口立圃を見よ(のり部)

平林東嶽 名惇德、字子孝、號越水、稱庄五郎、惇信の男、文化二  
寅年十月七日歿す、歳六十四、本所石原横町本學  
寺に葬る。

平野次郎 國臣 姓大中臣、筑前浪士、元治元子年七月廿日  
京師獄中に死す、歳三十七。

平野金華 名玄、中字子和、稱源右衛門、奥州の人、初め醫を志  
て業とす、後に儒士と成り、守山侯に仕ふ、奇人への  
名あり、享保十七子年七月廿三日歿す、歳四十五、駒込蓮光寺  
に葬る。

平野雪蘭 名元善、字子平、稱平五郎、水府の儒臣、元祿九子年  
十二月十二日歿す、谷中養安寺に葬る。

平山剛藏 潛軒 名潜、字子龍、號練武堂、亦兵原幕臣、四谷伊  
賀町に住す、文化三寅年二月十七日歿す  
歳七十、四谷愛住町永昌寺に葬る、法號學翁、其心居士。

平山梅人 採茶菴 享和元酉年正月十四日歿す、大久保泉  
福寺に葬る。

平山省齋 名成信、元幕臣、前名平山謙次郎、後神道家となり  
致正たり、明治二十三年五月廿三日歿す、歳七十  
八、谷中泉地に葬る。

平間長雅 望月長好の門にして、和歌をよくす、寶永七寅年  
七月廿七日歿す、歳七十五。

平澤旭山 名元信、字弟、號芝道山、稱五助、山城宇治の人  
片山、北海門人、寛政三亥年正月十五日歿す、歳五  
十九、深川本誓寺地中常照院に葬る、一松屋齋書に旭山は文  
かくわきに勝れ、凡生類の文章三千篇にや、ありぬらん、身  
まかりて後、千篇あり、は中村佛花が許に、残れり、醫道の部  
は上田忠能か得たりと、なん其外、のみならず、度ひうせて、今  
は漫遊文章のみを世には知られたる云々。

平澤隨龍 名廣之、字博齋、號英辰、稱左仲、江戸の人、左内膳  
天保四巳年十二月廿一日歿す、歳五十三、宇洗坂  
松林寺に葬る。

樋口逸齋 有竹

名眼之字子勝稱昌之助書家なり明治十年四月廿一日歿す歳六十三下谷七軒町忠綱寺に葬る

樋口得樂 華岡

名孝題字大實平安の人書家なり明和三年八月廿三日歿す歳三十九蓮臺野五泉院に葬る

百拙元養 釣雪

黄葉山海雲寺の僧後洛西法蔵寺に住す元椿又茶花書畫とも一格をなせり寛延二巳年二月十三日寂す歳八十三

樋山坦齋 盤松軒

名義慎字德忠通稱成爲深川六間堀に住す書畫鑒定に妙を得たり天保十三年九月十六日歿す歳六十九

久田宗也 不及齋

宗全の男原更宗佐の弟延享元子年十月三日歿す歳六十四

久田宗佐 覺々齋

號原更宗全の男隨流齋良休宗佐の養子となりて其名を嗣ぎ又了休とも書す紀藩に仕へ宗旦以後の達人と稱せらる享保十五年戌年六月廿四日歿す歳五十三

久田宗全

稱勸兵衛茶人隨流齋良休の門人原更宗佐の實父寶永四年五月六日歿す歳六十一

久田捨女 貞閑

季吟翁門人妙融尼丹波栢原の人後姓を栢原と改む元祿十一年八月十日歿す歳六十五

久村曉臺 暮雨庵

尾張の人横井也門人寛政四年正月十六日歿す歳五十九

匹田九臯

名進字子蘭稱帶刀酒井庄内侯儒臣元文二巳年十二月廿五日歿す芝増上寺地中清光院に葬る

菱川岡山

名實字大綱號華嶺稱石門前赤坂郡小森村の人浪花の芝山に學て後江戸より來り侯官侯備員と成る享和三年七月九日歿す歳五十六本郷長泉寺に葬る

菱川月山

名在字士宗稱宗助岡山萬子安房の人本姓菅氏奥山の門徒會院に仕ふ文化十三年八月十日歿す歳四十六寺同上

菱川道茂 光竹

稱吉左衛門房州平群郡保田町に住す繪繪業なり寛文二寅年二月十五日歿す

菱川師宣 友竹

吉左衛門の男保田町に生れ後江戸に出で村田町に住す繪畫の上繪を業とす後土佐の書を學ひ後浮世繪の一派を開きて大に行はる正徳四年八月二日歿す歳七十七(寺は日蓮宗にて谷中七間けり)

も の 部

師岡南林

名正著延享五年正月二日歿す

茂呂吾岳 蓬雪

名金朝字仲龍法橋に叙せらる弘化四年十一月三日歿す歳六十五東本願寺地中徳本寺に葬る

茂呂何丸 月院社

名一元號一立齋信州の人俳師なり天保八酉年十月廿七日歿す歳七十七東本願寺中宗恩寺に葬る

諸葛中如

名武字興卿稱尙一郎天保十一年九月十八日歿す歳三十七下谷根岸養玉院に葬る

諸葛琴臺

名蠶字君則號鬚髮山人又鳳樓園儒家なり下野の人文化十四年十一月十七日歿す歳六十七根岸養玉院に葬る

諸葛歸春 良軒

名晃字君韜下野の人弘化四年八月十日歿す歳六十五寺同上

本居春庭 鈴屋

宣長男松坂に住す通稱健藏後健亭文政十一年十一月七日歿す歳六十六

本居内遠 木綿垣

本姓濱田氏初名孝國又高國(幼名謙屋)に生る天保二年大平翁の養子と成り稱を彌四郎實名内遠と改む安政二年卯十月四日歿す歳六十四品川東海寺中少林院に葬る 深川惠然寺に葬り 後少林寺に移す

本居宣長 鈴屋

始小津氏後本居と改む通稱春庵又中衛と稱す享和元酉年九月廿九日歿す歳七十二松坂妙樂寺の山室に葬る

本居大平 垣内翁

本姓稻掛氏稱十介名茂穂勢州松坂の人宣長養子紀州侯に仕へ側用人に陞る天保四巳年九月十一日歿す歳七十八紀州和歌山湊吹上寺に葬る

元田永孚

元熊本藩士本姓東野氏名永春稱三左衛門祿五百五十石たりき後至尊の御侍講に昇る明治廿四年一月廿二日歿す歳七十四青山墓地に葬る

元本網 珠阿彌

名正雄通稱金子喜三郎武州松山の人狂歌師として知らる文化八末年六月廿八日歿す歳八十一深川正覺寺に葬る(寛政三亥年五月廿一日六十一才の時木阿彌發心して遊行上人の弟子となりて珠阿彌と改む此時上人「願ひえし御のりの道にけふいりてさめの袖も墨染の袖」珠阿彌「願ひえて心もけふいすみそめの袖もなみたも身にそあまれる」蜀山の筆記に木網はよき男にしてすみをぬきたるあり常に居士衣を着し紫の服紗につみし物を背負ひてあるきけり其頃本芝武丁目に三河屋半兵衛といへる本屋剃髮して齒を黒く染め青き道服を着たり色黒くふどりたる男なり狂名を演邊の黒人と呼ぶ人皆齒までの黒人とあだ名せり此人狂歌の點をして半紙に摺て出す板料を取るを入花といへり今狂歌の點料を入り時の人木網は兼好を一へん湯がきたるやうなり黒人は文覺を油揚にしたるが如しといへり云々木網水神の森にてかしらわをわらしける時「けふよりは衣を染つ角田川流れ渡りの世をわたらばはや」折ふし時鳥の聲を聞いて「我年もほとゝぎ過ぬさらばとてつへんかけて剃こぼつなり」因に云木網妻俗名みちと云狂名智恵の内子文化四年五辭世「六十あまり見はてぬ夢のさむるかと思ふもうつゝ、曉の空」

望月長好 小狹野屋

姓を又廣澤とも云ふ名ハ兼友後長孝信州の人和歌を貞徳に學ふ晩年京師嵐山の東廣澤の池邊に隠れて小狹野屋と號す又號閑入軒天和元酉年三月十五日歿す歳六十三

望月宗竹 峰軒

又號五峯軒茶人寛延二巳年十一月十八日歿す歳五十七

望月雷山 百里

名震官醫三英の父寛保二戌年四月六日歿す淺草新堀壽松院に葬る

望月三英 鹿門山人 名義字君彦服部南郡に學入百里寺同上(享保世說享保十一年八月廿一日に望月甫庵息三英を大久保佐渡守殿宅へ被召左の通り御書付を以て被仰出候其方儀家業出候段違上開候依之養生所病人の内重き病人も候は、町奉行所へ可申來候間相越養治可仕候右之通被仰渡候由近年明醫小史と申書著述版行に出し被申候年若にて醫學博識にて宿所金地院近所の由云々)

望月玉蟾 望玄 名玄京の人初土佐光成に學ひ後或漢を師とし又狩野の風を學ひ書格を變ず寶曆五年八月三日歿す歳六十三、二條普通寺に葬る

森養竹 立之 阿部福山侯醫臣若年の頃放蕩にして俳優と成り芝居舞臺へも出たり依て御暇と成り後伊澤盤庵の盡力にて再勤し本草學を以て醫學館に出勤す明治十八年十二月五日歿す歳七十九音羽目白濟雲寺に葬る

森東郭 字大年稱彦右衛門上總の人末學に達す寛政三亥年七月廿九日歿す歳七十三牛込横寺町長源寺に葬る

森川馬谷 俗稱傳吉馬場文耕門人軍談師なり寛政三亥年正月八日歿す歳七十八淺草松葉町清光山涼源寺に葬る法名松譽榮順

森川竹窓 字離吉稱曹吾浪華の人皆川淇園門人天保元寅年十一月三日歿す歳六十八

森川許六 五老井 元彦根藩士通稱五助字羽官別號百仲無々居士蘭阿佛蕉翁の門正徳五未年八月廿六日歿す歳六十

守田雀菴 鈴女 初東垣舍翁守明治八年十二月十六日歿す歳八十下谷通町眞養寺に葬る

佛學に通じ水府公に召されて史館編修と成る享保六年丑三月十三日歿す歳六十九水戸神崎寺に葬る

森嶋子與 名其進稱彌十郎林家門人甲州郡内人文政四巳年十月十三日歿す歳六十新倉里心福寺に葬る

森 春濤 尾張の人詩に巧なり明治廿二年十一月廿一日歿す歳六十谷中村暮里村經王寺に葬る

物集高世 葎屋 通稱卯兵衛豊後杵築の人國學語法に精し明治十六年一月二日歿す

文珠九助 山城伏見年寄役を勤む俠骨にして伏見義民と稱せらる天明八年正月四日歿す歳六十余

百多樓團子 俗稱茂吉郎又號子遊庵落語家なり文政十亥年九月廿一日歿す年六十二辭世「けふの身の千秋樂と先の世の席へ行くには日延たになし」

桃田柳榮 幽香齋 名守光狩野探幽門人四天王の内元祿十一年寅年正月十三日歿す歳五十二池上本門寺に葬る

桃田柳昌 名守明柳榮男實永元由年正月十三日歿す歳三十九寺同上

桃井仲良 東園 名道隆江戸の人春臺門人星學を以て聞こゆ淺草福井町に住す寶曆十辰年十二月廿八日歿す歳七十四

百瀬耕元 長雄耕雲門人書法百瀬流といふ文化十一戌年六月十八日歿す歳七十八赤坂法安寺に葬る

森祖仙 守象 字叔牙浪華西宮の人初祖仙守祖仙と云く文政四巳年七月廿一日歿す歳七十五

森 蘭澤 名徹字君則稱馬水戸の人春臺門人嘉州侯の世安永六酉年五月廿八日歿す歳五十六

守村抱義 眞實菴 名約號國嶽通稱森村屋大郎兵衛文久二戌年正月十六日歿す歳五十八阿部川町龍福院に葬る

守屋宗屋 皎月菴 稱富貴花の人春人寛政十年七月廿八日歿す歳五十三西本願寺に葬る

森 源流 名并稱傳右衛門藤府右衛門明流流道に通せり寛政十年二月十六日歿す歳七十一谷中本壽寺に葬る

森 扶搖 名殿字公錦稱圖書佐伯侯の庶公子なり經書を撰と云は是なり水府山野邊の關子と成り兵庫頭と稱す天明六年七月十一日卒す歳五十七

森 文祥 蘭齋 字九紅加州の人熊代藩門人又子福亭和元酉年九月十八日歿す東本願寺地中妙清寺に葬る

森 滄洲 名山正字子義稱十郎右衛門館林儒臣安永二巳年十一月七日歿す歳五十五高輪如來寺に葬る

森 季順 名保敬池衛岳門人紀州日高小松原の人天明三年正月十九日歿す歳四十二鉾橋發昌寺に葬る

森 尙謙 字利涉號儼塾又不深居士稱龜之助攝州高槻の人始め福住道裕に學ひ後松永昌三門に入る又

せいの部

清巖宗渭 孤陋 大徳寺百七十世江州大石の人奥村氏慶安二年台命承て東海寺住たり寛文十一年十一月廿一日歿す歳四十四

清巖徹書記 正徹 號招月庵東福寺の僧長祿二年寅五月九日歿す歳七十九

生駒山人 日下部眞藏を見よ(くの部)

青羅閑人 尾州の人寛政三亥年六月十七日歿す歳五十二

清宮秀堅 棠陰 字穎栗號綿浦漁者稱利右衛門下總國香取郡佐原の豪家にして學識あり著述少ながらす明治十二年十月廿日歿す歳七十一

錢屋五兵衛 安政二卯年正月十六日死刑に處せらる歳五十八

瀨川如阜 東園 大坂役者二代目市山助五郎門弟にて始日歿す歳五十六本所押上大雲寺に葬る(七歳ハ三世瀨川菊之助仙女の兄明和五年春中村座へ下り同年十一月二日路考門に入り瀨川七藏と改む俳名如考天明三年十月村座にて朔日より三日の間一世一代舞臺納道成寺所作事を勤む是より役者を止め狂言作者と成る)

瀨川如阜 文車 號狂言堂名定相號御溝園稱文次享和元年如阜と改む天保四巳年十一月四日歿す年七十七本所押上普賢寺に葬る

瀨川如阜 狂言堂 幼名六三郎五世鶴屋南北門に入り廿八日歿す歳七十六本所牛島弘福寺に葬る

雪中菴蓼太 空摩居士 本姓大島氏名は陽香樓井史登の門にして嵐雪より三世雪中菴と稱す天明七年九月七日歿す年七十深川六間堀要津寺に葬る

雪中菴嵐雪 服部嵐雪を見よ(以上の部)

雪中菴完來 藤太門人嵐雪より四世雪中菴と稱す文化十四年四月十八日歿す歳七十法名定華居士

雪村周繼 巖水 陸奥佐竹の一族霍船老翁洞雪を師とし又雪舟を慕ひ其奥を極めたり建仁寺の僧なり貞和二年十二月二日歿す年五十七

雪溪宗雪 梅菴 平安の人山口氏一號白隱雪舟を學び又牧溪を慕ひ自ら雪溪と號す寛文九年三月廿三日歿す歳五十八大徳寺に葬る

雪菴宗圭 酋翁 大徳寺二百八十二世號華翁碧玉菴に住す延寶三年十月四日歿す年七十九

雪舟等揚 雲谷 本姓小田氏號備深齋米之山主又揚智客雲谷軒とも云ふ備中の人入宋して書法に妙を得一格をなす永正三年二月十八日岩見國乙吉村に歿す年八十七

瀨名貞雄 狐阡翁 稱源五郎字士雄幼名巳之助後主膳本姓今川氏了俊の後なり寛政八辰年十月四日歿す年八十一 四谷南寺町妙行寺に葬る故有て今石碑なし

千田元智 大圓堂 字子船別號匠精軒享保十四寅年三月朔日歿す歳五十八西久保青龍寺に葬る

千宗佐 隨流齋 江岑男名良休又號不審菴紀州に住ふ元祿四年七月十九日歿す歳四十四

千宗佐 如心齋 久田原叟の男始宗貞號天然又丁々軒紀伊侯に仕ふ實曆元未年八月十三日歿す歳四十七

千宗左 啐啄齋 如心齋宗佐の男文化五辰年十月六日歿す歳六十五

千宗佐 了々齋 啐啄齋義子文政八酉年八月七日歿す歳五十一

千宗佐 吸江齋 了々齋義子万延元年六月七日歿す

千宗室 仙叟 宗旦四男號今日菴元祿十丑年正月廿三日歿す歳七十六

千宗室 常叟 仙叟男始宗安松山侯に住ふ實永元申年五月十四日歿す歳五十七

千宗室 勿々軒 宗乾義子實は弟名は一燈號玄齋明和八年三月二日歿す歳五十二

千宗室 不見齋 宗乾一燈の男享和元酉年九月廿六日歿す歳五十六

千宗室 認得齋 石翁の男文政九戌年八月七日歿す歳五十七

千宗守 一翁 宗旦三男別家をたて系を別にす延寶三年十二月十九日歿す歳八十三

千宗守 文叔 宗守一翁の男讚州侯に住ふ實永五子年間正月廿三日歿す歳五十一

千宗守 眞伯 文叔の男讚州侯に住ふ號靜々齋延享二丑年三月廿八日歿す歳五十三

千道安 不休齋 利休の男號眠齋始の稱を慶長十一年二月十七日歿す歳六十紫野東光院に位牌を納む

千宗巴 友流齋 關三浦光祿三巳年五月廿一日歿す歳二十

千宗且 不審菴 宗淳の男名元仙又號不審菴方治元戌年十二月十九日歿す歳八十一紫野東光院に葬る

千宗乾 竺叟 宗安泰叟の義子號最叟享保十八丑年二月二日歿す歳二十五

千宗易 利久齋 俗稱田中與四郎天正十九卯年二月廿八日故有て自號最叟七十紫野東光院に葬る(利久は泉州堺の産先祖は足利家に仕へ常務役たり千阿彌と號す依て千を氏す進退後利休齋湖室と云ふ菴を不審菴と云ふ洛の船岡に茶法を受け百世茶道の宗師たり元龜年中正親町帝勅に依て菴具を觀せしひはを領して居士號を賜ふ其後豊臣秀吉公の御師範たり三千石を領して北野尼寺の東南竹林の中に住す天正十八年大徳寺古溪山向と相議して山門再興に利休自形の木像を安置せし事に依り切腹せしめらる)

千宗安 泰叟 常叟の義子號閑齋享保十一年八月廿八日歿す歳三十三(隨流齋千宗佐義子千宗佐、宗全、宗也、不及三名は久田の部に記す)

千宗安 泉州堺に住し万代屋と稱す利休女甥慶長二十卯年四月廿五日歿す

千宗左 江岑 宗旦の三男號蓮源紀州に住ふ寛文十二子年十月廿七日歿す歳五十四

千宗守 直齋 眞伯の義子始玄室天明二寅年二月六日歿す歳五十八

千宗淳 少菴 利休二男利休歿後前田利家推舉に依て赦免せらる慶長十九寅年九月七日歿す歳六十九紫野乘光院に葬る

千宗拙 閑翁 宗旦長男號壺天承應二巳年五月六日歿す

泉南和尚 明和六丑年二月朔日歿す歳七十

釧雲泉 名就字仲孚肥前島原の人書仙と號す文化八未年十一月十六日歿す歳五十三越後出雲崎淨法寺に葬る

仙嶽宗洞 無底 俗姓谷氏宗本居士二男大徳寺百二十二世文祿四年十月二日歿す歳五十一

鮮齋永濯 小林永濯を見よ(この部)

千手院乙二 松窓 奥州白石片倉侯祈願所の修驗者後俳師文化五辰年七月九日歿す

小築菴春湖 橋田氏甲州の人明治十九年二月十一日歿す歳七十三本所猿江妙壽寺に葬る

小菴菴確嶺 弘化三年四月廿三日歿す

關 白駒 明治八年二月十九日歿す歳七十四

石陽子 實曆元未年三月十日歿す深川六間堀長慶寺に葬る

石龍子 名相繁字伯節號松齋觀相學に通じて法眼に叙せらる文化九申年五月廿五日歿す歳五十九

關岡野洲良 關亭 姓關岡又榛原と稱す稱長右衛門富澤町に住す裝束師なり高井宣風の門人

元武州八王寺宿の梅原と云ふ豪家の子なり天保三辰年十一月廿三日歿す歳六十一駒込大圓寺に葬る

關 海南 名郷字士振又公善實曆十二年未八月十七日歿す歳五十九京極淨華院に葬る

關口隆吉 明治二十二年五月十七日卒す歳五十五靜岡大岩村臨濟寺に葬る(關口氏は靜岡縣知事たりしが遺言中の一節に云はく其れ非祭の如きは質素ならむ事を希ふなり近時説ふて葬事を裝飾するの流行は余が甚だ喜ばざる所なれば後の余が葬主たるもの宜しく心を用ひべし予が死後葬事一切の費用は金二百圓を以て其極と定む若し二百圓の金は兎も角も費にして金なければ東海の魚腹に葬むるも憾となさず却て予が本意とする處なり吳々浮華の流行に従ひ立派なる葬式をなすなかれ月日關口隆吉申置花押墓石棹高サ二尺八寸巾一尺五分墓石二重右上封の表に一首の歌あり「世の中は浦島か子の箱あれやあけてくやしき夏のみじの夜」)

關口黃山 世篤 名忠貞金鶏の子稱貞助春臺門人儒にして書をよくす延享二年四月十八日歿す歳二十八小日向服部坂金剛寺に葬る

關口金鶏 上毛の人書法を大橋重政隆慶に學び後篠田と改め薙髮して行休篠田大橋流と云ふ寶曆十三年正月十九日歿す歳七十九

關敬明 東山 字子哲稱信藏本姓小堀氏小室藩士天明八年八月廿一日歿す歳三十八小日向稱名寺に葬る

關克明 潢南 字子德稱忠藏天保六年四月廿八日歿す歳六十八寺同上

すの部

醉夢菴澄月 翠雲軒 洛東岡崎村に住す備後福山人武者小路家の門に入り和歌を學べり寛政十一年五月二日歿す歳八十五洛高臺寺に葬る

菅原東海 名基字恭稱文藏文政十一年二月十日歿す歳九十深川靈岩寺地中長泉寺に葬る

菅原洞齋 阮塘 鑑定家仙臺侯に仕ふ文政四巳年四月十三日歿す歳五十五淺草寺町白泉寺に葬る(文化三年十月十五日洞齋三味線堀自宅において書畫展覽の會を催す落款を隠し銘々鑑定を小紙に記し筒にこめて後にひらく集會凡そ十三人といへり)

菅原玄洞 得菴 字子德播州姫路の人始玄朔に醫を學ふ後藤原惺窩に儒を學べり寛永五辰年六月十四日歿す歳四十八(門人安田昌安の爲に害せられしなり)

菅原誠意 吉祥堂 本姓石原氏字自謙源之進書を業とす平安の人安永三年九月二日歿す歳三十五京法宣寺に葬る

菅茶山 太仲 名晋師字禮卿備後神邊の人家世々醸造を以て業とす京師に遊學して那波魯堂の門に入り儒と成る文政十亥年八月十三日歿す歳八十

須賀亮齋 圖書 精齋の男名安貞文化元年十一月九日歿す歳八十一尾州城北長福寺に葬る

菅沼文菴 東郭 名行字大管江戸の人徂徠門人浪華に講學す寶曆十三年十二月二日歿す歳七十四

關其寧 南樓 思恭の義子字子水稱源藏號其寧文政十一年閏四月廿九日歿す歳六十八寺同上

關 琴山 名思順字子祐初名金藏後稱三浦南の孫實は壽子天保八年九月九日歿す歳十五寺同上

關思亮 東陽 清南の男字世達稱源吉號東陽天保元年九月廿七日歿す歳三十六寺同上

關新助 自由 別號孝齋名孝和天文傳算術に精し關流の祖なり寶永五年十月廿四日歿す歳五十五牛込法輪寺に葬る

關 松隱 名信齡字君長號松隱號水一郎江戸の人井上蘭亭門人享和元年四月五日歿す歳七十六品川海晏寺に葬る

關思恭 鳳岡 字肅稱源内一號鳳岡號江戶の人土浦藩員細井廣澤門人又春臺に學ぶ別號松隱關明和二年十二月廿九日歿す歳六十九小日向稱名寺に葬る

石正猗 筑波山人 字仲綠寶曆八年八月十七日歿す歳五十一駒込養昌寺に葬る

關雪江 弘道一 名敬字鐵卿稱忠藏明治十年十一月廿四日歿す歳五十一谷中天王寺に葬る

關 赤城 名襲字子敬號懷風館主人稱又太郎松憲義子上毛の人文化五辰年五月十七日歿す歳四十三品川海晏寺に葬る

關翠岳 壽考 名重起稱三郎兵衛須坂藩士にて書を能くす安政二卯年十月二日歿す

菅沼曲翠 本多膳所臣祿五百石稱外記芭蕉の門人はれ破鏡の夫也享保五年子七月廿日歿す

菅井梅關 仙臺の人稱岳輔名知州號東齋文晁の門人天保十五年正月十三日歿す歳六十二仙臺城東生因寺に葬る

菅井霸陵 吉甫 名敬勝大坂の人棚倉儒臣天明四年七月廿二日歿す三田小山大乘寺に葬る

菅野繪齋 要中 兼山の男字子和三宅尙齋門人稱勘平寛政十一年七月五日歿す谷中玉林寺に葬る

菅野兼山 名彦字養號會輔堂稱彦兵衛江戸の人佐藤直方の門人延享四年五月十七日歿す歳六十六谷中玉林寺に葬る

菅野子德 名義直稱文四郎寛政六年四月廿七日歿す本郷丸山本妙寺に葬る

菅野序遊 文政六未年十二月十三日歿す歳六十三山谷淨雲寺に葬る

菅野序遊 天保十二年正月十日歿す歳五十六寺同上

菅谷小善 甘谷 名晨耀字旭號南嶺本姓堀氏徂徠の門人寶曆十四年三月廿四日歿す歳六十九大坂南舍利寺に葬る

菅貞香 孺人 名蘭京師の人天明七年六月六日歿す歳五十六

須賀精齋 名誼安稱吉平次尾州侯儒臣寶曆四戌年十月廿日歿す歳六十七名古屋城北長福寺に葬る

杉田梅里 成卿 名信字成卿又號前湖錦男蘭科醫士して名高し安政六未年四月四日歿す歳四十一愛宕下天徳寺地中榮園院に葬る

杉田伯元 錦勝 勤齋の男名豫字立脚號泉堂弘化二巳年十月歿す歳六十寺同上

杉田元伯 鶴齋 名翼字君鳳一號紫石老人又天眞樓若狹園官文化十四年四月十七日歿す歳八十四寺同上

杉田玄端 明治二十二年七月十九日歿す青山墓地に葬る

杉田勾當 望一 伊勢山田の人雅情に通し十二律の調子を極む寛永七午年六月五日歿す歳八十三

杉浦正齋 名宗恒字千輔寶曆十辰年九月廿一日歿す歳五十洛の鳥部山に葬る

杉山活齋 名方卿字廉夫號鐘淵稱卯八郎三河の人北溪門人天明三卯年五月廿八日歿す歳三十五樹木谷光臺院に葬る

杉山檢校 信一 本姓和田氏奥州の人初名信都元祿七戌年六月廿六日歿す歳八十二本所彌勒寺に葬る(杉山檢校は曾て相州江の嶋辨天窟に三日の間飲食を断て參籠し至心祈請して竟に鍼術に妙を得たり稱して杉山流と云慶安三年九月台命を蒙り將軍に泥近す元祿の初本所一の橋南詰に一町四方の地を賜り普者の總祿となり江戸普者の支配頭とし檢校職に任す五百石を扶持し玉ふ後憲廟より二百石宛合せて六百石を賜はる此所を總祿屋敷と云ふ徳川幕府にて普者の位階を定めしは此の杉山より始る)

杉本美津女 伊勢山田杉本吉太夫の妾侍として名高し正保四年七月二日歿す歳七十五

住吉廣澄 具慶 法眼と稱す寛永二十五年四月二日歿す歳七十二

住吉廣通 如慶 法眼と稱す寛文十戌年六月二日歿す歳七十二

住吉廣孝 安政五年九月六日歿す

住吉廣尙 廣行の男文政十一子年七月十一日歿す歳四十八

住吉廣守 廣行の父安永六未年十月廿一日歿す年七十三

炭太祇 不夜菴 明和八卯年八月九日歿す歳六十三

倉角了以 名延實本姓吉田氏後角倉と改む幼名與七歳長役に巧にして曾て洛西大堰川より丹波の保津に至る處の巖石を碎き土砂を除き後又駿州富士川をも浚へて舟行を便にし運輸の利をなせり歿前嵐山に大悲閣を建立し遺言して己が像を閣中の一室に安置せしむ今にあり

角倉玄之 素菴 了以の男通稱與一郎惺窩門人又書法一家をなし角倉流といふ寛永九申年六月廿二日歿す歳六十三

陶梅里 陶梅里を見よ(たの部)

鈴鹿知石 寸松堂 一號蓋花翁又俳諧堂元文五申年十二月十三日歿す歳六十

鈴鹿荃石 松堂 知石の男初名知丸寛保二戌年六月廿七日歿す歳三十

鈴江知木 寄松堂 通稱傳衛俳人なり元文五申年五月廿八日歿す歳四十四

鈴木春信 長榮軒 通稱次兵衛號湖龍齋江戸の人浮世繪師西村重長門人明和七寅年六月十五日歿す歳五十三

鈴木藤吉郎 野州都賀郡某村の百姓藤吉倅後政之進と名乗天保中一橋殿御書院番頭鈴木惣右衛門方養子と成り藤吉郎と改め其後小普請と成る嘉永二年水府へ被抱藏方被申付十八扶持を受け安政二年永之暇と成る万延元年五月六日牢死歳五十九(安政三年十一月十八日阿部伊勢守殿御渡(町奉行 池田藩守 鈴木藤吉郎) 右之者米油取扱方之儀に付内々見込之趣申立候得共當時容易に難被及御沙汰乍然奇特之筋にも相聞え抜群御用立候者之趣に付町奉行所御用聞其方共手に付可相勤候依之此度新規三上人扶持被下之常々とも役所へ罷出候節席之儀は與力之上に可被差置候右之通可被申渡候翌年六月潤澤掛り與力上席とも被差免旨伊澤美作守申渡猶亦内寄合之節罷出候儀不及候旨をも被仰渡然る處同年七月廿五日北町奉行所より御召連狀にて罷出廿六日御吟味中揚屋入被仰付此時掛り合之者直平外四人入牢被申付藤吉郎の同廿九日改めて入牢被仰付翌年五月六日病死存命に候得は遠島之申渡)

鈴木良知 目耕 名素行本草學に精し文化十三子年十一月廿一日歿す駒込大恩寺に葬る

鈴木鷺湖 雄飛 名雄稱漸造谷文晁門人下總の人明治三年四月廿三日歿す歳五十五

鈴木檀州 稱嘉藏名吉明字煥卿徂徠晩年の門人安永五申年六月朔日歿す歳六十二半込寺町養善院に葬る

鈴木宗休 安政六未年正月十二日歿す歳七十四

鈴木南嶺 觀水軒 名順字子信稱猪三郎東洋門人始め月七十深川雲光院に葬る法號俊功院赫譽南嶺居士

鈴木芙蓉 老蓮 名雅字文熙通稱新兵衛信濃の人阿波侯六十八淺草八軒寺町大仙寺に葬る(芙蓉は畫家の中にては文字もある人なり其男文藏詩をよくす上京して皆川淇園に學び江戸に歸り程なく父に先て歿せり小蓮と號す)

鈴木傳藏 名安政幼名千太郎宗對馬守の臣通辭役寶曆十申年五月二日朝鮮の使者を刺殺し大坂木津に於て死罪歳三十一傳藏は明和元年五月朝鮮より來朝せし使節上々官才天蒼を父の讐として刺殺したる者なり其源を尋れば傳藏の實父は朝鮮人桂美といふ者なり享保年中桂美交易のため長崎に來り滯留中丸山の遊女千歳屋ちとせといふに馴染み遂に千とせの腹に一子を設けたり是即傳藏あり桂美商用はて、再會を約し歸國しける後姪萬屋に殺されぬ萬屋は即才天蒼なり千とせの男子を生みて頻に桂美の來崎せんを待ちし横死の由を來船の朝鮮人某に聞きて恨みやる方なし斯くて年月を送る内宗對馬守の臣鈴木傳右衛門といふ者又千とせに馴染たるに傳右衛門は朝鮮語を解して通詞役たりしかば復讐の便あるべしとて語るに實を以てし且一子千太郎にも對面せしめしかば傳右衛門其志に感じ遂にちとせを妻とし千太郎を養子

として對州へ歸れり是より千太郎朝辭語を學び寛延四年傳右衛門病氣に付千太郎父の職をつぎ通詞役となり傳藏と改名して父仇萬麗の様子を伺ひ居たり然るに朝辭は萬麗次第に立身し名をも才天若と改め寶曆十四年正月(此年明和と改元)家治將軍就職の祝儀として朝辭より使節到來す其正使の才天若なりしかば大に喜ひ其身通詞役たるを以て常に側におり除所ながら舊事を尋ねいよく父警萬麗なりし事を知り天若の公事相済みて歸國の途に上る時をまち四月四日大坂東本願寺に旅宿の夜鐘を以て才天若と突殺し大坂町奉行所へ事の次第を自訴して死を請へり仍て江戸表へも注進し遂に幕吏奉行藩主立合吟味の上事實相違なきを以て大坂木津にて刑せられたり屍は島の内に埋めたりと云

鈴木其一 會々 名元長字子淵必菴又爲三堂書をよくす安政五年九月十日歿す年六十三淺草北寺町正法寺に葬る法號青々院元譽其一

鈴木昭鳩 和道居士稱富五郎常州龍ヶ崎の人書家三井親和門人文化八末年五月七日歿す深川増林寺に葬る

鈴木正三 石平道人 通稱九太夫一號玄々軒明曆元末年六月廿五日歿す歳七十淺草八軒寺町福法寺に葬る

### 名人忌辰録下卷終

關根正直校

鈴木常助 離屋 名助字叔清尾張の人天保八年六月八日歿す歳七十四名古屋城前靈願寺に葬る

鈴木重胤 野々口隆正の門人神典に精し文久三年八月十五日歿す

鈴木春谷 万延元年五月十日歿す歳四十五浅草大慈院に葬る

鈴木春山 名強字自強田原藩醫廣瀬漢窓に學ぶ弘化三年年間五月十日歿す歳四十六

鈴木誠一 名元規其一の次男明治十五年六月廿九日歿す歳四十八淺草北寺町正法寺に葬る法號峰院翠譽誠一

鈴木小蓮 名恭字遠祖稱文藏享和三亥年六月二日歿す淺草八軒寺町大仙寺に葬る

### 名人忌辰録拾遺

#### はの部

支倉六右衛門 常長 仙臺藩祖の命により應長十八年羅馬國に使し法王に謁し八年を經て元和六年に歸朝し同八年七月朔日病死す享年五十二仙臺光明寺に葬る

支倉六右衛門 常頼 常長の長子幼稱勘三郎父歿後六月朔日弟權四郎邪教信仰の罪に坐して切腹す享年四十二墓所同上

#### りの部

葎菴鼠六 文化十三子年八月廿八日歿す年五十七

葎雪菴午心 文化十四丑年正月廿一日歿す

#### との部 附れ

追手風喜太郎 角力年寄慶應元丑年間五月四日歿す駒込海藏寺に葬る法號鐵翁玄心

大塚同菴 稱八郎後峰郎と改め又同菴を名とす西洋砲術家を以て聞こゆ安政二卯年五月晦日歿す年六十一

#### かの部

お茶の局 飯田筑後守の女寛永十四丑年正月廿二日歿す歳八十三

大久保甲東 贈右大臣利通公明治十一年五月十一日薨す年四十七

大久保彦左衛門 名忠教寛永十六卯年二月廿九日歿す白銀立行寺に葬る

海保漁邨 名元備字順卿一字郷元通稱章之助上總武射郡北清水村の人業を太田錦城に受け後別に一格を構ふ慶應二年九月十八日歿す歳六十九本所石原普源寺に葬る

川上冬崖 西洋法書家明治十四年五月三日歿す

加賀の千代 福島千代を見よ(ふの部)

片倉小十郎 名景綱伊達家忠臣元和元卯年十月四日歿す歳五十九

神田道伴 名定盤父を神田定恒道禱と稱す寛延二巳年十一月十七日歿す歳七十八(神田家は世々有職故實に精しくして書畫の鑑定を業とす初祖道禱は古筆の門人たり)

神田道智 宗菴 稱六右衛門初祖道禱の男寛文二寅年九月朔日歿す歳四十九

神田道禧 神田家の始祖にして有職典故に精しく又古筆の流を汲みて書畫の鑑定をも業とせり承應四年四月八日歿す歳七十六

神田道禧 名定恒稱喜兵衛道智の男にして祖父の名を嗣ぐ正徳元年七月廿九日歿す歳七十九

神田道禧 名定武道伴の男安永二巳年正月四日歿す歳六十四

蠣崎波響 天保三辰年六月廿二日歿す歳六十三

神谷轉友鷲 仙石家を來友鷲は普化僧となりたる時の號なり天保六年四月廿六日召捕られ同十二年一件落着同十四卯年十月廿六日歿す歳五十三

田永隆寺に葬る法號善法院忠岳清雄

甲斐徳本 長田徳本を見よ(なの部)

よの部

吉雄耕牛 稱幸右衛門後幸作家世々和蘭陀通詞を役とす解體新書に序したる此人なり寛政十二申年八月十六日歿す歳七十七

つこの部

鶴峰戊申海西 字世靈稱彦一郎豊後臼杵の人なり學和漢を兼ね音韻悉曇蘭學にも通せり弱冠にして諸州に流浪し天保九年文學を以て水戸烈公に謁し後祿を賜ひ藩士に列す安政六年八月四日駒込水戸邸に歿す歳七十二小石川傳通院境内縁授院に葬る

なの部

中原職忠恭菴 京の人正四位上大藏大輔有職典故に精し万治三年六月十六日卒す歳八十一

中村清五郎了雀 江戸歌舞伎作者實水四郎年正月廿四日歿す歳四十四本所馬場妙源寺に葬る

中村清五郎雀子 元祖門人正徳四年與女中江島律慶生島新五郎と密會の事に關して同三月神津島へ遠流享保二酉年九月十八日同島にて病歿歳三十九

むの部

村岡の局 近衛家老女津村氏明治六年八月廿二日歿す年八十八

ぜの部

千家尊澄 本居内遠の門人出雲國造明治十一年八月廿一日歿す

以上は本書の原稿を轉寫する際過ちてかきおとしたるを印刷校正の折發見したる分なり 正直記す

俳優忌辰録

いの部

岩井半四郎梅我 岩井家元祖、二代は大坂の座本、三代目より俳優となる大坂の人立役にて延享三年江戸へ下り寶曆六年隱居し同九年十一月廿六日歿す深川淨心寺に葬る

岩井半四郎杜若 始松本長松四代目團十郎門弟寶曆十年七歳と改め五粒響と成る明和二年半四郎と改む白銀の太夫云ふ是なり寛政十二申年三月廿九日歿す歳五十六深川淨心寺に葬る

岩井半四郎杜若 四代目の子幼名糸三郎俳名梅我天明八年初舞臺、文化元年四年四郎と改め天保三年俳名杜若を以て名とす弘化四年四月六日歿す歳七十二寺同上

岩井半四郎梅我 五代目長男幼名久次郎文化元年初舞臺同九年糸三郎と改め天保三年六代目半四郎と改む天保七年四月八日歿す歳三十八寺同上

岩井半四郎紫若 五代目二男始松之助文化三年初舞臺文政五年紫若と改め弘化元年七代目半四郎と改名弘化二巳年四月朔日歿す歳四十二、寺同上

關根只誠編

岩井半四郎杜若 七代目紫若の子幼名久次郎天保三年改む明治元年御褒美頂戴、同五年半四郎と改名同十五年二月十九日歿す歳五十四寺同上

市川團十郎才牛 本姓堀越父を十歳といふ江戸和泉町に生まる幼名海老蔵、延寶元年五月廿二日歿す歳五十四芝常照院に葬る

市川團十郎栢菴 元祖實子幼名九歳元祿十年五月初舞臺、實永二年團十郎と改む俳名三外家號成田屋、享保廿年海老蔵、栢菴と改む寶曆八年九月廿四日歿す歳七十一、同寺に葬る

市川團十郎三升 實は二代目門弟三外屋助十郎子享保十二年養子と成り外五郎と云同年秋初舞臺同廿年正月團十郎と改名延享元年二月廿七日歿す歳廿一同寺に葬る

市川團十郎五粒 二代目團十郎養子、初松本七歳後松本幸四郎俳名海九俳號夜雨庵二世栢菴又五粒安永七戌年二月廿五日歿す歳七十同寺に葬る

市川團十郎芝居茶屋袋屋源七 二男初代幸四郎養子と成り松本七歳とて享保四年春森田座初舞臺同九年より中村座へ娘役にて出勤同廿年春元服して二代目幸四郎と改名栢菴娘さよの聲と成り寶曆四年十一月四代目團十郎改名明

和七年悴幸四郎を五代目團十郎となし其身の元の幸四郎となり同九年二代目海老藏と改む此時高麗藏を養子として四代目幸四郎となす

五代目 市川團十郎 白猿 四代目實子幼名梅丸後五代目相續俳名三舛後白猿號反古庵狂名花道のつらね隠居して七左衛門文化三年十月廿九日歿す歳六十六寺同上

此の白猿は始め松本幸藏寶曆四年春中村座初舞臺同年冬三世幸四郎と改め明和七年春五代目を相續して團十郎と改め三舛と號す寛政三年十一月團十郎を悴海老藏に譲りて六世となし其身の蝦藏と改名此時の口上に祖父は海老藏の文字を用弁したが私のるびはさこ蝦を用弁又祖父は稲庭親は五粒私に申す此心は名人上手には毛が三筋足らぬと申儀で御坐り舛との口上

六代目 市川團十郎 三升 五代目子幼名徳藏天明二年春中村座へ五歳にて初舞臺同年冬海老藏と改め寛政三年春團十郎となる俳名三舛同十一月未年五月十三日歿す歳廿二同寺に葬る

七代目 市川團十郎 白猿 五代目白猿孫幼名小玉と云叔父六代目を相續す安政六未年三月廿三日歿す歳六十九と成り七代目父は丸屋七兵衛と云笛吹勝とて芝居へも出動せり爰に五代目白猿娘すみ女は堺町大茶屋和泉屋勘十郎方へ養女と成る寛政の初彼丸七と通じ合途に和泉屋の聲となし勘十郎と云寛政三年七代目出生(丸七は間もなく離別せり)翌卯年春市村座初舞臺時に五才市川新之助と云ふ同十年十一月海老藏と改め初めてしばらくを勤む同十二年十一月七代目團十郎と改め文化四年冬元服<sup>十七</sup>文政十二年三月紀州高野山より上阪天保元年八月歸府天保三年悴新之助

八代目 市川團十郎 三升 七代目團十郎長男幼名團十郎門弟團十郎内植木屋久兵衛方にて自殺歳三十二三升は文政六未年十月五日深川木場に生る幼名新之助同九年春八代目と改む天保三年三月市村座にて八代目團十郎と改同八年春市村座初舞臺弘化二年五月七日親孝行に付御褒美頂戴嘉永二年四月上坂同年八月歸府同年七月尾州より大坂へ登り名古屋にて興行八月朔日大坂表へ着六日變死、大坂一心寺に葬る

五代目 市川團藏 市紅 始市川蝦十郎門弟森之助後四代目養子と成り團三郎と改め文政五年春五代目團藏と改む(シノ團藏と云は是なり)弘化二年六月六日歿す歳五十八同寺に葬る

六代目 市川團藏 市紅 市川荒五郎子幼名照世文化十年十一月十三年茂々太郎文政十年白藏と成り同五年九藏と改め同六年三猿又市紅庵團藏嘉永五年六代目團藏と改む明治四年十月廿二日歿す歳七十二大坂同寺に葬る

七代目 市川團藏 市紅 市川荒五郎子幼名照世文化十年十一月十三年茂々太郎文政十年白藏と成り同五年九藏と改め同六年三猿又市紅庵團藏嘉永五年六代目團藏と改む明治四年十月廿二日歿す歳七十二大坂同寺に葬る

八代目 市川團藏 市紅 市川荒五郎子幼名照世文化十年十一月十三年茂々太郎文政十年白藏と成り同五年九藏と改め同六年三猿又市紅庵團藏嘉永五年六代目團藏と改む明治四年十月廿二日歿す歳七十二大坂同寺に葬る

九代目 市川團藏 市紅 市川荒五郎子幼名照世文化十年十一月十三年茂々太郎文政十年白藏と成り同五年九藏と改め同六年三猿又市紅庵團藏嘉永五年六代目團藏と改む明治四年十月廿二日歿す歳七十二大坂同寺に葬る

十代目 市川團藏 市紅 市川荒五郎子幼名照世文化十年十一月十三年茂々太郎文政十年白藏と成り同五年九藏と改め同六年三猿又市紅庵團藏嘉永五年六代目團藏と改む明治四年十月廿二日歿す歳七十二大坂同寺に葬る

十一代目 市川團藏 市紅 市川荒五郎子幼名照世文化十年十一月十三年茂々太郎文政十年白藏と成り同五年九藏と改め同六年三猿又市紅庵團藏嘉永五年六代目團藏と改む明治四年十月廿二日歿す歳七十二大坂同寺に葬る

十二代目 市川團藏 市紅 市川荒五郎子幼名照世文化十年十一月十三年茂々太郎文政十年白藏と成り同五年九藏と改め同六年三猿又市紅庵團藏嘉永五年六代目團藏と改む明治四年十月廿二日歿す歳七十二大坂同寺に葬る

十三代目 市川團藏 市紅 市川荒五郎子幼名照世文化十年十一月十三年茂々太郎文政十年白藏と成り同五年九藏と改め同六年三猿又市紅庵團藏嘉永五年六代目團藏と改む明治四年十月廿二日歿す歳七十二大坂同寺に葬る

十四代目 市川團藏 市紅 市川荒五郎子幼名照世文化十年十一月十三年茂々太郎文政十年白藏と成り同五年九藏と改め同六年三猿又市紅庵團藏嘉永五年六代目團藏と改む明治四年十月廿二日歿す歳七十二大坂同寺に葬る

十五代目 市川團藏 市紅 市川荒五郎子幼名照世文化十年十一月十三年茂々太郎文政十年白藏と成り同五年九藏と改め同六年三猿又市紅庵團藏嘉永五年六代目團藏と改む明治四年十月廿二日歿す歳七十二大坂同寺に葬る

十六代目 市川團藏 市紅 市川荒五郎子幼名照世文化十年十一月十三年茂々太郎文政十年白藏と成り同五年九藏と改め同六年三猿又市紅庵團藏嘉永五年六代目團藏と改む明治四年十月廿二日歿す歳七十二大坂同寺に葬る

十七代目 市川團藏 市紅 市川荒五郎子幼名照世文化十年十一月十三年茂々太郎文政十年白藏と成り同五年九藏と改め同六年三猿又市紅庵團藏嘉永五年六代目團藏と改む明治四年十月廿二日歿す歳七十二大坂同寺に葬る

十八代目 市川團藏 市紅 市川荒五郎子幼名照世文化十年十一月十三年茂々太郎文政十年白藏と成り同五年九藏と改め同六年三猿又市紅庵團藏嘉永五年六代目團藏と改む明治四年十月廿二日歿す歳七十二大坂同寺に葬る

十九代目 市川團藏 市紅 市川荒五郎子幼名照世文化十年十一月十三年茂々太郎文政十年白藏と成り同五年九藏と改め同六年三猿又市紅庵團藏嘉永五年六代目團藏と改む明治四年十月廿二日歿す歳七十二大坂同寺に葬る

二十代目 市川團藏 市紅 市川荒五郎子幼名照世文化十年十一月十三年茂々太郎文政十年白藏と成り同五年九藏と改め同六年三猿又市紅庵團藏嘉永五年六代目團藏と改む明治四年十月廿二日歿す歳七十二大坂同寺に葬る

二十一代目 市川團藏 市紅 市川荒五郎子幼名照世文化十年十一月十三年茂々太郎文政十年白藏と成り同五年九藏と改め同六年三猿又市紅庵團藏嘉永五年六代目團藏と改む明治四年十月廿二日歿す歳七十二大坂同寺に葬る

二十二代目 市川團藏 市紅 市川荒五郎子幼名照世文化十年十一月十三年茂々太郎文政十年白藏と成り同五年九藏と改め同六年三猿又市紅庵團藏嘉永五年六代目團藏と改む明治四年十月廿二日歿す歳七十二大坂同寺に葬る

二十三代目 市川團藏 市紅 市川荒五郎子幼名照世文化十年十一月十三年茂々太郎文政十年白藏と成り同五年九藏と改め同六年三猿又市紅庵團藏嘉永五年六代目團藏と改む明治四年十月廿二日歿す歳七十二大坂同寺に葬る

二十四代目 市川團藏 市紅 市川荒五郎子幼名照世文化十年十一月十三年茂々太郎文政十年白藏と成り同五年九藏と改め同六年三猿又市紅庵團藏嘉永五年六代目團藏と改む明治四年十月廿二日歿す歳七十二大坂同寺に葬る

二十五代目 市川團藏 市紅 市川荒五郎子幼名照世文化十年十一月十三年茂々太郎文政十年白藏と成り同五年九藏と改め同六年三猿又市紅庵團藏嘉永五年六代目團藏と改む明治四年十月廿二日歿す歳七十二大坂同寺に葬る

二十六代目 市川團藏 市紅 市川荒五郎子幼名照世文化十年十一月十三年茂々太郎文政十年白藏と成り同五年九藏と改め同六年三猿又市紅庵團藏嘉永五年六代目團藏と改む明治四年十月廿二日歿す歳七十二大坂同寺に葬る

に八代目相續させ其身は海老藏と改む天保五年三月京阪へ登り夫より長崎へ越り翌年秋歸府同十三年六月御咎にて江戸十里四方追放を仰付られ弘化二年伊勢古市芝居へ播谷重藏とて出づ同年冬大坂へ登り市川海老藏とて出動嘉永二年十二月御咎免江戸へ出動同五年上阪安政五年五月東都に歸り河原崎權之助宅に死す

八代目 市川團十郎 三升 七代目團十郎長男幼名團十郎門弟團十郎内植木屋久兵衛方にて自殺歳三十二三升は文政六未年十月五日深川木場に生る幼名新之助同九年春八代目と改む天保三年三月市村座にて八代目團十郎と改同八年春市村座初舞臺弘化二年五月七日親孝行に付御褒美頂戴嘉永二年四月上坂同年八月歸府同年七月尾州より大坂へ登り名古屋にて興行八月朔日大坂表へ着六日變死、大坂一心寺に葬る

七代目 市川團藏 市紅 松本四郎三郎子元祖團十郎門弟團藏之助と云元祿十一年中村座にて團藏と改め荒事歎役の名人と稱せらる元文五年四月五日歿す歳六十二西本願寺中法照寺に葬る

六代目 市川團藏 市紅 團藏二男幼名市三郎後團三郎兄團之助早世に付元文五年七月二代目相續して團藏と改む元文五年十月廿日歿す歳三十一同寺に葬る

五代目 市川團藏 市紅 木挽町芝居掛り又兵衛悴幼名松太郎坂東又九郎の門に入り次郎三郎後元祖團藏弟子と成り市川次郎三と云元文五年十一月團藏と改む明和元年六月廿四日歿す歳五十四同寺に葬る

四代目 市川團藏 市紅 始龜屋虎藏後三代目門に入り市川友藏と云安永元年團三郎同二年冬團藏と改

三代目 市川團藏 市紅 實曆六年瀧中鶴藏とて江戸へ下り同九年秀松と改め同十二年辨藏と改名明和八年門之助と改む寛政六年十月十九日歿す歳五十二淺草幸龍寺に葬る

二代目 市川門之助 新車 市川男女藏子幼名辨松後男寅と改む享和二年娘形にて初舞臺文化二年大坂にて門之助と改名文政七年七月廿七日變死歳三十一同寺に葬る

一代目 市川門之助 新車 男女藏二男傳藏後門之助文政二年三して後四代目文字太夫と改む依て常盤津の條に記す

五代目 市川門之助 新車 始瀨川路太郎後岩井糸太郎其後松本七藏と改め安政二年市川新車、明治三年五代目門之助と改む明治十一年九月十二日歿す歳五十八淺草幸龍寺に葬る

四代目 市川男女藏 海丸 二代目門之助長男始辨之助寛政元年春男女藏と改む天保四巳年六月七日歿す歳五十三同寺に葬る

三代目 市川八百藏 定花 元祖松島茂平次男幼名吉三郎後松本八百藏寛延二年栢庭門に入り市川八百藏と云家號立花屋、實曆九卯年十月十九日歿す歳三十深川寺町法乘寺に葬る

二代目 市川八百藏 中車 始豊竹和泉太夫後中村傳九郎門に入り傳藏と改め傳九郎姪さんを娶り實曆十三年八百藏と改む家號蓬萊屋安永六年七月三日歿す歳四十三淺草觀龍院に葬る

一代目 市川八百藏 中車 二代目澤村宗十郎長男三代目宗十郎兄なり幼名澤村金平明和六年瀨川雄

市川團藏 市紅 始龜屋虎藏後三代目門に入り市川友藏と云安永元年團三郎同二年冬團藏と改

市川團藏 市紅 實曆六年瀧中鶴藏とて江戸へ下り同九年秀松と改め同十二年辨藏と改名明和八年門之助と改む寛政六年十月十九日歿す歳五十二淺草幸龍寺に葬る

市川門之助 新車 市川男女藏子幼名辨松後男寅と改む享和二年娘形にて初舞臺文化二年大坂にて門之助と改名文政七年七月廿七日變死歳三十一同寺に葬る

市川門之助 新車 男女藏二男傳藏後門之助文政二年三して後四代目文字太夫と改む依て常盤津の條に記す

市川男女藏 海丸 二代目門之助長男始辨之助寛政元年春男女藏と改む天保四巳年六月七日歿す歳五十三同寺に葬る

市川八百藏 定花 元祖松島茂平次男幼名吉三郎後松本八百藏寛延二年栢庭門に入り市川八百藏と云家號立花屋、實曆九卯年十月十九日歿す歳三十深川寺町法乘寺に葬る

市川八百藏 中車 始豊竹和泉太夫後中村傳九郎門に入り傳藏と改め傳九郎姪さんを娶り實曆十三年八百藏と改む家號蓬萊屋安永六年七月三日歿す歳四十三淺草觀龍院に葬る

市川八百藏 中車 二代目澤村宗十郎長男三代目宗十郎兄なり幼名澤村金平明和六年瀨川雄

市川團藏 市紅 始龜屋虎藏後三代目門に入り市川友藏と云安永元年團三郎同二年冬團藏と改

市川團藏 市紅 實曆六年瀧中鶴藏とて江戸へ下り同九年秀松と改め同十二年辨藏と改名明和八年門之助と改む寛政六年十月十九日歿す歳五十二淺草幸龍寺に葬る

市川門之助 新車 市川男女藏子幼名辨松後男寅と改む享和二年娘形にて初舞臺文化二年大坂にて門之助と改名文政七年七月廿七日變死歳三十一同寺に葬る

市川門之助 新車 男女藏二男傳藏後門之助文政二年三して後四代目文字太夫と改む依て常盤津の條に記す

市川男女藏 海丸 二代目門之助長男始辨之助寛政元年春男女藏と改む天保四巳年六月七日歿す歳五十三同寺に葬る

市川八百藏 定花 元祖松島茂平次男幼名吉三郎後松本八百藏寛延二年栢庭門に入り市川八百藏と云家號立花屋、實曆九卯年十月十九日歿す歳三十深川寺町法乘寺に葬る

市川八百藏 中車 始豊竹和泉太夫後中村傳九郎門に入り傳藏と改め傳九郎姪さんを娶り實曆十三年八百藏と改む家號蓬萊屋安永六年七月三日歿す歳四十三淺草觀龍院に葬る

市川八百藏 中車 二代目澤村宗十郎長男三代目宗十郎兄なり幼名澤村金平明和六年瀨川雄

次郎と改め同八年十一月三代目市川八百藏と改名晩年奥州に趣き奥行中福島の旅舎にて病死といふ

四代目 市川八百藏 中車 藤間勘十郎第五代目岩井半四郎門弟文化元年八百藏と成る家號立花屋弘化元辰辰年七月三日歿す歳七十三

五代目 市川八百藏 中車 藤間勘兵衛伴幼名勘五郎七代目の門目相續して八百藏と改め其後關三十郎と云ふ天保六年三月五日歿す歳七十三

六代目 市川八百藏 中車 幼名花助元治元年市川八百藏と改め明治六年四月四日歿す歳七十

市川八百藏 中車 幼名花助元治元年市川八百藏と改め明治六年四月四日歿す歳七十

市川雷藏 栢車 幼名嵐外藏後嵐玉栢と改む寛保二年多川舛藏同八年雷藏と改む明和四年四月十二日歿す歳四十四淺草常林寺に葬る

市川宗三郎 和厨 市ヶ谷小芝居にて市川勝五郎と云享り改て栢庭門に入宗三郎と改め大立者と成る寶曆二申年五月十一日歿す歳六十六淺草門跡巖念寺に葬る

市山助五郎 之山 始神山助太郎とて娘形後市山助五郎と改め享保三年より立役と成る所作事の上手なり延享四年五月十日歿す歳五十四

市野川彦四郎 可慶 初代彦四郎實子幼名三木次郎後名天明三卯年七月八日大坂に歿す歳四十七(元祖市野川彦四郎は享保十二年七月廿三日歿す歳四十九)

十二代目 市村羽左衛門 家橘 幼名龜之助文政四年十二代目相續元役傍ら舞臺を勤む嘉永四年春倅九郎右衛門に太夫元を譲りて竹之丞と改め壽を勤む嘉永四年八月廿日歿す歳四十同寺に葬る

生嶋新五郎 菱賀 大坂出生元祿二年江戸山村座へ出勤島の際にて正徳四年四月三宅島え遠流享保十八年正月五日歿す歳六十四

元祖 今村七三郎 狸友 始坂田半三郎立役の上手正徳四年十一月二十三日歿す歳四十七

二代目 今村七三郎 狸鼓 始三保七三郎實曆十二年三月廿日大坂に歿す歳四十九

元祖 坂東彦三郎 薪水 相州の人幼年大坂に至り篠塚次郎左衛門の弟子と成り菊松と云ふ寶永三年初舞臺享保十四年江戸へ下り坂東又太郎弟子と成り坂東彦三郎と改む寛延四年正月朔日歿す歳四十一深川淨心寺に葬る

二代目 坂東彦三郎 薪水 初代彦三郎子幼名菊松實曆十二年十一月廿四日歿す歳二十八同寺に葬る

市川蝦十郎 新舛 文化七年春藤田座へ市川市川にて下り同九年七代目門弟と成り市川市川と改む家號播磨屋文化十二年蝦十郎と改め文政十年七月十六日大坂に歿す歳四十七

四代目 市川蝦十郎 眼玉 松嶋巳之助改市川市川十郎(二代目の後坂東番太郎又蝦十郎後眼玉嘉永四年元明寺に葬る)

四代目 市川小團次 米舛 三代目小團次門弟幼名米藏後濱之居と改む弘化四年十一月市村座へ下り慶應二年五月八日歿す歳五十五深川玉泉院に葬る

元祖 市村字左衛門 年より太夫役を勤む貞享三年七月廿四日歿す歳五十二本所押上天雲寺に葬る

四代目 市村竹之丞 寛文四年より座元と成時に十歳同八年より舞臺を勤む延寶七年三月歿して割腹性院に葬る

八代目 市村羽左衛門 何江 始竹之丞五歳にて座元と成り羽左衛門と書改め舞臺を勤め女形を兼たり寶曆十二年五月五日歿す歳六十六大雲寺に葬る

九代目 市村羽左衛門 家橘 幼名滿藏實曆十二年八月より元延享二年市村龜藏と改め實十二年九月代目相續所作事の名人天明五巳年八月廿五日歿す歳六十二同寺に葬る

三代目 坂東彦三郎 樂善 九代目市村羽左衛門末子幼名吉五郎と改む俳名薪水家號萬屋文化十一年秋法鉢して半艸樂善と改む文政十一年二月十八日歿す歳七十五本所押大雲寺に葬る

四代目 坂東彦三郎 薪水 福地茂兵衛子幼名竹三郎文化九年彦三郎と改め安政三年春坂東龜藏となる俳名樂善家號羽屋明治六年十一月十四日歿す歳七十四大雲寺に葬る

五代目 坂東彦三郎 薪水 四代目彦三郎養子天保十三年初舞三郎と改む明治十年十月十三日大坂に歿す歳四十六大淨運寺に葬る

元祖 坂東家橘 市村羽左衛門三男幼名竹松弘化六年初舞臺治元年市村家橘と改め坂東彦三郎の相續人なり同廿六年三月十八日歿す歳四十八押上大雲寺に葬る

二代目 坂東三津五郎 是葉 始尾上紋太郎門弟尾上藤藏安三年江戸へ下り天明五年三津五郎と改め寛政十一年秋野伊三郎と改む文政十二年十月日歿す歳八十

三代目 坂東三津五郎 是葉 安永七年十一月森田座にて坂座若太夫にて勘次郎と改め寛政五年坂東篤助と改む同一年四月三代目三津五郎と改名家號大和屋俳名始是葉

三 二

秀佳天保二年十二月廿七日歿す歳五十七同寺に葬る  
四代目 坂東三津五郎 秀朝 三代目三津五郎養子坂東實助天  
十一月十一代目森田勘彌と改む文久三亥年十一月十八日  
歿す歳六十二本所番場妙源寺に葬る

坂東三津五郎 秀山 坂東三津五郎養子幼名吉彌嘉永三  
年五月初舞臺安政三年五月五代  
目三津五郎と改む明治六酉年五月十一日歿す歳廿八同寺  
に葬る  
歌となり後まうかと書く安政二卯年三月六日歿す歳四十  
三芝月界院に葬る

五代目 坂東三津右衛門 熊山 三代目三津五郎弟初名坂東  
熊平後三津右衛門と改む天保  
中素人となり難波町に料理店を開き杉酒屋平六と云ふ弘  
化三年四月四日歿す歳五十九

坂東又太郎 元祖又九郎養子幼名又七郎森田家の祖なり  
元祿七申年六月廿八日歿す歳四十三本所妙  
源寺に葬る

濱崎磯五郎 調花 始坂田仙太郎、享保元申年六月十三  
日歿す歳四十九淺草盛泰寺に葬る

早川傳五郎 始三條傳五郎大坂の人江戸へ下り其後狂言  
作者を兼ね享保四亥年十一月廿日歿す歳五  
十春慶寺に葬る

早川傳四郎 昇虫 傳五郎義弟是も狂言作者を兼ね役者  
は三枚目なれど狂言作者の立作者な  
り寛延二巳年五月四日歿す歳五十二淺草幸龍寺に葬る

元祖 尾上菊五郎 梅幸 尾上多賀之丞門弟左近弟子幼名竹太  
郎後菊五郎と改む天明三卯年十二月  
晦日歿す歳六十七  
梅幸父は京都宮川町音羽屋半平四條方太と云梅幸は享保十  
五年京樹山座へ十二歳にて初舞臺元祖澤村長十郎取立初  
め若女形寛保二年冬江戸市村座へ下り寛延二年忠臣藏に  
勤平れ石二役是加役の始なり寶曆二年立役と成り家號音  
羽屋舞臺を勤し年數五十五年の内江戸出勤中村座三年森  
田座三年市村座廿五年合せて三十五年先妻の元祖新水女後妻  
は二代目廣次女なり

二代目 尾上菊五郎 梅幸 元祖菊五郎子幼名丑之助母は廣次女  
天明五年二代目菊五郎と改む時  
七歳家號音羽屋天明七未年八月防州三田尻へ興行の途中  
船中にて急病發し同月十八日に死す歳十九

三代目 尾上菊五郎 梅幸 幼名辰五郎實小傳馬丁一丁尾上松緑養  
子と成り新三郎と改む嘉永二酉年閏  
四月廿四日歿す歳六十六淺草今戸廣樂寺に葬る  
天明八年市村座へ子役にて尾上榮三郎とて初舞臺享和二  
年立役文化六年松助と改む同一年梅幸と改む同十二年  
中村座にて三代目菊五郎と改むなり化四年市村座にて一世  
一代舞納梅壽と改む其後菊屋万平と改名し菓子並汁粉  
見世を二丁目新道へ出す嘉永元年秋大川橋藏と改上坂並  
京地興行同二年歸府の途中より病氣となり四月廿四日掛  
川宿旅亭に於て病死同所大久寺に葬る

四代目 尾上菊五郎 梅幸 始中村歌蝶大坂表にて三代目養子と  
成り天保二年十一月榮三郎にて下り  
弘化二年冬梅幸と改め安政二年九月四代目菊五郎と改名

二代目 花井才三郎 桃朝 始女形三條勘太郎享保十一年より立  
役と成り才三郎と改む寶曆十三年四  
月三日歿す歳六十二芝正傳院に葬る

坂東壽太郎 巖柳 角力取江戸ヶ崎小三郎の養子坂東岩  
五郎の養子と成り始重大郎家號鳴田  
屋、天保十一年子十二月廿四日歿す歳七十二大坂中寺町  
本覺寺に葬る

坂東岩五郎 岩子 坂東國五郎弟幼名國三郎寛政七卯年  
八月十七日歿す歳四十八

坂東八十助 喜幸 七代目森田勘彌弟又左衛門男幼名又  
東又九郎と改む俳名眼合天明三年八月八代目勘彌と改む  
享和元年十一月悴又吉へ太夫役を譲り坂東八十助と改名  
文化十一年二月廿四日歿す歳五十六本所妙源寺に葬る

富澤辰十郎 連袖 若女形初名辰之助元服して辰十郎と  
改む屋號平野屋安永六百年九月九日  
歿す歳五十二淺草幸龍寺に葬る

元祖 尾上松助 松緑 初代菊五郎門人寶曆五年尾上佐之助同  
後紋三郎明和二年二枚目と成り同七年立役と成る文化六  
年松緑と改名文化十二年九月十六日歿す歳七十一同上  
尾上多見藏 松朝 西京の人四代目菊之丞門弟瀬川和  
政三年菊五郎門に入り多見藏と改む明治十九年春一世一  
代を勤め同年三月二日歿す年九十

元祖 小川善五郎 雲汁 元小佐川より出たる苗氏小佐川重右  
衛門弟子初佐治右衛門元文二巳年十  
一月六日歿す歳五十六芝源書院に葬る

元祖 小川吉太郎 英子 小川善五郎門弟小川五郎四郎子中興  
やつし方の上永安永十丑年二月十九  
日歿す年四十五大坂法善寺に葬る

三代目 小川吉太郎 英子 初代吉太郎門弟初仙太郎寛政六寅年  
六月十五日歿す歳三十五同寺に葬る

元祖 小川吉太郎 英子 三代目中村歌右衛門弟子中村元三郎  
家號加賀屋嘉永四亥年九月十八日歿  
す歳六十七大坂中寺町正法寺に葬る

元祖 小佐川常世 巨撰 小佐川平藏弟子初名染松常世と云ふ  
後小佐川に改む家號綿屋明和三戌年  
五月十二日歿す歳四十三本所法恩寺中常運寺に葬る

二代目 小佐川常世 巨撰 初代常世門人初名小佐川七藏明和五  
年二代目相續文化五辰年八月十六日  
歿す歳五十六下谷佛店玉光寺に葬る

四代目 小佐川常世 巨撰 初代常世門人初名小佐川七藏明和五  
年二代目相續文化五辰年八月十六日  
歿す歳五十六下谷佛店玉光寺に葬る

元祖 大谷廣次 十町 大谷廣右衛門養子家號九屋、天十町と云ふ延享四年五月廿五日歿す歳四十九歳草大專寺に葬る

二代目 大谷廣次 十町 初代廣次養子鬼次寛延元年廣次と改む家號駿河屋實曆七年六月二日歿す深川淨心寺塔頭正行院に葬る

三代目 大谷廣次 十町 元米山徳五郎と云ふ實曆五年大谷春次にて初御臺同八年五月鬼次と改め同十二年三代目相續して廣治と成る家號九屋享和二年五月十二日歿す歳五十七歳深川淨心寺中正行院に葬る

四代目 大谷廣次 十町 三代目十町男幼名廣五郎後鬼次と改む

五代目 大谷廣次 十町 四代目友右衛門子初友松安政二年五代目友右衛門と改む俳名紫道明治三年冬下坂大谷廣次と改め俳名十町明治六年二月一日歿す歳四十一

元祖 大谷廣右衛門 幡風 江戸敵役の祖始廣吉享保五年七月廿七日歿す歳五十六芝金杉正傳寺に葬る

二代目 大谷廣右衛門 幡風 二代目十町門人始龍左衛門延享四年二月廿五日歿す深川淨心寺に葬る

三代目 大谷廣右衛門 初代十町門人初名國藏寛政二年九月十日歿す歳六十七歳大坂今宮に葬る

四代目 大谷廣右衛門 晚風 始坂東大五郎後坂田平五郎其後三代目大谷廣次門弟と成り四代目廣右衛門天保十年十一月七日歿す歳四十七歳大坂豐原連生寺に葬る

五代目 大谷廣右衛門 晚風 四代目友右衛門門人初名万作安政四年九月十三日歿す歳五十四歳大坂下寺町妙藏寺に葬る

元祖 大谷友右衛門 此友 初代大谷廣八門人元竹田友三郎後大谷友三郎家號山科屋天明元丑年八月十六日歿す歳三十八歳深川本誓寺に葬る

二代目 大谷友右衛門 此友 谷村備八門弟始虎藏寛政七年友元寅年閏三月廿四日歿す歳六十三歳大坂下寺町に葬る

三代目 大谷友右衛門 金興 始嵐舎九

四代目 大谷友右衛門 樂猿 二代目友右衛門弟初名福藏又万作其後舎九と改め天保七年友右衛門と改む文久元酉年正月朔日歿す歳七十

五代目 大谷友右衛門 紫道 五代目廣次と改む仍て廣次の條に記す

かの部

元祖 片岡仁左衛門 茶谷 元藤川伊三郎とて三線ひき也中年に俳優となり片岡と改む享保元年二月三日歿す歳四十四

(此家六代目迄は格別の役者に非ず二代目は長太夫として座元を兼帯せり三代目は始め藤川半三郎と云て元祖茶谷の妹婿なれば長太夫早世の後片岡の名跡をつぎ三代目仁左衛門と成る四代目は三代目の養子にて始め藤川正松後半三郎又仁左衛門と改名す五代目は始め松本七藏四代目の養子となりて藤川半三郎と改め後五世仁左衛門を相續せり此五代目早世の處親類相談の上門人片岡彦四郎に六代目を相續せしむ然るに彦四郎故有て三保木儀左衛門と改名せしに付片岡の家は一時中絶の姿になりき)

七代目 片岡仁左衛門 我童 二代目中村十藏門弟初め中村松郎と改め後仁左衛門となる天保八酉年三月朔日歿す年八十三歳大坂中寺町藥王寺に葬る

浅尾國五郎の三枚目に評能かりしが子細有て苗字を山澤と改め後亦元の浅尾と成り天明七年師奥山に破門され三保木儀十郎に便り片岡家を相續して七代目仁左衛門と改む俳名我童家號松島屋實子愛之助早世養子片岡あやめ文政十二年四月十八日死年四十一

八代目 片岡仁左衛門 我童 幼名三樹光五郎後三樹岩五郎と改め又嵐離寛(目徳)の門に入り嵐橋三郎と改名天保三辰年七代目養子と成り片岡我童後我童と改む嘉永六年秋中村座へ下り安政四年正月同座にて八代目仁左衛門と成り文久三亥年六月十六日歿す歳五十四歳大坂中寺町藥王寺に葬る

叶 珉柿 珉子 後嵐小六となる仍て嵐の部に記す

よの部

元祖 芳澤あやめ 元山下權七と云立役なりしか後吉澤あやめと改め女形と成る享保十四酉年七月十五日歿す歳五十七歳大坂谷町本照寺に葬る

(あやめ元齊藤某の子故有て色子成りしを自前と成り歌舞伎へ出で若衆形より立役と成後若女形と成是皆丹波の橘又郎左衛門といへる人の世話なりあやめ實父の紋は逆馬なれども恩人五郎左衛門の紋桐のどうに改めたり元祿十六年には女形の巻頭正徳六年に三ヶ津惣頭享保二年には古今無類と評判記に記載せり自姓を橘屋權七と云ひ橘を取りて家号とせりあやめ四人の實子有り惣領は二代目あやめ二男山下又太郎三男中村富十郎四男吉澤崎之助以上四人とも實子なり)

二代目 芳澤あやめ 春水 元祖あやめ長男初め崎之助家名橘屋四戌年七月十八日京地に歿す歳五十三歳同上月

(寛保二年十一月市村座へ下り先例に任せ大根漬の狂言出世し處上手なれど不評故次に橘の妻菊水の役にて名題は女楠よとほひ鑑とあやめを立たる名題なり其時中村座へ嵐小六初下り評判よかりさされども見功者にあやめは上手小六はお下手といひけり寛延三年中村座にて道成寺古今の大當り歌舞妓年代記に元祖と記すは誤なり此時衰美として立鏡を出したり是立鏡の始なり)

三代目 芳澤あやめ 一鳳 二代目弟初名万世延享二年崎之助と改め市村座へ下り明和元年三代目あやめと改む安永三年十月十八日歿す歳五十五寺同上

四代目 芳澤あやめ 春水 二代目あやめ門弟初め山下市五郎後目あやめ文化三年俳名巴紅と改め養子いろはへ五代目を譲り文化七年八月廿六日歿す歳五十六寺同上

五代目 芳澤あやめ 春水 四代目養子初芳澤五郎市後いろはと改め文化三年五代目あやめと改む文化六巳年十二月廿五日歿す歳廿五寺同上

たの部

瀧川吉平次 友交 敵役中山平八の子初め竹三郎正徳五年十二月十九日歿す歳四十七芝観智院に葬る

その部

袖岡政之助 享保九辰年九月十五日歿す歳五十四淺草山の宿九品寺に葬る

袖崎伊勢野 享保廿卯年二月二日歿す歳三十九本所出村永隆寺に葬る

袖崎勝世 貞享二巳年九月朔日歿す歳三十七深川清心寺に葬る

袖崎三輪野 享保二十一年辰二月廿六日歿す歳四十七深川清心寺に葬る

惣領甚六 安永九辰年二月七日歿す奥州桑折法圓寺に葬る

つの部

津山友藏 松香 元津打門三郎實曆三酉年九月二日歿す歳五十一蓮光寺に葬る

二代目 鶴屋南北 魯風 初代南北孫太郎門人道外方實曆十三未年十二月廿三日歿す歳五十六深川雲光院塔頭正光院に葬る(初代南北はなの部にあり始は南北を氏とすればなり)

なの部

元祖 中村勘三郎 江戸歌舞伎戯場の祖寛永元年二月中橋に始て繪御免此頃は猿若と呼び本姓は三間氏家號柏屋三十三ヶ年間太夫元を勤む明暦四戌年六月九日歿す歳六十一本所押上長行山大雲寺に葬る

二代目 中村勘三郎 初代實子幼名明石万治元年より十七ヶ年太夫元を勤む延寶二子年八月廿六日歿す歳廿八寺同上

三代目 中村勘三郎 元祖勘三郎三男長三郎順養子と成り五ヶ年間太夫元を勤め延寶六午年八月十一日歿す歳三十寺同上

四代目 中村勘三郎 舞鶴 三代目勘三郎の子幼名竹松延寶六年居して中村傳九郎と改め舞臺を勤む正徳三巳年十月二十日歿す歳五十二本所荒井町妙源寺に葬る

五代目 中村勘三郎 舞鶴 三代目兄勘九郎の子貞享元年より太夫元を勤め後隱居して二代目傳九郎と改む元祿十四巳年九月十九日歿す歳五十五寺同上(中村勘三郎家は代々浄土宗にて本所押上村大雲寺に代々の石碑あり然るに四代目勘三郎傳九郎に至て法華宗信心に依り本家は浄土宗として歿後則妙源寺に傳九郎石碑を殘せしなり尤隱居の家は三男たる重助譲る是に依て傳九郎は名前は重助より譲る也)

六代目 中村勘三郎 冠子 五代目勘三郎實父勘九郎二男冠守と云元祿十四年より改名して太夫元を勤む實曆七丑年十一月廿五日歿す歳六十六本所大雲寺に葬る

七代目 中村勘三郎 雀童 六代目勘三郎長男幼名明石延寶三年より太夫元と成る安永四未年二月廿八日歿す歳五十三寺同上

八代目 中村勘三郎 冠子 六代目勘三郎二男幼名勝十郎後三代目傳九郎安永四年より座元を繼ぎ安永六酉年十月廿五日歿す歳五十九寺同上(元祖傳九郎正忌日に病死)

九代目 中村勘三郎 雀童 實は二代目中村七三郎孫幼名七之助安永七年相續して太夫元と成る天明五巳年七月廿九日早世歳廿一寺同上

十代目 中村勘三郎 雀童 九代目勘三郎早世に付勘九郎の子熊吉養子病身に付隱居文化七年五月三日歿す(此人實の淺草福井町名主齊藤太郎助二男なりしが三百兩の持參にて八代目勘三郎次女おさんへ入聲天明五年十月勘三郎相續翌六年春家督の壽此時中村仲藏六代目中山小十郎と改め志賀山三番更興行當中村座不入打續并度々の頼焼にて十六万四千兩の大借の爲終に寛政四年七月逃亡せり)

十二代目 中村勘三郎 冠子 八代目勘三郎長女菊女舞傳藏と云後亡せしに依り十一代目相續文政十二年八月四日歿歳六十四

(當勤三郎は三代目市川八百藏の一人なり八百藏の妻は舞鶴勤三郎内縁有に依て一子傳藏幼年より八代目勤三郎兼置て傳九郎名跡とす然に十代目勤三郎病身に付太夫役勤兼候故傳九郎へ座元を譲る依て八代目勤三郎娘と聚合十代目を相續す此十代十一代の間の困苦筆紙に難盡楷替再興の事は別に記す)

十二代目 中村勤二郎 舞鶴 十一代目男幼名明石又五代目傳九郎天保元年より太夫役を勤む嘉永四亥年十月十一日歿す歳年五十二押上大雲寺に葬る

元祖 中村七三郎 少長 寶永五年二月三日歿す歳四十四本所法恩寺地中寶泉寺に葬る (元祖團十郎元祖傳九郎此七三郎を江戸の名物三幅對と云就中元祿十一寅年正月廿二日より京都山下半左衛門座にて傾城淺間嶽の狂言に百廿日の興行古今の大當り是より和事の名人と稱す其役名は小笹巴之丞中村七三郎傾城奥州岩井左源太家老花岡和田右衛門山下半左衛門二階堂兵衛大森辰右衛門若殿登根五郎桑原三左衛門等なり余ハ略す)

二代目 中村七三郎 少長 幼名清之助家號中村屋安永三年九月二日歿す歳七十二寺同上

元祖 中村仲藏 秀鶴 二代目中村傳九郎門弟家號榮屋寛政二年四月廿三日歿す歳五十五下谷竹町常在寺に葬る

元祖 中村野鹽 袖歌 元祖慶子門弟初加茂川野鹽と云ふ安永六年十一月十九日歿す歳廿六深川淨心寺に葬る

二代目 中村のしほ 蘭耕 初名生島金藏後元祖慶子孫分となる寛政七年春都座へ下り同九年上坂同十二年三月廿日歿す歳四十二大坂藥王寺に葬る

三代目 中村のしほ 慶守 初中村金藏蘭耕子天明八年初舞臺寛政七年中村座へ下り同十二年上坂享和二年十月三代目のしほと改む天保二卯年四月十三日歿す歳五十一大坂藥王寺に葬る

二代目 中村大吉 巴大 蘭耕門人初藤川大吉家號鳴尾屋寛政十五年十一月中村座へ下り享和元年又下り文政二年歿す歳五十一淺草新堀淨念寺に葬る

三代目 中村大吉 巴大 岩井杜若取立にて初名瀬川多門上坂して澤村其答と改め富十郎養子と成り三代目中村大吉と改む安政四巳年十一月十一日歿す歳四十三鳥部野本壽寺に葬る

元祖 中村桑太郎 鯉長 嵐門十郎子後中村吉十郎又桑太郎と改む寛延二年中村座へ下り寶曆五年上京後出家と成り閑居して海印と號す安永六酉年七月十五日歿す歳五十四

二代目 中村桑太郎 鯉長 初嵐房次郎家號大黒屋天明三年春二代目桑太郎と改寛政二年中村座へ下り文化四年九月廿三日歿す歳四十九

元祖 中山新九郎 一蝶 始姉川新十郎一度泉川と改め之を楯藏に譲り元の中山と改む安永四未年四月三日歿す歳五十二

(秀鶴は五代目中山小十郎養子幼名方藏寛保三年二代目傳九郎の門弟と成り、延享二年中藏と改め、中村座初舞臺より同四年春家號寶曆四年立役と成り同十年十一月仲藏と改む明和二年寶曆安永九年座頭天明五年中山小十郎表德秀万作となり同六年再び仲藏と改む同十年冬より末申年遠京大坂を勤め同八年十一月歸り中村座へ出勤寛政元年顔見勢より休業)

二代目 中村仲藏 秀鶴 三代目大谷廣次門弟幼名永助安永七年春次と改め七年十月見次寛政六年二代目仲藏と改む家號政津屋寛政八年十一月七日歿す歳三十八法恩寺地中廣徳寺に葬る

三代目 中村仲藏 秀鶴 五代目傳九郎門人初名鶴藏文政元年初舞臺安政元年名題并進座應二卯年九月三日歿す歳三十八大坂一心寺に葬る

元祖 中村富十郎 慶子 中村新五郎養子佛號書名榮屋家號天王寺屋天明六年八月三日歿す歳六十八大坂一心寺に葬る (慶子は元祖芳澤あやめ三男新五郎養子と成り若女形の妙手享保十七年三月十二歳にて始て京都万太夫座初舞臺寛延二巳年冬より大坂岩井半四郎座にて石橋を勤む歳十八寛保元年春中村座へ下る是初てなり)

二代目 中村富十郎 慶子 初名市川熊太郎後三代目歌右衛門門弟と成中村三光後三代目松江天保四年二月十三日歿す歳七十大坂正法寺に葬る

元祖 中村新五郎 元祖慶子實子初名初五郎安永六酉年十一月十九日歿す歳三十二深川淨心寺に葬る

二代目 中山新九郎 舍柳 狂言作者松屋來助長男始來助後中山來助其後二代目相續天明三年三月十九日歿す歳四十六

元祖 中山文七 由男 松屋來助二男始中山與三郎家號和泉屋新九郎養子文化十酉年九月六日歿す歳八十三黒谷眞如堂に葬る

二代目 中山文七 由男 二代目新九郎養子始中山猪八後二代目文七後退座して油店を出す鬘付屋文七是也寛政十戌年二月十九日歿す歳四十九

元祖 中村歌右衛門 一先 中村源左衛門養子源十郎弟子歌月廿九日歿す歳七十八大坂中寺町淨國寺に葬る (一先の家號加賀屋寛保二年十一月初て中村座へ下り延享元年上坂延享四年中村歌右衛門と改名の時芝居表に幟を立てる是初也寶曆七年市村座へ下り同十二年上坂天明三加賀屋歌七と改め同九年中の座にて一世一代舞納凡五十八年の間勤む)

二代目 中村歌右衛門 歌壽 始水木東藏後一先門弟と成り中村東藏と改む天明二年養子と成り二代目相續寛政二年子細有て元の東藏と改む寛政十年年三月廿二日歿す

三代目 中村歌右衛門 芝翫 梅玉 初代歌右衛門實子幼名福後梅玉天保九年戊七月十三日歿す歳六十一大坂中寺町淨國寺に葬る

元祖 中村歌右衛門 芝翫 梅玉 初代歌右衛門實子幼名福後梅玉天保九年戊七月十三日歿す歳六十一大坂中寺町淨國寺に葬る (寛政元年五月大坂中の座へ初て出勤時十三歳同六年三月三代目相續して中村歌右衛門と改む十八歳文化五年三月初て中村座へ下り同九年九月上坂文化十一年再び中村

座へ下り同十二年十月歸坂同年藝名を芝瓶と改め文政四年一度舞臺を退き加賀屋市兵衛と名乗翌年春再勤此間文政元年二月又々中村座へ芝瓶名前にて出勤同二年九月歸坂天保七年中村玉助と改む俳名梅玉亦狂言作者の名は金澤龍玉と云

四代目 中村歌右衛門 翫雀 号魁香舎嘉永五年二月十七日歿す歳五十七寺同上

翫雀は江戸下谷の出生藤間勘十郎妻の妹の子にて幼名吉太郎と云幼少より踊りの師匠に爲す積りにて母の縁もあれは勘十郎の弟子と成る十歳の時勘十郎方へ引取られ文化三年九月十二歳の時神田紺屋町御用祭りに矢の根五郎にて家臺へ出大に評判よし翌四年勘十郎の養子となり能三郎と改め文化五年梅玉中村座出勤中門に入り中村藤太郎と改め文化九年九月師の歌右衛門上坂の砌同十月跡を追ひ出奔して大坂に趣き鶴助と改め文政八年春芝瓶と改め同十一年正月初て中村座へ下り天保四年九月名残り狂言大當り同年十月大坂角の芝居にて翫雀と改名同七年正月四代目歌右衛門と改め同九年春又中村座へ下り同九月十八日より操四季に見立春腰越狀夏近江源氏秋三畧巻冬紙屋治兵衛を出したるに此狂言評判能く大入なりしかば落書に鬼一倍戻す云々當年當地御名殘翌年上坂

二代目 中村翫雀 四代目歌右衛門養子實は菊屋善兵衛男竹之丞甥幼名市村橋藏先代翫雀存生の内遺言にて後養子となり嘉永五年角の座へ上り翫雀と改め万延元年正月七日歿す歳二十八大阪中寺町淨國寺に葬る

三代目 中村翫雀 明治十四年二月三日歿す歳四十一

中村歌女之丞 明治十四年三月廿二日歿す歳五十二

中村芝雀 安政三年四月五日歿す歳三十七

中村松江 里江 元祖歌右衛門門弟幼名十三郎家號源屋天明六年十月十一日歿す歳四十五芝雀光院に葬る

元祖 中村重助 故一 四代目中村勘三郎三男寶曆五年八月晦日歿す歳五十八本所妙源寺に葬る

二代目 中村重助 故一 初め鶴子亭和三亥年九月廿日歿す歳五十五寺同上

三代目 中村重助 故一 文化二丑年十二月十二日歿す本所報恩寺に葬る

四代目 中村重助 故一 二代目七三郎子天保十二年七月廿九日歿す歳三十五寺同上

中村峯之助 正徳五未年七月廿六日歿す歳二十九谷中三崎一乘院に葬る

中村竹三郎 正徳四年六月七日歿す歳四十八本所馬場妙源寺に葬る

中村源之助 鼠子 享保元申年四月廿四日歿す歳五十一難司ヶ谷本能寺に葬る

中村半三郎 享保八卯年三月十七日歿す淺草北寺町榮林寺に葬る

中村竹三郎 初菊太郎享保九辰年十月廿四日歿す本所妙源寺に葬る

中村傳八 中村傳九郎門弟享保十巳年十二月五日歿す歳四十淺草新寺町盛泰寺に葬る

南北孫太郎 元文元辰年九月九日歿す深川正光院に葬る

元祖 中村助五郎 魚樂 初代中村七三郎門人仙石查助子二代目少長より苗字を貰ひ中村龜太郎とて子役にて出勤後に中村助五郎家號仙國屋寶曆十三年七月十三日歿す深川淨心寺中善應院に葬る

二代目 中村助五郎 魚樂 助五郎子仙石助次寶曆十三年十一月十月廿九日歿す歳六十二寺同上

元祖 中島三甫右衛門 重笠 始中島勘四郎と云後三保右衛門又三甫右衛門正徳四年初舞臺寶曆十二年三月廿三日歿す歳六十一淺草鳥越源壽院に葬る

二代目 中島三甫右衛門 天幸 初代子初名三甫家號中島屋湯島に住す依て湯島の天幸と云寶曆十三年三甫右衛門と改む天明二年四月十日歿す歳五十九淺草鳥越源壽院に葬る

三代目 中島三甫右衛門 狸十 天幸門弟始志賀藏後三甫藏天明二年四月四日歿す歳四十八寺同上

四代目 中島三甫右衛門 始三甫藏文政五年十二月十三日歿す

元祖 中嶋勘左衛門 重師 中島家祖俳名是少とも云ふ別號芝樂園享保元申年四月廿一日歿す歳五十五坂本入谷感應寺に葬る

二代目 中嶋勘左衛門 是少 初代勘左衛門實子初名助六後勘左衛門と改む立敵にて尤上手な

中村吉兵衛 一其 異名二朱判吉兵衛道外方の上手明和二年八月十七日歿す歳八十二谷中常在寺に葬る

中村吉藏 其次 吉兵衛子元文四年四月廿四日歿す歳三十九寺同上

中村喜代三 花曉 京の人寶曆五年市村座へ下り女團七八日大坂に歿す歳五十七

中山善樂 文政十亥年十月廿五日歿す歳六十七大坂北久實寺町玉泉寺に葬る

中村芝猿 芝綠 幼名熊五郎後加賀右衛門後片岡小六亦芝猿と改む文政十二年十一月廿日歿す歳四十大坂中寺町妙徳寺に葬る

二代目 中村十藏 始め小倉川百助天明八申年六月十三日歿す

三代目 中村十藏 幼名坂田市太郎後嵐市太郎夫より片岡松助江十藏と改む天保三年正月家出して江州街道の山中にて急症發し二月廿一日歿す歳五十三

中村傳五郎 寛延元年二月四日歿す歳四十六本所妙源寺に葬る

中村吉十郎 明和六丑年十月十九日歿す歳二十七

中村吉右衛門 中村家中興の祖始中村十藏寶曆十年養子小倉川百助を二代目十藏として其身

吉右衛門と成り明和七寅年六月十七日歿す歳七十七

中山百花 嘉永六丑年二月十五日歿す歳九十大坂嶋之内万福寺に葬る

り實曆十二年午八月五日歿す歳五十六本所法恩寺中吉詳坊に葬る

中村傳次郎 舞扇 喜多小平太に屬し鼓方志賀山万作男傳次郎と改む是所作振付の祖享保十四申年二月二十八日歿す歳五十七

中山小十郎 初中村万作舞師元祖仲藏の師なり後養父實曆三百年廿一日歿す歳四十九

やの部

山中平九郎 仙家 江戸公家悪の開山享保九辰年五月十五日歿す歳八十三下谷竹町常在寺に葬る

山下京右衛門 物應 京島丸下立賣塗師職の伴幼名十の祖享保二酉年正月十八日歿す歳六十八

山下又四郎 應外 山下京右衛門門弟初藤川文五郎元文元辰年八月九日歿す歳五十一

山下金作 李江 又四郎養子始文五郎後二代目又四郎後女形と成り金作と改む寛延三年午七月二日歿す

山下金作 里虹 元祖養子初中村半太夫家号天王寺屋寛政十一巳年九月十三日歿す歳六十七

山下又太郎 元祖わやめの實子金作養子と成り後藤山山下京右衛門と改む實曆十二年午八月十六日歿す

山下万菊 里舟 金作子幼名金太郎寛政三亥年五月十三日歿す歳二十九深川淨心寺に葬る

山下菊橘 歌瑠藻 享保三戌年十二月八日歿す歳三十三淺草北寺町榮林院に葬る

山村惣左衛門 享保四亥年八月八日歿す歳四十四淺草寺町天嶽院に葬る

山本京二郎 柳子 若女形始菊之助享保十四酉年正月廿五日歿す歳八軒寺町本立寺に葬る

山本京四郎 可中 始千三郎明和元年十月廿日歿す歳五十四深川淨心寺に葬る

山村儀右衛門 五登 始吉三と云後山村光藏といふ享和三亥年正月五日歿す歳六十八

まの部

松本幸四郎 錦升 五代目實子幼名錦子後市川高麗藏文月廿九日歿す歳五十七駒込寺町榮松院に葬る(元祖幸四郎は元祿の始江戸に出久松多四郎の門弟小四郎と云ふ後松本小四郎と改む若女形也元祿十二年より立役と成り享保元年五月松本幸四郎と改名江戸實事師の名目の始後剃髪して小見川と云)

松本幸四郎 海丸 四代目團十郎に成る仍て市川の部に記す

松本幸四郎 海子 五代目團十郎に成る仍て市川の部に記す

松本幸四郎 錦江 始瀬川仙魚門人金吾後錦治と改む享和本所押上大雲寺に葬る(此幸四郎の一体大坂の生れにて色子なりしか目見得申出奔して江戸高輪の姉のもと引手茶屋いねやと云)を便りて來り姉の止めるを聞かずして延享二年の冬瀬川菊次郎仙魚の弟子と成瀬川金吾と名乗り同四年十一月初舞臺實曆二年錦次と改實曆七年冬五粒の弟子と成り市川武十郎と改同十二年市川染五郎と改め江戸へ歸り同十三年春市川高麗藏と改む其後安永元年十一月師の情を以て松本家の養子として四代目幸四郎と成る此人伎藝に於ては古今稀成名人にして舞臺の仕ぐさの數々工夫して今に其形を殘せし程の名人なれど心さまのよからぬ上皮肉者にて數度仲間といさかひ多く殊に師の市川を押領せんと種々の悪巧より遂に五代目團十郎と改む和を生し享和元年二月絶交して男女川京十郎と改む是等より益々人の憎みを受け何者にか疵を負せられ夫れか爲に死せしと云)

松本よね三 文化二年六月十一日歿歳三十二深川本誓寺中乗性院に葬る

松本よね三 文政三年辰七月十一日歿す歳廿五寺同上

松島茂平次 其定 道外形の名家號大黒屋明和二酉年十月六日歿す歳六十六深川法乘院に葬る

ふの部

藤川武左衛門 逸選 京都の人享保十四酉年三月三日歿す歳百十二

藤川平九郎 逸風 武左衛門孫四代目坂東又九郎二男幼名大吉享保六年平九郎と改實曆十一年巳七月四日歿す歳六十四

藤川八藏 八甫 平九郎子幼名八太郎安永六酉年十二月廿九日歿す歳四十一

藤田長左衛門 晩花 幼名安之助京の人享保元申年六月十四日歿す歳四十八

あ の 部

元祖 嵐三右衛門 攝津尼ヶ崎の人本姓西崎氏元祿三年十月十八日歿す歳五十六(元祖嵐三右衛門は大坂根生の太夫元六法は家の藝は江戸にて丹前と云ふと云ふけいせい小夜嵐といへる狂言にて始め西崎三右衛門と云ふけいせい小夜嵐といへる狂言にて始め西崎三右衛門人嵐々と呼びければ自然と苗字と成り今此道に嵐と名乗る者皆此家より出ざるはなしされは實非其角も浪花におりし時「諸人や嵐芝居を冬こもり」又二代目三右衛門を稱美して「うぐひすの子は子なりけり三右衛門」此二句とも五元集に出たり又顔見世といへるは此三右衛門より始る老の樂(二代目團十郎日記)に享保十九年正月元日翁渡しに嵐三右衛門事見物衆へ初て御目見得我ら引合せ三右衛門口上先年祖父三右衛門御當地へ罷下り候時は西崎三右衛門と申候處其頃丹前と申事御坐候夫を六法に致し候て其六法の内に花に嵐と申すせりふ人々様の御氣に入候てぢひ三右衛門町を通り候時はヤレ嵐が通るいよあらしと御はうびに預り候故夫より直に苗字に改め嵐三右衛門と申候三代迄座元仕候もお江戸町中様か嵐と申苗字を貰候故と難有奉存候御馴染の團十郎同前に御ひるき願上云々斯くあれは嵐と改めし江戶にての事なりけらし此春の出勤は市村座にて委隅田川といへる名題にて御目見得不當りと歌舞妓年代記に見えたり此冬上坂す是三代目三右衛門なり)

元祖 嵐三右衛門 紫朝 三代目三右衛門の始女形嵐小六後八年八月廿六日歿す(五代目三右衛門は始め吉田小六京地子供芝居へ出で享保十二年冬三代目三右衛門弟子と成り嵐小六と改め延享四年中村座へ下る此時近邊の髪結床二十一ヶ所へ若松に角切の内小の字の染髪屋を出すこれより女形上り下りに暖簾を配る後には立役も配る事となれり寛延四年上京此時小六染髪行實曆十三年大坂三樹大五郎座にて若女形立役と二枚の着袴を出す(今云加役といへるものは此小六と元祖梅幸とか始也)明和六年立役と成り嵐三右衛門と改め安永四年一世一代山姥快重九俸維吉勤む)

二代目 嵐三右衛門 實子幼名助太郎元祿十四巳年十一月七日歿す歳四十一

三代目 嵐三右衛門 杉鳥 二代目の子後新平實曆四年戊十月十日歿す享年未詳

四代目 嵐三右衛門 杉風 三代目實子幼名之助明和二年七月八日歿す歳廿六

五代目 嵐三右衛門 紫朝 三代目三右衛門の始女形嵐小六後八年八月廿六日歿す(五代目三右衛門は始め吉田小六京地子供芝居へ出で享保十二年冬三代目三右衛門弟子と成り嵐小六と改め延享四年中村座へ下る此時近邊の髪結床二十一ヶ所へ若松に角切の内小の字の染髪屋を出すこれより女形上り下りに暖簾を配る後には立役も配る事となれり寛延四年上京此時小六染髪行實曆十三年大坂三樹大五郎座にて若女形立役と二枚の着袴を出す(今云加役といへるものは此小六と元祖梅幸とか始也)明和六年立役と成り嵐三右衛門と改め安永四年一世一代山姥快重九俸維吉勤む)

七代目 嵐三右衛門 紫朝 二代目小六男初八十次郎寛政九年叶め文政元年四代目小六と改め同八年七代目三右衛門文政九年戊十一月十五日歿す歳四十四大坂中寺町藥王寺に葬る

元祖 嵐小六 杉鳥 五代目三右衛門實子幼名若次郎後維助一六年七月廿六日歿す年七十七大坂谷町一丁目法妙寺に葬る(小六は若女形の上手實曆三年維助と改安永四年元服して六代目三右衛門と改名し立役と成り同九年江戸森田座え下り其後嵐小七俳名眠獅又小六と改む是れ所謂小六玉なり後年剃髮して是心と法號す此小六維助一世一代)

元祖 淺尾爲十郎 奧山 淺尾元五郎弟子實惡の上手幼名万吉又爲吉實曆七年爲十郎と改家號錢屋文化元子年四月七日歿す歳七十

二代目 淺尾爲十郎 山子 初代奥山の子初名奥次郎文化三寅年七月廿五日歿す歳廿八

元祖 淺尾工左衛門 鬼丸 始め竹田太四郎後中山太四郎と改む其後初代奥山門人となり工草堂寺に葬る(鬼丸の明和の頃竹田子供芝居へ出勤仁三郎と云安永の末より中山橋藏弟子と成り太四郎と改む是二代目中山太四郎なり天明二年黒谷文七一世代の時唯子方にて出其後中の芝居にて實惡評判能く追々出世して寛政五年仔細有て師匠橋藏は泉川と苗字を改め此太四郎は朝井工左衛門と氏名を定め七年冬元祖淺尾爲十郎門人となり中の芝居に淺尾工左衛門と改め出勤は大芝居出勤の始なり享和三年十一月市村座へ下り文化三年歸坂又勤五年春中村座へ下り同十三年八月桐座へ下り座頭實悪老人事の名人と稱せらる中村梅玉も此人を眞似たり家號金田屋と云)

二代目 淺尾工左衛門 幼名大谷友次後柴崎林左衛門文政年中村座へ下る弘化二己年九月十一日大坂に歿す

元祖 淺尾與六 初代爲十郎門人幼名丹平後友藏又淺尾内匠後又與六俳名一甫家號淺田屋嘉永四年十二月九日三州吉田にて歿す大坂中寺町本行寺に葬る歳五十五

二代目 淺尾與六 初代門人初名半五郎後山村内匠又後與六近江の生れにて世に近江與六と云文久二戌年十月八日歿す年四十九今戸本龍寺に葬る

幾度となくせしかば落詞に「ひな助は角で一代中二代堺三代京で四次第」

二代目 嵐小六 眠獅 元祖小六の子初維助後叶三左衛門後小六樂屋にて石川五右衛門利休石田局此稽古中吐血して死す歳五十六大坂谷町一丁目法妙寺に葬る

二代目 嵐雛助 眠子 二代目小六の子初嵐秀之助ひと比三代目市村座へ下り同十三年二月四日歿す歳廿八深川淨心寺中善應院に葬る

三代目 嵐雛助 叶升 初名小三郎後小七と改又三代目維助となる文化十四年春市村座へ下り同年九月十七日歿す歳二十二深川淨心寺中善應院に葬る

元祖 嵐三三郎 雷子 京岡崎村の人本姓島田幼名喜之助初嵐子と成る元文四年七月十二日歿す歳五十三

二代目 嵐三五郎 來芝 初代三五郎男富三郎俳名初め雷子後來芝家號京屋寛政九年剃髮して蜜巖と云後東岡崎に閑居す享和二戌年五月六日歿す歳七十二

三代目 嵐三五郎 雷芝 二代目の男初名松之助寛政九年三五郎と改め文化十一年冬市村座へ下る歿年未詳

四代目 嵐三五郎 雷子 三代目の子幼名三四郎後七代目三升門に入り市川三十と改め後三五郎天保八年六月廿九日歿す歳三十四大坂下寺町源聖寺に葬る

元祖 淺尾爲十郎 奥山 淺尾元五郎弟子實惡の上手幼名万吉又爲吉實曆七年爲十郎と改家號錢屋文化元子年四月七日歿す歳七十

二代目 淺尾爲十郎 山子 初代奥山の子初名奥次郎文化三寅年七月廿五日歿す歳廿八

元祖 淺尾工左衛門 鬼丸 始め竹田太四郎後中山太四郎と改む其後初代奥山門人となり工草堂寺に葬る(鬼丸の明和の頃竹田子供芝居へ出勤仁三郎と云安永の末より中山橋藏弟子と成り太四郎と改む是二代目中山太四郎なり天明二年黒谷文七一世代の時唯子方にて出其後中の芝居にて實惡評判能く追々出世し

二代目 淺尾工左衛門 幼名大谷友次後柴崎林左衛門文政年中村座へ下る弘化二己年九月十一日大坂に歿す

元祖 淺尾與六 初代爲十郎門人幼名丹平後友藏又淺尾内匠後又與六俳名一甫家號淺田屋嘉永四年十二月九日三州吉田にて歿す大坂中寺町本行寺に葬る歳五十五

二代目 淺尾與六 初代門人初名半五郎後山村内匠又後與六近江の生れにて世に近江與六と云文久二戌年十月八日歿す年四十九今戸本龍寺に葬る

嵐音八 和孝 初代三五郎門人初音之助後音八家號藤子屋中村座へ下り上吉の道外方此道化にて一暮持場有りし程なり明和六丑年三月廿五日歿す歳七十二深川淨心寺に葬る

嵐七五郎 舍丸 初代七五郎の子始龍藏後市川龍藏實曆八年七五郎と改む家號京屋天明八申年五月廿八日大坂に歿す歳五十八

嵐七五郎 始龍藏二代目七五郎弟子寛政十戌年十一月五日歿す歳三十八深川玉泉院に葬る

嵐吉三郎 里環 初名竹田吉三郎又坂田と改め寶曆八年五月嵐吉三郎と改む安永九子年十二月六日歿す歳四十四大坂寺町法藏院に葬る

嵐吉三郎 璃寛 初代吉三郎三男幼名吉松寛政元年京西居初舞臺立身して歳五十六寺同上此人の寛政元年大芝負の連中を立舞臺も張合文化元年春中の座にて互ひに最退座し同五年仲直りして同座にて不和伴左衛門梅玉名古屋山三郎環寛此狂言中舞臺にて日々の争ひ夫か爲稀成大入大當り此時芝翫柱璃寛と云をひるき連木戸前へ建たり此興行中又破れて歌右衛門退座す是より絶交して終張合て牛角の評なり文政四年二月吉の字揮り有て橋三郎と改め同年五月子細有て俳名の璃寛を以て名とす世の人人大璃寛と云同年秋十四年目にて梅玉と和睦し中の芝居へ同座にて看板も出しが後、忽ち病死

嵐猪三郎 環子 初代吉三郎三男中村十藏門人中村太三(實子大三郎は後三代目吉三郎と成る此猪三郎弟則里環二男竹本中太夫兄冠子と同年九月十日死歳五十九)文政八酉年五月十三日歿す歳六十法藏院に葬る

よく天保四年大坂角の座へ伊丹屋璃寛引立にて出勤此時嵐徳三郎と改名同十年女形より立役となり同十四年中の座にて嵐璃寛と改め嘉永四年十一月河原崎座へ下る此時市川海老藏引合せの口上有り

嵐璃光 初名中村里江後二代目吉三郎門弟璃光と改む家號伏見屋天保九戌年九月廿六日歿す歳五十六

嵐璃珪 大坂道頓堀芝居茶屋豊重の子幼名市太郎目徳璃寛の預り弟子初名芳三郎天保二年璃珪と改む嘉永五年十一月河原崎座へ下り同七年上坂元治元子年七月十四日發狂して死す年五十二

嵐和歌野 享保十三申年五月廿日歿す谷中瑞林寺塔中玄妙院に葬る

吾妻東藏 園枝 狂言作者中村清七の子初め湯島天神の東藏家號吾妻屋享保元申年九月五日歿す歳五十二谷中三崎一乘院に葬る

吾妻藤藏 園枝 初代東藏弟幼名清之助安永四未年四月十一日歿す歳五十三谷中三崎妙園寺に葬る(父清七歿後八代目羽左衛門子分となり橋作と云元祖東藏後家へ養子と成二代目相續して享保十五年二月市村座へ藤藏にて初舞臺後仔細有て藤藏と成後實曆六年目生島大吉と改む翌年和談して元の藤藏と成後實曆六年五妻文字大夫の名前の儀に付故障有り右苗字不相成旨に付同年八月總角林彌と改名す然るに同年十月吾妻の姓無構由御さたよ付舊名と成る)

吾妻藤藏 園枝 幼名富五郎安永八年羽左衛門弟子と成り藤藏と改む此時橘の紋を譲る寛政十午年十一月五日大坂に歿す歳三十八

嵐猪三郎 慶舎 初代東方宮寛政八年大坂木座へ上り(此人京二條新地の出生父は生島岩五郎三代目尾上菊五郎と改め夫より冠十郎同十二年市村へ下り天保十二年猪三郎と改む弘化三年午七月晦日歿す歳七十二田三丁目蓮光寺に葬る)二代目猪三郎實子冠之助病身に付役者止め五渡亭園貞門人と成歌川國春と云早世今人形町講草紙商具足屋とて今に繁昌せり

嵐吉三郎 麟昇 二代目吉三郎兄弟猪三郎の實子幼名大三(天保十年市村座へ下り弘化三年上坂嘉永二年又下り安政二年上坂後大立者となり元和元年九月廿八日歿す歳五十五)

嵐 璃寛 俳名初め璃珪家名伊丹屋天保八酉年六月十三日歿す歳五十六大坂初常源寺に葬る(大坂新町の出出生嵐猪三郎門人初名徳三郎享和元年子供芝居へ初て出的文化十年の頃評判能く追々出世し文政二年徳三郎の事有て嵐猪三郎と改め翌年五月又元の徳三郎と改名同三年辰十一月江戸中村座へ下り奴矢田井筒の立廻り大出来身分は實惡所に居大坂にても目か大きくて小柄故梅玉によう似たりとて目徳と評判せり文政五年大坂中の座へ登る是は師の死去に付俄に歸坂す此時先師の橋三郎の名を相續す文政十一年璃寛と改め同一年五月京東芝居にて梅玉と初ての一座同年秋大坂角の座へ出勤翌十三年春同座にて太功記三目玉(梅玉白猿璃寛三人)古今の當り是より皆人夫目璃寛と云天保八年西五月筑後芝居にて利生記源八郎狂言中死去)

嵐 巖獅 始壽三郎家號葉村屋文久三亥年四月廿一日歿す歳五十二大坂坂町法善寺に葬る(此人京二條新地の出生父は生島岩五郎三代目尾上菊五郎門に入り尾上和三郎文政十年宮地芝居の若女形にて評判

さ の 部

澤村長十郎 宗慶 京都宮川町備中屋六郎右衛門の子澤弟幼名六之助後宗十郎と改め又長十郎と改名す和實の上手なり享保十九寅年正月廿四日歿す歳五十五

澤村長十郎 慶興 元祖弟分實は子なり幼名長三郎元文四年正月廿三日歿す

澤村宗十郎 訥子 本姓三木藤五郎京都の産澤村家中興日歿す歳七十三淺草新寺町長遠寺に葬る(正徳四年正月三日喜十郎とて伊勢古市の芝居初舞臺享保二年元祖長十郎門に入り澤村善五郎と改め大芝居初舞臺同二年宗十郎と改む三月中村座へ下り此時惣十郎と改む(徳廣御諱の宗の名を憚り)後元の宗十郎に改め延享三年澤村長十郎と改名實曆三百年十一月助高屋高助と改む又享和十七年中村座顔見世に狂言作者澤村宗十郎と看板を出せり)

澤村宗十郎 訥子 元は富澤門太郎弟子富澤長之助後女門に入り澤村四郎五郎俳名曙山寛延二年十一月宗十郎と改名俳名龜音後訥子に改む明和七寅年八月晦日歿す歳五十八京都智恩院内松宿巷に葬る

澤村宗十郎 訥子 元は富澤門太郎弟子富澤長之助後女門に入り澤村四郎五郎俳名曙山寛延二年十一月宗十郎と改名俳名龜音後訥子に改む明和七寅年八月晦日歿す歳五十八京都智恩院内松宿巷に葬る

澤村宗十郎 訥子 元は富澤門太郎弟子富澤長之助後女門に入り澤村四郎五郎俳名曙山寛延二年十一月宗十郎と改名俳名龜音後訥子に改む明和七寅年八月晦日歿す歳五十八京都智恩院内松宿巷に葬る

澤村宗十郎 訥子 元は富澤門太郎弟子富澤長之助後女門に入り澤村四郎五郎俳名曙山寛延二年十一月宗十郎と改名俳名龜音後訥子に改む明和七寅年八月晦日歿す歳五十八京都智恩院内松宿巷に葬る

三代目 澤村宗十郎 訥子 二代目宗十郎二男二代目高助弟家説  
す歳四十九淺草菅願寺地中受用院に葬る(幼名田之助實  
曆九年十一月八日父病氣の癒病中蔵三郎雷子へ田之助  
へ登る翌七年八月父病氣の癒病中蔵三郎雷子へ田之助  
事を頼みに付厚く世話致明和八年三樹徳次郎座にて三代  
目宗十郎と改め安永六年十一月森田座へ下り寛政三年十  
月上坂同五年春中村座へ下る此訥子に二女有り長女澤村  
東藏妻)

四代目 澤村宗十郎 訥子 三代目長男幼名源之助(家に無き源  
いへる人名付親と成て源之助と付たり)文化元年申年十二  
月八日歿す歳三十九菅願寺地中受用院に葬る(安永九年  
中村座顔見世初臺舞文化八年十一月四代目相續して宗十  
郎と改名此時日本橋小田原町より宗十郎へ引幕を送る小  
田原町より宗十郎と改めし事といへる文字の詩人大窪天民の書  
きしなり人々珍らしき事といへり此訥子は幼少より其性  
質活達なる氣象ありて金銭の出入を知らず亦藝道も上手  
にて和實の名譽あり其中五大力の源吾兵衛曾我祐成伊達  
の頼兼等は尤妙手と云又ひみき多く人氣あるは此頃並ふ  
者なしといへりね玉が池の淺田某は殊に愛して多くの費  
を補しか又深川八名川町へ新に家作をなして訥子樓とい  
へるを造れりこの時額面に訥子樓と書認めさせると訥子  
自分の名の樓へ訥子と書もいがかと思ひしに頼兼書と認  
めけるに淺田氏も感服せり後蜀山翁この事を假名世説に  
洩せしは残念なりといはれし由訥子はあまり奢に長し借  
財の爲に此八名川町の家も遂に人に譲り其身は松本幸四  
郎へ同居せり(幸四郎はさうとなり)後和泉町にて死せり  
然るに柳川町の地主其他の者も斯る有名の者を他町より  
葬式出しては當町の辱耻また人別も此町内にあれば旁以  
て當方より引取り佛事のいとなみすべしと掛合の上終に遣  
骸を柳川町家主源助店へ引取十二月十二日此所より立派

元祖 澤村國太郎 其答 初代高助門弟澤村長四郎子幼名長吉  
弟子近世若女形の名家文化二年四月角の座にて一世一代  
關寺小町を勤め隱居薙髮して神路館海老磨と號し文政元  
寅年七月二日歿す歳八十大坂寺町圓融寺に葬る

三代目 澤村國太郎 其答 澤村千鳥弟初め吉松文化九年三月七  
日歿す歳三十六

四代目 澤村國太郎 幼名仙之助嘉永二酉年十一月十六日歿す歳  
三十六大坂中寺町圓妙寺に葬る

元祖 澤村惣十郎 遙波 元祖訥子門弟初澤村春五郎俳名龜音  
書改む澤村家代々の内に入らざる由澤村家賀美にいへり  
寛延元辰年閏十一月廿一日早世谷中大行院に葬る

元祖 澤村宇十郎 文福 杵屋宇右衛門子始吾妻此兵衛後初代  
訥子門に入り宗十郎と改む明和三年  
四月十六日歿す歳四十四本所妙源寺に葬る

二代目 澤村宇十郎 初代子始七十郎安永二亥年正月十六日歿す  
本所妙源寺に葬る

澤村藤藏 初萩野東藏寛政四年中村座へ下り同八年訥子  
門に入四郎五郎と改め養子聲と成る文政四年  
東十郎となり又元の四郎五郎と改め又遮莫となる家號川  
瀧屋天保三年辰七月六日歿す

元祖 坂田藤十郎 車連 父は越後の産藤右衛門子大坂にて續  
狂言を始しは此藤十郎を祖とす夕霧  
名殘の正月に名高し寶永六丑年十一月朔日歿す歳六十三  
二代目 坂田藤十郎 車連 元祖藤十郎門弟元坂田長右衛門と云  
是を世に伏見藤十郎と云ふ享保九年  
辰九月廿七日歿す歳五十六

二代目 澤村田之助 曙山 三代目宗十郎二男初名義之助文化八  
年十一月二日歿す歳三十三菅願寺地中受用院に葬る  
寛政七年十一月八日父病氣の癒病中蔵三郎雷子へ田之助  
坂同五年中村座へ下り同十年九月上坂同十一年正月大坂  
角の座にて朝顔日記の功績後曾我朝顔の役田之助  
は元來三線とも能く且つ美聲なれば此役にて大に名  
前を上げ大評判にて此朝顔の狂言此時始なり  
ひしもの數多有り朝顔の狂言此時始なり

三代目 澤村田之助 曙山 三代目助高屋高助二男幼名山太郎明  
治十一年七月七日歿す歳三十四  
願寺地中受用院に葬る(嘉永二年七月七日歿す歳三十四  
目道行千種花旅路嫁入小なみ初舞臺時に五才(此道行  
遠見にてとな瀬源平角内ふじ蔵宮本費前連中)安政六年  
正月中村座にて三代目田之助と改め万延元年八月守田座  
にて立女形時に歳十六才(五代目田之助の丞も十六才にて立  
女形に進み十七才にて座頭を勤む昔より十六七才にて女  
形座頭より脱疽を惱む同三年春切斷して繼足の器を用ひ  
五年全快して三座を掛持し勤む同五年三月村山座(市村  
座跡座主又三郎)にて一世一代を勤め同年六月中橋座々  
主に成同八年五月再勤して大坂中の座へ下り(同九月大  
坂中の芝居出勤舟中の口上にて明鳥の浦里を勤む大當り  
次狂言日高川清姫此時中村宗十郎と口論して益々大評判  
なり)同九年五月歸國の道より病氣重り十七年春頃より  
終に發狂して一室に籠り淺草田浦の家歿す)

三代目 坂田藤十郎 車連 射連 元三條勘太郎弟子三條半彌と  
四郎と改め元文四年三代目藤十郎と改む安永三年八月  
十六日歿す年七十四奥州仙臺にて終る

元祖 坂田半五郎 杉曉 二代目坂田藤十郎門弟實惠の上手家  
號正月屋享保九卯年五月廿五日歿す  
年五十三谷中瑞輪寺に葬る

二代目 坂田半五郎 杉曉 初仙石彦助弟子彦十郎と云又二代目  
と改め寛延二年春二代目半五郎と成り後半五郎門に入り市彌  
七日歿す歳五十九深川淨心寺中正行院に葬る

三代目 坂田半五郎 杉曉 幼名坂東熊次郎後熊十郎天明三年三  
代目相續して半五郎と改め後役者を  
止め新宿へ伊豆屋といへる遊女屋を出す後又再勤す寛政  
七卯年十月十九日歿す歳三十九深川正行院に葬る

二代目 坂田佐十郎 杉弟 二代目半五郎弟初富五郎明和七寅年  
五月三日歿す歳四十一深川淨心寺地  
中正行院に葬る

西國兵五郎 可樂 初西國東五郎後兵五郎と改む道外方  
の名人實永二酉年十二月九日歿す歳  
五十伊皿子長安寺に葬る

佐野川万菊 藤川繁右衛門弟子十吉後佐の川に改む若女  
形立者なり元祖中村十藏兄寛延元辰年七  
月十九日歿す歳五十八洛東妙傳寺に葬る

佐野川市松 盛府 元祖万菊門弟幼名甚之助家號新万屋  
實曆十二年十二月五日歿す歳四十  
一谷中瑞輪寺塔中玄妙院に葬る(市松は伏見に生れ京四

條南側芝居掛り甚敷養子と成り佐野川万菊の門に入り市松と云元文二年子役黒の上吉の若衆形寛保元年春中村座へ下り高野山心中に小性糸之助の衣装に石畳の袴を着し奇麗なる若衆大に評判能市中にて此石畳を着る女はなき程に流行す皆人市松染といひはやせり

二代目 佐野川市松 始坂東愛蔵市村羽左衛門弟子明和四年冬市松と改天明元年立役と成り又松本山十郎と改めて色悪と成り同四年元の愛蔵になる天明五年八月終る

元祖 榊山小四郎 仙山 榊山平右衛門養子初平四郎元高橋氏延享四年六月十五日歿す歳七十七洛東妙傳寺に葬る

二代目 榊山小四郎 仙聲 初代の養子初四郎太郎後驚助と改む明和五年正月九日歿す歳七十二寺同上

三代目 榊山小四郎 仙芝 二代目實子初女形千太郎後四郎太郎と改む後立役と成り親の驚助と改し時三代目を相續す明和四年七月二日歿す歳四十四

四代目 榊山小四郎 仙山 二代目小四郎の二男初十太郎後八十二又四郎太郎明和四年冬小四郎と改む明和五年三月七日歿す歳二十九

佐渡嶋長五郎 蓮智坊 中興所作事の祖一世の事佐渡島日記に在り後剃髪して蓮智坊と云寶曆七年七月十三日歿す歳五十八大坂中寺町藥王寺に葬る

三代目 三榊大五郎 其鶴 初芳澤龜藏天明八年初舞臺寛政十二清兵衛と改名文政七申年十月十七日江戸に歿す

四代目 三榊大五郎 龜光 三代目男幼名由龜後他人と改め文政三年中村座へ下り後梅玉の門に入り中村源之助文政五年三榊源之助と改む其後大五郎と改む俳名梅升家号京樹屋安政六年五月十三日歿す歳六十三大坂圓妙寺に葬る

三保木難波 芦船 初名さん彌元祿十七年難波と改め市村座え下る寶永七年二月六日歿す歳四十五三田魚藍藥王寺に葬る

宮崎傳吉 巴蝶 幼名傳三郎江戸根生やつしがたの名人あだ名してイヤ崎傳吉と呼べり寶永七年九月廿五日歿す歳五十九深川雲光院中常龍院に葬る

元祖 宮崎十四郎 巴十 初代傳吉門弟初女形式部と云元祿五年立役と成り十四郎と改む享保八卯年二月廿五日歿す歳五十七深川常龍院に葬る

二代目 宮崎十四郎 巴十 初代十四郎門弟初名十太郎(あててともない)と云せり此人が始む)明和六丑年正月九日歿す歳六十二深川常龍院に葬る

みの部

水木辰之助 歌蝶 始龍之助後文字を辰之助と改む元祿四年市村座へ初て下る同八年上坂延享二年九月廿三日歿す歳七十三(老の邊に寛保二年)

水木竹十郎 花艶 享保六丑年九月十七日歿す歳四十八下谷竹町常在寺に葬る(實惠の部)立たるは元祿の末敵役より分別したるなり享保五年水木竹十郎初めて色悪といふ事を始む是實惠の又餘流なり

水木富之助 勇梅 享保十三申年五月十一日歿す東本願寺中嚴念寺に葬る

元祖 三榊大五郎 一光 元祖わやめ門人芳澤玉妻弟子初芳澤め安永六年五月一日歿す歳五十八

二代目 三榊大五郎 黒稻 初代藤川八藏門弟藤川時藏と云大五年三月中の座にて二代目相續し大五郎と改む寛政五年四月廿六日歿す

元祖 森田太郎兵衛 藝名うなぎ太郎と云ふ本姓宇奈木とも云を起立す元祿十三年辰四月十日歿す歳六十七本所番場源寺に葬る(太郎兵衛は小唄作文の上手にして諸侯方へ召され俳優にあられと道化方の聞え高かりし坂東又九郎に與行を托し太郎兵衛實子なれば則又九郎二男又七郎を養子とし二代目相續し太夫とし勘彌と改名元祿六年此座を又九郎に譲り太郎兵衛隠居し友樂と改め元祿八年より太夫森田勘彌座元坂東又九郎兩名にて與行(因に云中村勘三郎家の記に太郎兵衛養子太七改又七は坂東又九郎二男勘三郎門弟と成勘彌と改む故に勘三郎家の狂言の内舎利と云を譲る云々此舎利は元三弦なし道化舞也)其後享保十一年より森田勘彌一名となる)

元祖 森田勘彌 坂東又九郎二男又七寛文八年より太夫役元祿十二年隠居し又九郎と改む享保十九年寅六月十九日歿す歳五十八寺同上

三代目 森田勘彌 二代目勘彌兄又次郎又吉寛文八年より太夫役元祿十二年三代目相續正徳二年辰二月廿四日早世歳廿八寺同上

四代目 森田勘彌 眞鳥 幼名鍋太郎坂東又九郎子正徳二年より太夫役を勤め享保八年隱居す寛保三年亥九月十七日歿す歳六十二寺同上

五代目 森田勘彌 杜光 幼名金藏享保八年より太夫役を勤む寛延三年十月廿三日歿す歳四十七寺同上

十三

六代目 森田勘彌 殘杏 五代目養子中村重助子初め淵中重の井後澤村小傳次實曆元年より太夫役を勤む安永四年三月坂東八十助と改め安永九年子五月十九日歿す歳五十七寺同上

七代目 森田勘彌 千蝶 六代目勘彌男幼名勘次郎安永四年より太夫元を勤む天明三年辰八月十日歿す寺同上

八代目 森田勘彌 漿花 六代目勘彌男又次郎後坂東又太郎天明三年家名相續して勘彌と改め寛政二年八十助と改む文化十一年亥二月廿四日歿す歳五十五寺同上

九代目 森田勘彌 喜幸 八代目勘彌弟後坂東又九郎排名珉舎寛政十年家名相續天保九年申七月十一日歿す寺同上

十代目 森田勘彌 賀尉 二代目三津五郎養子坂東三田八天保元年家名相續嘉永四年五月廿二日歿す歳四十五寺同上

十一代目 守田勘彌 秀朝 三代目三津五郎養子坂東養助後四代目三津五郎安政三年權再興十一代目勘彌と改む同五年五月守田と文字を改む文久三年十一月十八日歿す歳六十二寺同上

十二代目 守田勘彌 其彌 三代目三津五郎養子坂東養助後四代目三津五郎安政三年權再興十一代目勘彌と改む同五年五月守田と文字を改む文久三年十一月十八日歿す歳六十二寺同上

せ の 部

元祖 瀨川菊之丞 路考 大坂の薩摩屋吉次とて色子なり事保二年条之丞と改む昔女形の立者となり瀨川と改め同十歿す歳五十七本所押上大雲寺に葬る(巴年九月二日又瀨を付しに享保十年より結納の故に改む享保十五年十一月中村座へ下り石橋を勤め續て書問の領道成寺大當り家の藝と成る大江戸春秋に京の御入仙鶴濱村吉次の実地へ出てし時瀨川采女城州濱村の座にて妻と云ひしを附合して瀨川菊之丞と名付し云々と有り道成寺の所作事は此路考を以て祖とす是寛保四年春中村座にて勤しなり名題百千鳥娘道成寺と云)

二代目 瀨川菊之丞 路考 幼名權次武州王子村農家の伴元祖路考養子となり延寶四年吉次と改め寛延三年九月父一周忌石橋所作事初舞臺實曆六年春前之丞と改む世人王子路考と云ふ是也安永二年閏二月十三日歿す歳三十六本所押上大雲寺に葬る

三代目 瀨川菊之丞 路考 二代目菊之丞養子初市山富三郎と云本所押上大雲寺に葬る(安永三年二月四日歿す歳六十一富三郎と改む排名玉川二代目退高道成寺を勤め同年十一月養子と成り三代目菊之丞と改む寛政十三年五月菊之丞の事有て瀨川路考と改め文化四年十一月養子菊之丞に四代目菊之丞を譲り其身は仙女と改む依て仙女路考とも云ふ女形にて大太夫と呼ばせしは此路考に始る又濱松屋大明神と云へるも此太夫か事也安永九年秋仙女山姥と金太郎を勤めし時元祖坂東三津五郎舞臺へ譽詞に出て濱村屋大明神さまといひし也)

二代目 關 三十郎 歌山 幼名嵐宗太郎中村梅玉の門人となり名跡を嗣きて二代目と稱す(初代三十郎はさしたる役者にあらず)名人三十郎といふ是なり天保十年九月廿八日歿す歳五十四

三代目 關 三十郎 歌山 藤間勘兵衛子幼名勘五郎七代目自猿市川八百藏となり同十一年三代目關三十郎となる明治三年十二月十八日歿す歳六十六

四代目 關 三十郎 歌山 幼名花助二代目養子元治元年六代目市川八百藏となり七月十日歿す歳五十二

五代目 瀨川菊之丞 路考 四代目養子幼名多門瀨川菊三郎(後瀨川)子號東籬園多門路考と云天保三年正月六日歿す歳三十一本所押上大雲寺に葬る(文化九年十月結城座子供芝居へ出勤同十四年二月十日座初舞臺若井半四郎鳥帽子親にて同十二年十一月五日相續菊之丞と改む時八月十四歳仍て此後瀨川の名跡の岩井よりゆゆるす同十四年八月同座にて一の谷嫩軍記に相摸菊之丞(熊谷片岡仁左衛門)十六才にて立女形二番目に小春役時代世話大出来此頃より二代の濱村大明神といへり

四代目 瀨川菊之丞 路考 三代目養子幼名伊之助猿屋路考是なり文化九年十一月廿九日歿す歳三十一本所押上大雲寺に葬る(木挽町芝居茶屋猿屋伊八十一本所押上村大雲寺に葬る)寛政七年十一月月中村座瀨川富三郎と改む(初舞臺は寛政四年一月原崎座瀨川富三郎高尾禿てりふ十才也)同十一年一月三世路考養子と成菊之助と改め享保元年五月菊之字憚る事有て路之助と改む排名路曉後排名路考と名乗り又菊之丞と改む)

五代目 瀨川菊之丞 路考 四代目養子幼名多門瀨川菊三郎(後瀨川)子號東籬園多門路考と云天保三年正月六日歿す歳三十一本所押上大雲寺に葬る(文化九年十月結城座子供芝居へ出勤同十四年二月十日座初舞臺若井半四郎鳥帽子親にて同十二年十一月五日相續菊之丞と改む時八月十四歳仍て此後瀨川の名跡の岩井よりゆゆるす同十四年八月同座にて一の谷嫩軍記に相摸菊之丞(熊谷片岡仁左衛門)十六才にて立女形二番目に小春役時代世話大出来此頃より二代の濱村大明神といへり

四代目 瀨川菊之丞 路考 三代目養子幼名伊之助猿屋路考是なり文化九年十一月廿九日歿す歳三十一本所押上大雲寺に葬る(木挽町芝居茶屋猿屋伊八十一本所押上村大雲寺に葬る)寛政七年十一月月中村座瀨川富三郎と改む(初舞臺は寛政四年一月原崎座瀨川富三郎高尾禿てりふ十才也)同十一年一月三世路考養子と成菊之助と改め享保元年五月菊之字憚る事有て路之助と改む排名路曉後排名路考と名乗り又菊之丞と改む)

三代目 瀨川菊之丞 路考 二代目養子初市山富三郎と云本所押上大雲寺に葬る(安永三年二月四日歿す歳六十一富三郎と改む排名玉川二代目退高道成寺を勤め同年十一月養子と成り三代目菊之丞と改む寛政十三年五月菊之丞の事有て瀨川路考と改め文化四年十一月養子菊之丞に四代目菊之丞を譲り其身は仙女と改む依て仙女路考とも云ふ女形にて大太夫と呼ばせしは此路考に始る又濱松屋大明神と云へるも此太夫か事也安永九年秋仙女山姥と金太郎を勤めし時元祖坂東三津五郎舞臺へ譽詞に出て濱村屋大明神さまといひし也)

二代目 助高屋高助 高賀 二代目宗十郎長男三代目宗十郎兄弟幼日奥州福嶋にて興行中病死年七十二福嶋東岩寺に葬る(寶曆八年初舞臺明和四年四郎五郎と成り同六年十一月二代目菊之丞門に入り瀨川増吉後雄次郎排名路舟若女形を勤め後安永六年子細有て立役と成元の四郎五郎と改同八年二代目團十郎弟子と成三代目市川八百藏と改享和元年

元祖 助高屋高助 初名澤村宗十郎仍てさの部に記す元祖宗十郎の條を見よ

す の 部

元祖 助高屋高助 初名澤村宗十郎仍てさの部に記す元祖宗十郎の條を見よ



(丁) (段) (誤) (正)

一才下 内田陶丘の下 文化成ハ 文化五  
 二才上 宇田川支離の下 文政六ハ 文政九  
 同ウ下 梅屋崎場の下 正念觀妙ハ 稱念觀名  
 三才上 梅澤台陽の下 蓮花ハ 蓮華  
 同ウ下 鳥石葛辰の下 大佛ハ 大師  
 同ウ上 野田醉翁の下 十六ハ 十二  
 四才下 久保品齋の 品ハ 虛  
 同ウ上 栗山潜峰の 峰ハ 録  
 右の下 加茂真淵の四字ハ衍  
 五才上 草場船山の下 二年正ハ 廿年一  
 同ウ上 楠本雪溪の下 徳本寺ハ 宗恩寺  
 六才下 山田以文の下 名有考以豆ハ通稱阿波介  
 同ウ上 山内香雪の下 名普ハ 晉  
 七才下 山本北山の下 名信ハ 名信有の脱  
 同ウ同 山本剛洲の 關ハ 關  
 同ウ下 安田老仙の 仙ハ 山  
 八才上 前野默軒の 野ハ 場  
 同ウ下 圓山震ハ 應靈の脱  
 同ウ上 松岡支達の下 怒菴ハ 怒菴  
 九才下 松井羅月の下 廿六日ハ 廿二  
 同ウ上 藤田東湖の下 字贊ハ 斌  
 同ウ下 藤木敦直の下 甲斐ハ 甲斐  
 十二才上 藤森弘菴の下 粹然ハ 淳風  
 同ウ上 二山遊翁の下 義長ハ 道高  
 同ウ下 福王雪岑の下 心行ハ 淨心  
 十三才上 福嶋隣春の下 正念觀明ハ 稱念觀名  
 十四才下 小南圭助の 助ハ 介  
 同ウ同 近藤棠軒の下 十七ハ 廿七  
 十五才上 戀川春町の下 成覺ハ 成覺

(丁) (段) (誤) (正)

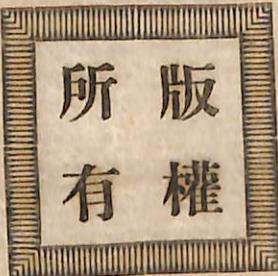
十五才下 江川垣庵の下 辰英ハ 辰英  
 右の下 右の下 英龍ハ 英龍  
 十六才下 赤松季二の下 正念ハ 稱念  
 十七才上 新井明郷の 郷ハ 郷  
 同ウ同 新井宣郷の 宣郷ハ 宣郷  
 同ウ下 安藤年山の下 爲定ハ 爲定  
 同ウ同 安藤冠里の 冠ハ 冠  
 同ウ下 阿武松縁之助の 縁ハ 縁  
 十九才下 兩森芳州の 州ハ 州  
 同ウ上 會田自在亭の 白ハ 白  
 廿才上 西郷南州の 州ハ 州  
 同ウ上 佐藤文永の 永ハ 永  
 廿一才上 猿山龍池の 池ハ 池  
 同ウ同 猿山惠江の下 名周曉の三字ヲ入ル 秀位  
 同ウ同 佐藤英女の下 英女ハ 英之  
 同ウ同 佐藤英雪の下 英女ハ 英之  
 廿四才下 北川眞順の下 光園ハ 光園  
 同ウ下 喜多武清の下 承教寺云々ハ清林寺 光園  
 同ウ同 北靜虛の 虛ハ 虛  
 廿五才上 木下蘭所の 蘭ハ 蘭  
 廿七才下 箕作阮甫の下 淨正ハ 淨正  
 廿八才下 宮川南溪の 溪ハ 溪  
 同ウ下 都屋都樂の下 法恩ハ 法恩  
 廿九才下 司馬江漢の下 七十二ハ 八十二  
 三十才下 志賀蘭翁の下 藤怒ハ 藤怒  
 同ウ下 篠崎東海の下 谷中喜ハ 根岸善  
 卅一才下 清水清臣の下 泊々ハ 泊酒  
 同ウ同 清水動閑の下 道簡ハ 道簡  
 卅二才上 獅子菴蘆元の 蘆ハ 蘆  
 同ウ下 日尾荆山の下 大通ハ 大通  
 同ウ同 平林東嶽の下 淳徳ハ 淳徳

(丁) (段) (誤) (正)

卅三才下 平山書齋の下 名成信の三字ハ 稱  
 卅四才上 本居大平の下 振内職ハ 藤原内  
 卅五才下 瀨川如華の下 押上ハ 石原  
 卅七才上 菅原東海の下 長榮寺ハ 長榮院  
 同ウ同 菅茶山の下 賢徳ハ 賢徳  
 同ウ上 杉山清實の下 樹木容の上を脱ス 賢徳  
 同ウ同 杉山信一の下 後名用一を脱ス 賢徳  
 右の下 藤原ハ 藤原  
 卅八才下 鈴木英尊の下 十七日ハ 廿七日  
 同ウ下 鈴木常助の下 名助ハ 名助  
 拾遺下 村岡扇の下 津村ハ 津村



明治二十七年八月十日印刷  
 同 二十七年八月十五日發行



著者 右相續者 兼校正者  
 發行者  
 印刷者  
 印刷所

故人 關根只誠  
 關根正直  
 吉川半七  
 曲田成  
 株式会社東京築地活版製造所  
 東京市京橋區築地二丁目十七番地  
 東京市京橋區南傳馬町壹丁目拾貳番地  
 東京市京橋區築地二丁目十七番地

定價金六拾五錢

名人忌辰錄

